

昭和60年版

数字で見る図書館活動

調布市立図書館

図書館の自由に関する宣言

図書館は、基本的人権のひとつとして知を自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確固に実践する。

- 第一 図書館は資料収集の自由を有する。
- 第二 図書館は資料提供の自由を有する。
- 第三 図書館は利用者の秘密を守る。
- 第四 図書館はすべての検閲に反対する。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは固執して、あくまで自由を守る。

社団法人 日本図書館協会

(1979年6月30日 総会決議(改訂)本文)

図書館は人類の遺産

館長 森 正 克

図書館は、かつて、権力者の所有物であり、その権力を誇示する象徴であった。したがって権力者が滅びれば、図書館は破壊され、図書は略奪され、散逸した。

そして新たな支配者の手によって、新しい豪華な図書館が生まれ、宮殿とともにその偉容を誇った。戦争…支配…戦争の歴史の流れの中で、権力者と運命をともにするというくり返しが図書館史のページをいろいろとるのである。

しかし、今日の図書館とりわけ公共図書館は権力者のためのものでもなく、また一部特権階級のためのものでもない。我々市民一人ひとりのものであり、いつでも、どこでも、誰でもが、自由に利用できるものである。

このことは、もう滅びることの許されない市民の殿堂である。図書館が滅びることは、民主主義が滅びることを意味する。

過日、東京都図書館協会の昭和60年度総会が都立中央図書館構堂で開かれた。席上、会長の前田陽一氏から、大変よいものを見せていただいた。

前田氏の友人から送られて来たというアメリカの切手である。

1982.1.13に発行されたというこの切手には、中央部分に「A B C X Y Z」の文字がデザインされ、その上下に、「America's Libraries Legacies to mankind」と明記されているものである。これがアメリカで通常市中で使用されている20セントの切手というから驚ろきである。「アメリカの図書館は、人類の遺産……」とでも訳せばよいのか。

いずれにしてもアメリカ国民の図書館に対する深い理解と、かぎりない期待を強く感ずると同時に、図書館を支える社会的背景のたのもしさを目のあたりに見せつけられた感じである。

アメリカ民主主義の底力を示すものであると大変感激したものである。

わが国においても、いま全国の自治体で年間100を超える図書館がつけられている。三多摩においても、昨年から東大和市、三鷹市、今年に入って八王子市、小平市と、アイデアと工夫をこらした新しい中央図書館が建設されている。

国、地方をあげて行革、財政の緊縮が叫ばれている中でのこの活況は、いかに図書館に寄せる地域住民の期待が大きいかを示すものであろう。

わが市も来年で図書館創設20周年を迎える。摸索そして躍進の時代を経……やがて展開の時代を迎えんとしている。図書館は、民主主義のため、「思索の宝庫」のために、市民の期待、要求を自己研さんに結びつけるという不断の情熱と無限の努力が課せられているのである。

このことを肝に銘じたい。

とよりもか しあゆみ なら な
桃李言わず、下自ら蹊を成す(史記)

目 次

序にかえて	1
I 調布市の概況	4
1. 人 口	4
2. 財 政	7
II 図書館の概況	12
1. 運営方針	12
2. 昭和59年度図書館重点事業	12
3. 図書館配置図	13
4. 各館別施設概況	13
III 各館の概況	16
1. 中央館(16) 2. 国領分館(18) 3. つつじヶ丘分館(20)	
4. 深大寺分館(22) 5. 神代分館(24) 6. 宮の下分館(26)	
7. 緑ヶ丘分館(28) 8. 富士見分館(30) 9. 若葉分館(32)	
10. 染地分館(34) 11. 佐須分館(36)	
IV 各館の事業	38
V 図書館の動き	42
1. 蔵書状況	42
(1) 年度別蔵書の推移	42
(2) 館別購入・寄贈受入・除籍冊数	42
(3) 館別蔵書整備計画	43
2. 登録状況	47
(1) 年度別・町別登録者数	47
(2) 館別・町別登録者数	47
(3) 年度別・館別登録者数	47

(4) 館別・職業別登録者数	47
(5) 市内小中学生の登録状況(昭和59年度調査結果)	61
3. 貸出状況	73
(1) 年度別貸出冊数	73
(2) 年度別・館別貸出冊数	73
(3) 館別団体貸出冊数	74
(4) 館別図書予約件数	74
VI 障害者サービス	80
1. 朗読サービス	80
2. 点訳サービス	81
VII 集会・学習活動	83
1. 集会・学習活動の状況	83
2. 行 事	83
3. 図書館まつり	85
4. 調布ブッククラブ	87
(1) 事 業	87
(2) サークル	89
5. 地域文庫	95
VIII 視聴覚ライブラリー	96
1. 事 業	96
2. 視聴覚機材・教材の利用状況	96
IX その他	98
1. 将来計画	98
2. 貸出制度と開館時間	100
3. 運営組織(館則、条例、規則、基準等)	102
4. 事務分掌表	111
X 年 表	113

1 調布市の概況

昭和30年4月調布町・神代町が合併し、人口4万5千余人の調布市が誕生した。

調布市の歴史は、自然が与えた野川沿いに始まり、そこは、先人が残した遺物が数多く発見され、縄文時代中期の土器も出土しており、奈良時代の万葉集には、「多摩川にさらす手づくりさらさらになにそこの児のこころ愛しき」とうたわれ、今も残る、布田、染地、といった地名が当時の人々の生活を象徴的にうつつだしている。更に江戸時代には、甲州街道(国道20号)沿いに宿場が設けられ、「布田五宿の貸座敷」として当時はかなり有名であった。

現在の調布市は、東京都のほぼ中央部、多摩地区の南東部に位置し、都心部へ約24kmの距離にある。また、副都心新宿へは西へ15km 私鉄(京王線)で15分、東西に京王線と甲州街道(国道20号)、ほぼ北東から西南にかけて中央自動車道が横断しており、典型的な近郊住宅都市である。地形は、南端の多摩川附近の低地から北に向うに従って高台となる段丘で、武蔵野台地と立川台地の上に広がり、深大寺附近は、武蔵野の面影を残す絶好の住宅地である。

面積 21.79 km²(東西約7km、南北5.7km)

位置 東経139度32分 北緯35度38分(市役所)

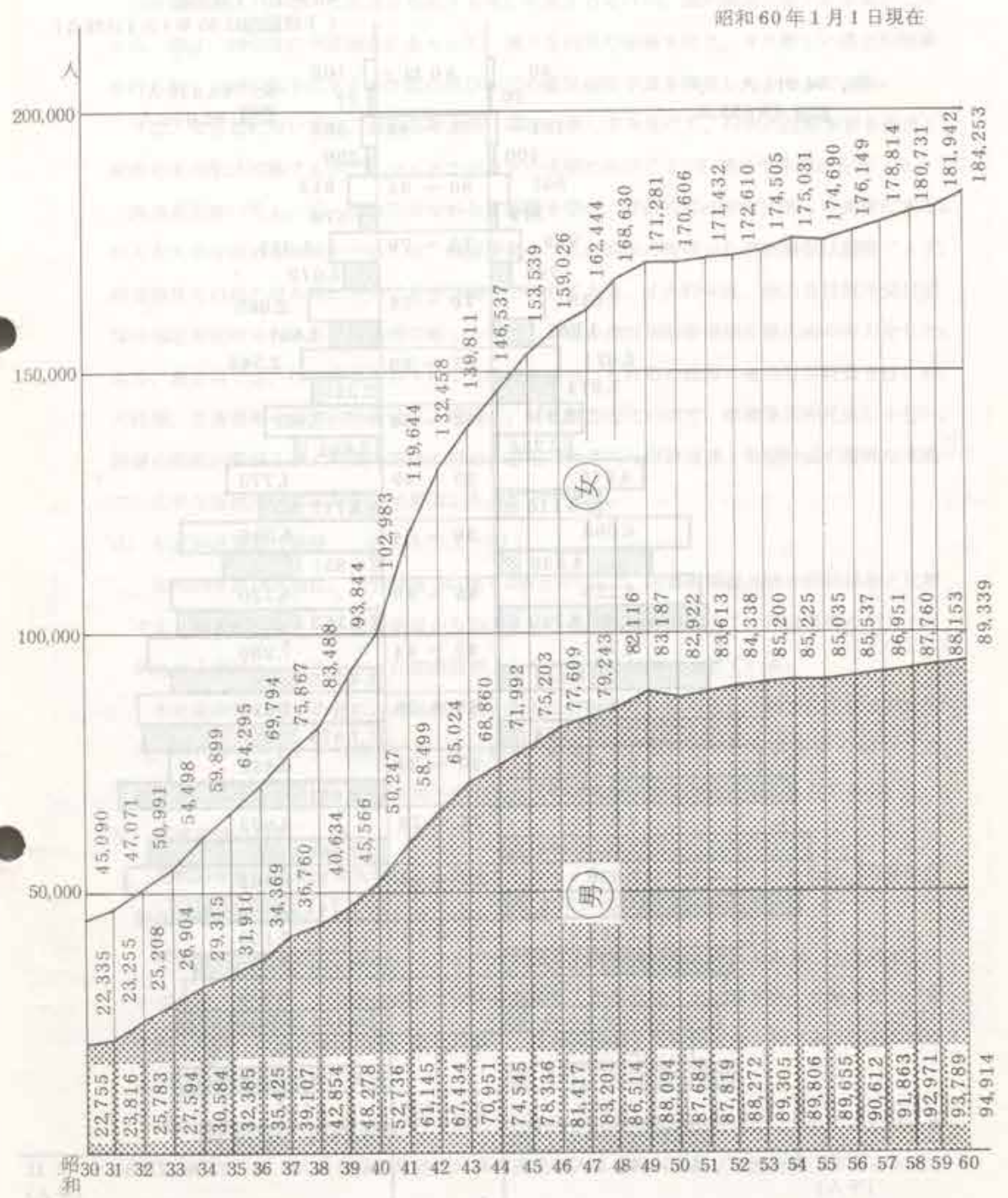


1. 人口表〔I-1〕

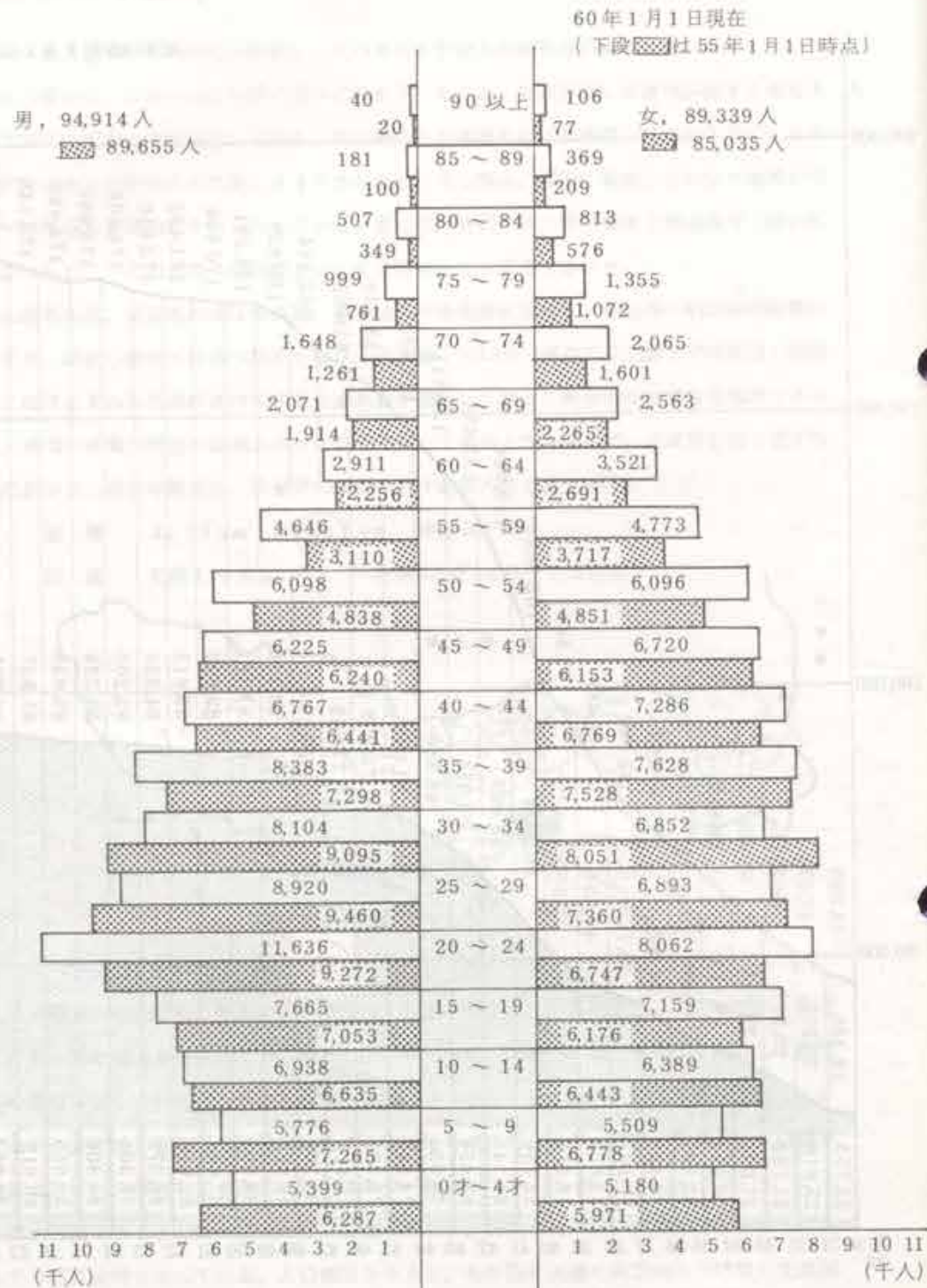
人口の分布状況を町別にみると、甲州街道(国道20号)と、それに平行して走る私鉄(京王線)に沿って市街地を形成している地域(小島町、布田、国領町、仙川町等)、新しく集団住宅の建設によって形成された住宅地域(染地、西つつじヶ丘、緑ヶ丘等)に大別することができるが、近年は、首都圏内都市に共通する宅地化の波にさらされ、道路の整備とバス路線の充実によって、人口分布も全市的に拡大されつつある。

人口の異動をみると、ほぼ安定横ばいとなっており、男女の比率は、次第に男が上回り現在は5千5百人余増となっている。人口構成をみると、わが国に共通の典型的なつば型(先進国型)に近づきつつある。世帯数 72,802人 人口総数 184,253人。

調布市人口グラフ 表〔I-1〕



年齢（5歳階級）別、男女別人口の構成 表〔1-1〕



2. 財 政

わが国経済は、長期的な低速から脱する兆しが見えるものの、依然構造不況下にあるところから、国は、59年度の予算編成にあたって、強力な行革の推進を計り、また厳しい歳出抑制策を打ち出し、29年振りに0.5%と低い伸び率での超緊縮型予算を編成したところである。

一方、東京都においては、都政を取り巻く環境の厳しさを受けて、行政の技術革新を推進し、財源の重点配分に徹する中で、マイタウン東京の実現に向けて5.2%増の予算編成を行った。

調布市においても、国・都から少なからず影響を受け、財政的には非常に苦しい実情にある。収入の大半を占める市税については、経済情勢及び人口増加の停滞から自然増収は期待できず、収益事業その他の収入等についても伸び悩みの状態にあり、また昨年度、地方交付税不交付団体の指定を受けるという財政事情の厳しい中で、市税の徴収等財源確保に最大限の努力をした。他方、歳出面では、行政需要の増大による施設の増加、これらの施設の維持管理経費をはじめ、人件費、公債費等の義務的経費は年々増し、財政構造悪化の中で、事務事業の見直しを行い、経費の徹底的節減と収入財源の確保に努め、健全で効果的な財政運営と長期計画の着実な実施で、公平な市民サービスの向上に努力したところである。

(1) 年度別決算額の推移 表〔1-2-1〕

昭和59年度決算額は、市費総額345億4,439万8千円で、図書館開設当時の昭和41年と比較すると16.4倍であり、副都心新宿から15分という地理的条件もあって、行政需要の増大と多様化する住民ニーズを生み、首都圏都市としての発展を如実に示している。

本年度決算の中で市費に占める教育費の割合は17.4%で、前年に比べ額で約7億4,100万円、率において1.1%の増加であった。更に、市費、教育費に占める図書館費の割合は各0.5%、2.9%であり、前年に比べやや高率なのは施設建設工事費によるものである。

(2) 図書館費の内訳 表〔1-2-2〕

昭和59年度図書館費決算額は、1億7,676万円と前年に比べ増加しているのは、図書館資料保存庫新築工事費4,935万円によるものである。

各節毎に比較すると、減少しているのは備品購入費(図書購入費)であり、また増加しているのは、報償費(対面朗読謝礼)、一般需用費(消耗品費、印刷製本費、光熱水費)、委託料(設計、清掃、保守点検、看板作製)、工事請負費(資料保存庫)等であり、その他は前年とはほぼ同額である。

60年度当初予算は、厳しい財政事情の中、前年度比約2千万円の減額となっているのは、新築工事がない代わりに資料保存庫完成に伴う備品購入(書架、除湿・冷暖房機)によるものである。

年度別決算額の推移 表〔1-2-(1)〕

年度	40	41	46	47	48	49	50
市費総額	1,729,966	2,111,464	7,675,139	11,677,143	12,832,627	14,619,067	16,440,767
指数		100	363	553	608	692	778
教育費	468,770	486,168	1,915,678	2,355,806	4,371,727	4,090,834	5,484,729
指数		100	394	485	899	841	1,128
市費に占める割合		23.0%	25.0%	20.2%	34.0%	28.0%	33.3%
図書館費	18,960	5,914	45,272	34,140	97,698	173,055	64,615
(図書費)		2,044	12,029	15,435	20,878	40,083	26,225
(建設費)	17,348	0	17,800	0	53,287	100,689	0
(その他)		3,870	15,443	18,704	23,533	32,283	38,390
指数		100	766	577	1,652	2,926	1,092
市費に占める割合		0.3%	0.6%	0.3%	0.8%	1.2%	0.4%
教育費に占める割合		1.2%	2.4%	1.4%	2.2%	4.2%	1.1%
人口	102,983	119,664	159,026	162,444	168,630	171,281	170,606
指数		100	133	136	141	143	143
人口1人当り	16,798	17,647	48,263	69,247	74,921	85,689	95,902
教育費	4,552	4,063	12,046	13,970	25,524	23,978	31,993
図書館費	184	49	285	202	570	1,014	376
図書購入費		17	75	92	122	235	152
図書館分館開館時		中央	深大寺・ 神代	宮の下		富士見・ 緑ヶ丘	若葉

* 図書館費に職員の給与等人件費は含まれていない。
 * 人口は1月1日現在。人口1人当りの金額は単位円で示す。
 * 44年度国頭分館開館、45年度つつじヶ丘分館開館。
 ※ 40、41年度は開館準備年度と開館年度。

(単位 千円)

	51	52	53	54	55	56	57	58	59
	18,127,507	20,942,418	21,746,176	24,331,014	26,876,122	30,229,207	31,855,245	32,295,852	34,544,398
	859	992	1,030	1,153	1,273	1,431	1,509	1,530	1,636
	4,196,469	3,480,825	4,532,321	4,647,420	5,126,437	6,195,692	4,802,891	5,259,307	6,000,325
	863	716	932	956	1,054	1,274	988	1,082	1,234
	23.1%	16.6%	20.8%	19.1%	19.1%	20.5%	15.1%	16.3%	17.4%
	53,695	68,539	83,015	134,977	91,971	275,630	127,283	120,476	176,760
	17,577	20,227	22,004	55,242	35,314	58,291	51,898	53,959	49,990
	0	0	0	0	0	151,548	0	0	49,350
	36,118	48,312	61,011	79,735	56,657	65,791	75,385	66,517	77,420
	908	1,159	1,404	2,283	1,553	4,661	2,152	2,037	2,989
	0.3%	0.3%	0.4%	0.6%	0.3%	0.9%	0.4%	0.4%	0.5%
	1.3%	2.0%	1.8%	2.9%	1.8%	4.4%	2.7%	2.3%	2.9%
	172,610	174,505	175,031	174,690	176,149	178,814	180,731	181,942	184,253
	144	146	146	146	147	149	151	152	154
	105,020	120,010	124,242	139,281	152,576	169,054	176,258	177,506	187,484
	24,311	19,947	25,894	26,603	29,103	34,649	26,575	28,907	32,566
	311	393	474	772	522	1,541	704	662	943
	102	116	126	316	200	326	287	297	267
					染地		佐須		(資料 保存庫)

図書館費内訳表 表〔1-2-2〕

節	年度	55年度		56年度		57年
		決算額	百万比	決算額	百分比	決算額
報酬金		187,500	0.20	450,000	0.16	450,000
賃借費		21,000	0.02	19,800	0.007	54,660
旅費		284,848.0	3.10	294,160.0	1.07	397,030.0
交際費		283,630	0.31	330,520	0.12	337,000
一般需用費		10,000	0.01	0	0	0
食糧費		23,156,119	25.18	25,081,486	9.10	28,340,439
役務費		39,930	0.04	49,920	0.02	45,660
委託料		1,256,754	1.37	1,539,630	0.56	1,565,650
使用料及び賃借料		16,607,244	18.06	21,960,808	7.97	20,087,108
工事請負費		404,950	0.44	423,020	0.15	424,320
原材料費		7,190,600	7.82	15,154,800.0	54.98	14,818,000
備品購入費		127,420	0.14	129,560	0.05	148,900
(図書購入費)		39,727,784	43.19	70,878,786	25.71	56,439,480
(機械器具)		(353,136.69)	(38.39)	(58,291,286)	(21.15)	(51,897,760)
(視聴覚教材)		(251,000)	(0.27)	(97,580)	(0.04)	(77,000)
(庁用器具)		(2,113,000)	(2.30)	(23,000,000)	(8.3)	(22,570,000)
(庁用器具)		(2,050,115)	(2.23)	(10,189,920)	(3.69)	(22,077,200)
負担金、補助及び交付金		100,530	0.11	100,320	0.04	100,320
補償、補填及び賠償金		0	0	0	0	0
投資及び出資金		0	0	167,620	0.06	0
公課費		8,800	0.01	8,800	0.003	8,800
合計		91,970,741	100	275,629,870	100	127,282,577

()内は内訳

図書館費内訳表 (単位 円)

節	58年度	59年度	60年度当初予算	
			決算額	百分比
0.35	450,000	0.37	0	0
0.43	2,689,170	2.23	2,694,700	1.52
3.12	3,942,400	3.27	4,233,340	2.39
0.26	333,770	0.28	322,290	0.18
0	0	0	0	0
22.27	29,770,812	24.71	32,380,995	18.32
0.04	45,910	0.04	42,500	0.02
1.23	2,144,173	1.77	2,005,720	1.14
15.78	21,475,621	17.83	29,066,731	16.45
0.33	443,070	0.37	487,530	0.28
11.64	894,000	0.74	51,245,000	28.99
0.12	117,150	0.10	98,550	0.06
44.34	58,077,697	48.21	54,091,419	30.59
(40.77)	(53,958,935)	(44.79)	(49,990,159)	(28.28)
(0.06)	(577,500)	(0.48)	(184,000)	(0.10)
(1.77)	(2,253,750)	(1.87)	(23,000,000)	(13.0)
(1.74)	(1,287,512)	(1.07)	(1,617,260)	(0.91)
0.08	83,040	0.07	82,320	0.05
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0.01	8,800	0.01	8,800	0.01
100	120,475,613	100	176,759,895	100

II 図書館の概況

昭和41年に調布市立図書館（現在の中央館）が開館してから調布市における図書館活動がはじまった。昭和44年には、分館第一号の国領分館が開館。以後年次的に分館を開館し、現在は中央館を含め11館をかぞえるに至った。

この分館網システムは、人口2万人に1館、半径800メートルに1館、2つの小学校区に1館、の三原則を満たすように計画され、57年度佐須分館の開館により、調布市における分館網システムは、所期の目的が達成された。

現在残されている大きな課題としては、新中央館の早期実現である。教監となった現中央館にかわって、10の分館の中核機能を果たすべく新中央館が完成されたとき、調布市立図書館は、又新しい第一歩を踏み出すことになるといえる。

1. 運営方針

調布市立図書館は、市民の参加と協力のもとに、自立した市民の連帯と地域に根ざした市民文化の創造に向けて積極的な図書館活動を展開していく。

- (1) 買い物カゴを下げて誰れでも気軽に立ち寄れる図書館づくりを目指し、市民のだれもが自由に図書館サービスを受けられる様にサービスの拠点を広げていく。
- (2) 座して利用を待つという静態的な活動に終始することなく積極的に図書館側から市民に働きかける動態的な図書館活動を目指す。
- (3) 子どもに良い読書環境を整備するため、各館に独立した児童室を設け専任の職員を配置し館内・館外に対し、あらゆる機会をとらえて児童サービスを行う。
- (4) 市民の身近かなところで文化的事業（講座、講演会、著者を囲む読書会、座談会、名画鑑賞会等）を開催し、文化創造の拠点として積極的な図書館活動を展開する。
- (5) 市民に充実した図書館サービスを保障するため、種々の機会をとらえて組織的に研修を行い職員の資質の向上をはかる。

2. 昭和59年度 図書館重点事業

図書館は、文化の伝承にとどまらず文化創造の拠点として、積極的な活動を展開し、読書の普及と読書によって啓発された市民の学習意欲を的確に受けとめ、だれでも、自由に図書館サービスを受けられるよう、その拠点を拡げ、図書館網機能を存分に活用し、次の重点事業を中心に各々の事業の充実を図った。

ア 蔵書の充実

市民との連帯を深め、市民図書館としての責務を果たすため、限られた予算を効果的に執行し、市民要求に即応できるよう蔵書の充実に努めた。

- (ア) 新刊書を中心に、市民のニーズに適合した資料の選択と収集
- (イ) 参考図書網羅的な収集と内容の充実・強化
- (ウ) 郷土資料及び行政資料の積極的な収集
- (エ) 内容的に古い資料の買替え・補充による、資料面でのサービス向上

イ 図書館網の整備

調布市長期計画に基づく、図書館網計画は、57年度開設の佐須分館をもって、所期の目的は達成された。その結果、図書館サービスはほぼ全域にわたって行きわたり、市民の図書館利用の機会均等が保障された。今後の課題は、図書館サービス体制の充実にあり、保存資料の整備体制の確立、新中央館構想の策定、現中央館におけるサービス体制の改善、図書館活動の組織的運営等の検討に入っているが、このたび中央自動車道高架下に約20万冊収蔵の図書資料保存庫の完成を見たことは、大きなはずみを与えたといえよう。

ウ 市民と連帯した文化的事業の実施

図書館資料を媒体とする読書啓蒙活動と並行して、読書によって生まれた学習意欲と市民の心の中にある文化的欲求を的確に受けとめ、育てるため社会教育関連機関等と協力し、市民の文化に対する自覚と創造を促し、だれでも気軽に学習に参加できる機会を設け、市民と連帯した文化活動を推進した。

エ 障害者サービスの充実

視覚障害者に対するサービスに重点を置き、朗読テープの作成や対面朗読、点訳サービスを実施し、朗読ボランティアや点字ボランティアの育成等に努め、視覚障害者への読書権の確立を計った。

オ その他日常業務の充実

過去の経験と反省を生かし、今日までの蓄積を基盤に図書の閲覧、貸出業務を遂行しながら、前年に引き続き、次の事業の充実に努めた。

- (ア) 児童対象のおはなし会、小学生読書会、中学生通信の発行等の実施
- (イ) 学校、保育園等他施設及び地域との協力
- (ウ) 地域文庫の育成と援助
- (エ) 図書館PRと広報紙の発行
- (オ) AVL業務の充実

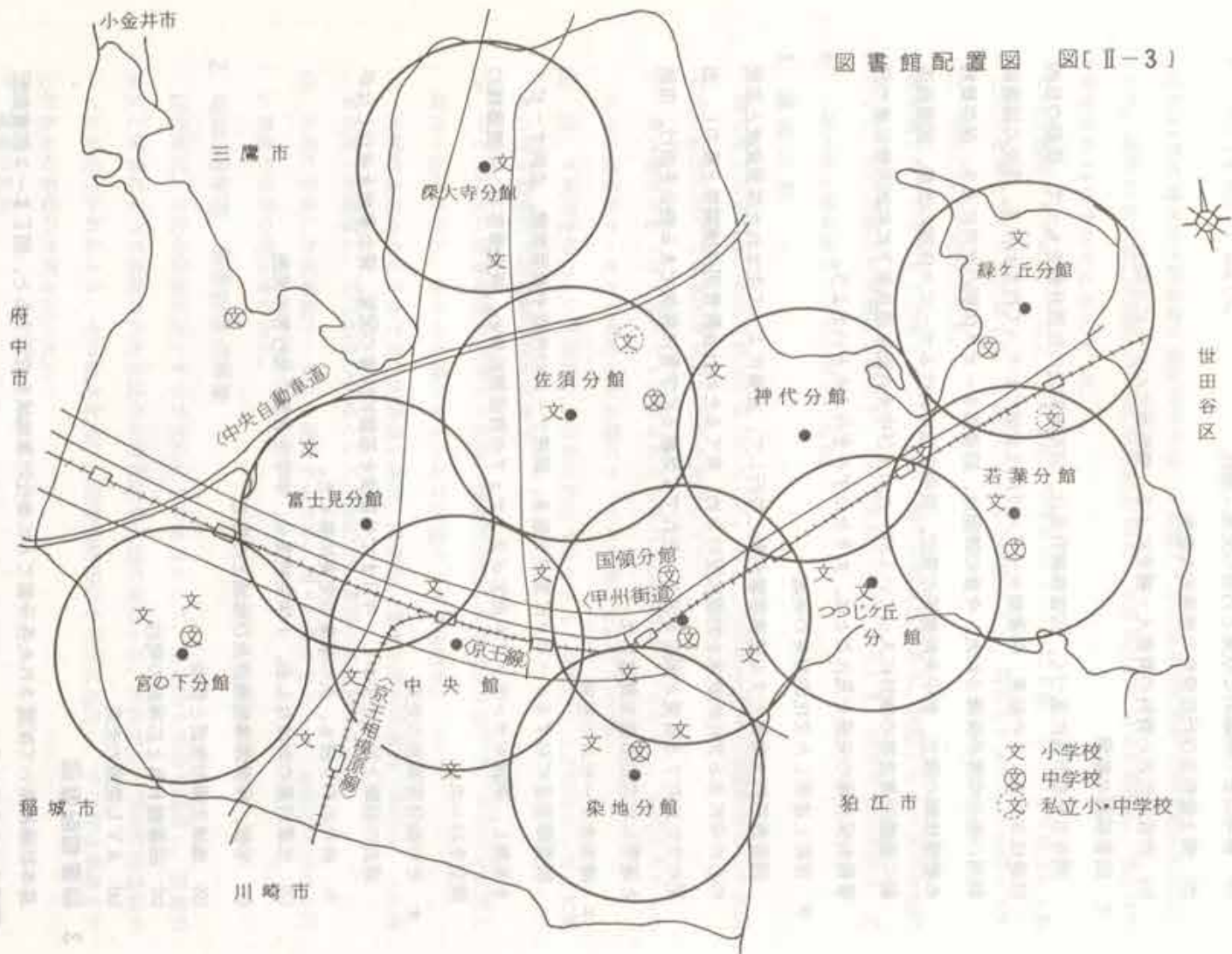
3. 図書館配置図

基本計画に基づいて配置された各分館ごとに奉仕対象地域を設定すると、図〔II-3 図書館配置図〕のようになる。

4. 各館別施設概況

各館の施設は、表〔II-4〕のようになっている。

図書館配置図 図〔II-3〕



施設状況 表〔II-4〕

昭和60年3月31日現在

区分	館別	中央館	国領分館	つつじヶ丘分館	深大寺分館	神代分館	宮の下分館	緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	資料保存庫
竣工年月日		41.3.31	44.3.31	45.3.28	45.2.28	46.3.31	47.3.31	49.3.31	49.3.31	50.3.31	55.5.19	57.3.31	60.3.15
開館日		41.6.10	44.8.14	45.7.20	46.7.24	46.10.1	47.7.24	49.7.20	49.7.20	児童室 50.4.12 成人室 50.7.5	55.6.6	57.7.13	60.4.1
建設費(千円)		17,348	9,120	3,774	13,800	17,080	18,000	30,190	30,793	77,654	東京都負担	143,651	45,000
敷地面積(m ²)		628	1,723	826	980	1,980	2,000	800	1,653	879	1,644	2,166	1,072
土地購入費(千円)		市有地	53,100	借地	27,497	84,000	80,000	借地	162,000	市有地	借地	92,867	借地
建築物の造	構造	鉄筋2階建	鉄筋の階上	コンクリートブロック	鉄骨平家	鉄筋の階上	鉄筋の階上	鉄骨平家	鉄筋の階上	鉄筋コンクリート1階建	鉄筋コンクリート3階建 1階部分	鉄筋の階上	鉄骨平家
	併設・単独	単	保育園併設	単	単	保育園併設	保育園併設	単	保育園併設	単	地域福祉センター都営住宅併設	児童館併設	単
設計事務所		新設計事務所	坂井設計事務所	新設計事務所	坂井設計事務所	坂井設計事務所	愛蔵堂研究所	つかさ設計事務所	愛蔵堂研究所	和設計事務所	都営建築計画センター	相和技術研究所	杉原設計事務所
工事請負会社		石原建設	高尾建設	内村建設	増岡建設	増岡建設	白石建設	田辺工務店	山口組	大栄建設	藤田建設	東海建設	久保工務店
所在地		布田 4-17-5	国領町 3-12-1	西つつじヶ丘 4-23-6	深大寺北町 5-6-1	西つつじヶ丘 1-40-5	上石原 3-34-10	緑ヶ丘 2-25	富士見町 2-3-26	若葉町 3-16-13	染地 3-3-1	佐須町 4-42-2	上石原 2-7-6
電話		88-5181	84-2000	85-2000	85-3350	85-0054	86-5798	300-7672	85-4376	309-3411	88-8393	85-1306	87-2660
床面積(m ²)		609	304	113	257	339	324	240	324	516	482※※ (192)	605	485
職員(司書)		15(8)※	(3)	(2)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(5)	(3)	(3)	0
蔵書能力(冊)		50,000	30,000	10,000	24,000	26,000	23,000	20,000	20,000	34,000	35,000	開架35,000 閉架50,000	200,000
施設の概況	一般室	230m ²	175m ²	26m ²	90m ²	126m ²	111m ²	120m ²	136m ²	146m ²	153m ²	245m ²	電動式書架室 260m ² 固定式書架室 200m ²
	児童室	63m ²	71m ²	52m ²	63m ²	72m ²	56m ²	64m ²	56m ²	123m ²	105m ²	80m ²	
	集会室	なし	なし	なし	28m ²	52m ²	66m ²	なし	63m ²	78m ²	なし	なし	
	成人用座席	60	30	4	24	30	32	20	24	24	12	24	
	児童用座席	30	30	0	30	30	30	30	30	40	12	12	
冷暖房設備	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	

※中央館職員 15人 (内訳) 管理職 1 一般職 4 司書 8 技能職 1 警備員 1 ※※ () 内は共用部分

Ⅲ 各館の概要

1. 中央館



調布市布田4-17-5
 電話 0424-88-5181
 昭和41年6月10日開館
 (京王線調布駅より徒歩2分)

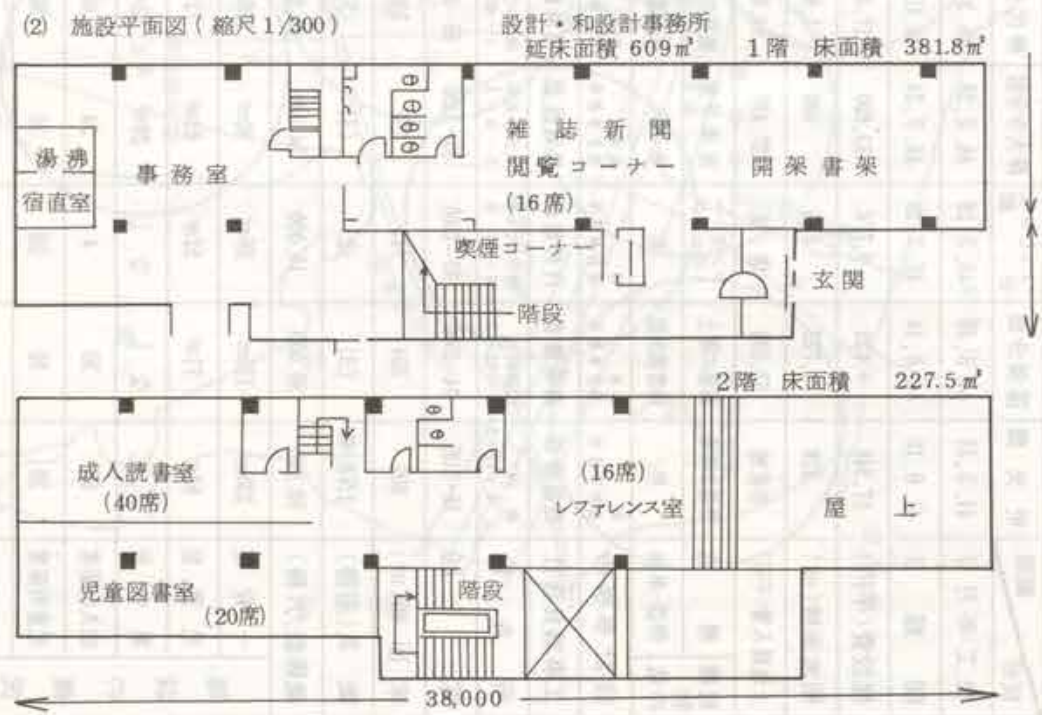
(1) 概況

調布における最初の図書館として誕生した。

その位置は、各種公共施設、商店、銀行などが集中し、調布駅を中心に各方面へのバスの発着場所も徒歩数分以内という所にある。中央館としての性格上、その奉仕対象地域は市内全域ということになるが、その意味で利用しやすい恵まれた場所にあると言える。

しかし、中央館は、蔵書面においてはもちろん、他の様々な面において、全館をカバーする機能を持たなければならないが、それらを果たすには、いかにも規模が小さすぎる。収容能力を越えた資料は、中央館以外の2ヶ所(佐須分館内共同保存庫、高架下資料保存庫)に分散しているが、その為に利用者にかかる不便は、測り知れないものがある。十分な広さを持った新中央館の建設が待たれるところである。

(2) 施設平面図(縮尺1/300)



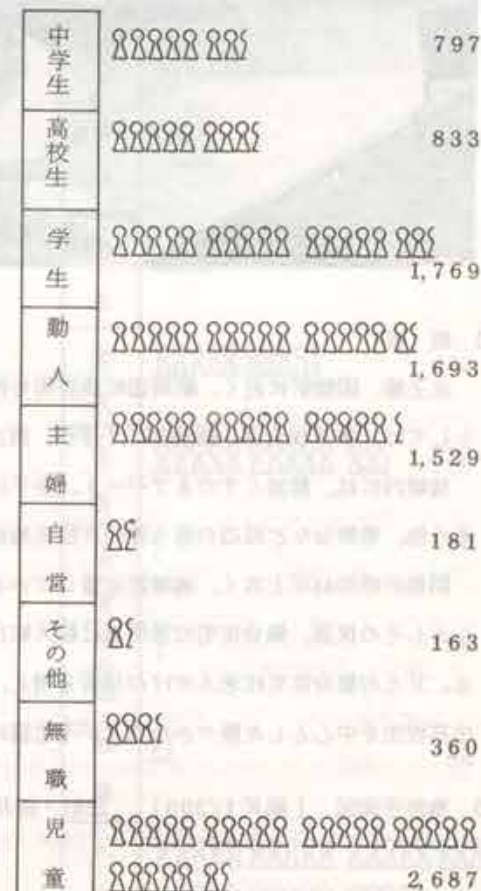
(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書 (1cm 2,000冊)



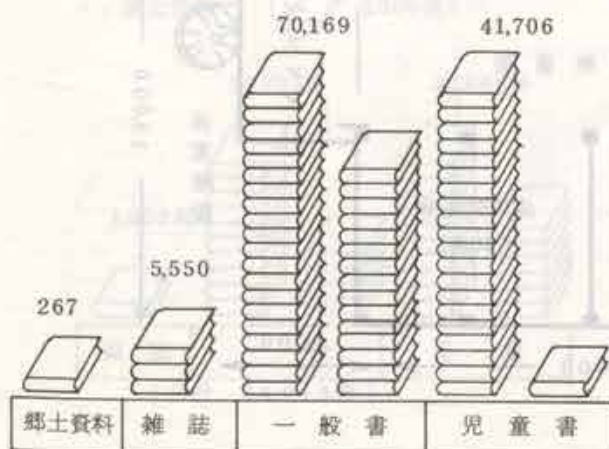
(合計 76,576冊)

ロ. 職業別登録者数 (人 100人)



(合計 10,261人)

ハ. 貸出冊数 (2,000冊)



(合計 117,692冊)

(4) 行事

イ. おはなし会

毎月第2・第4水曜日
 3:00 ~ 3:30

ロ. 小学生読書会

毎月第1日曜日
 10:30 ~ 11:30

2. 国領分館



調布市国領町3-12-1

電話 0424-84-2000

昭和44年8月14日開館(保育園併設)

(京王線国領駅より徒歩3分)

(1) 概況

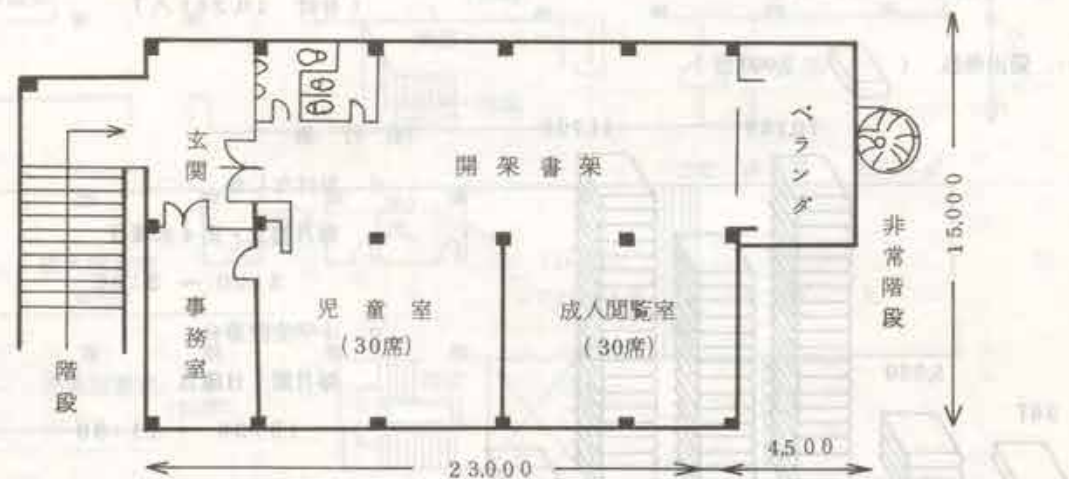
京王線、国領駅に近く、駅周辺に商店街を抱えた、立地条件の良い図書館である。公共施設としては、第五保育園、国領第二小学校、第六・第七中学校、国領児童館などがある。

地域内には、都営くすのきアパート、金子団地、国領住宅(公団)などの集合住宅が多い。その他、菊野台など周辺の落ち着いた住宅地街からの利用者もかなり多い。

開館が昭和44年と古く、地域に定着している為、利用は古くからの常連に支えられている。しかしその反面、集合住宅の居住者は転入転出が激しいので、常に図書館のPRが必要でもある。又この集合住宅は老人だけの世帯も増え、館内は少くも雑誌などを楽しむ老人の姿と、中高校生を中心とした賑やかな若者が不思議に混ざり合っているのが目に付く。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300) 設計・桜井設計事務所

床面積 304㎡



(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



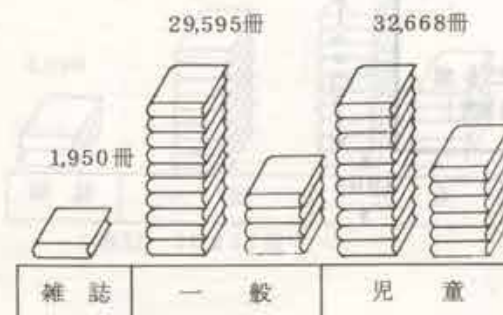
(合計 27,991冊)

ロ. 職業別登録者数 (人 50人)



(合計 3,765人)

ハ. 貸出冊数 (1冊 2,000冊)



(合計 64,213冊)

(4) 行事

イ. おはなし会

第2日曜日

10:00 ~ 10:30 (小学2年生以上)

10:30 ~ 11:00 (小学1年生まで)

ロ. 小学生読書会

第4日曜日

10:00 ~ 11:00

3. つつじヶ丘分館



調布市西つつじヶ丘4-23-6

電話 0424-85-2000

昭和45年7月20日開館

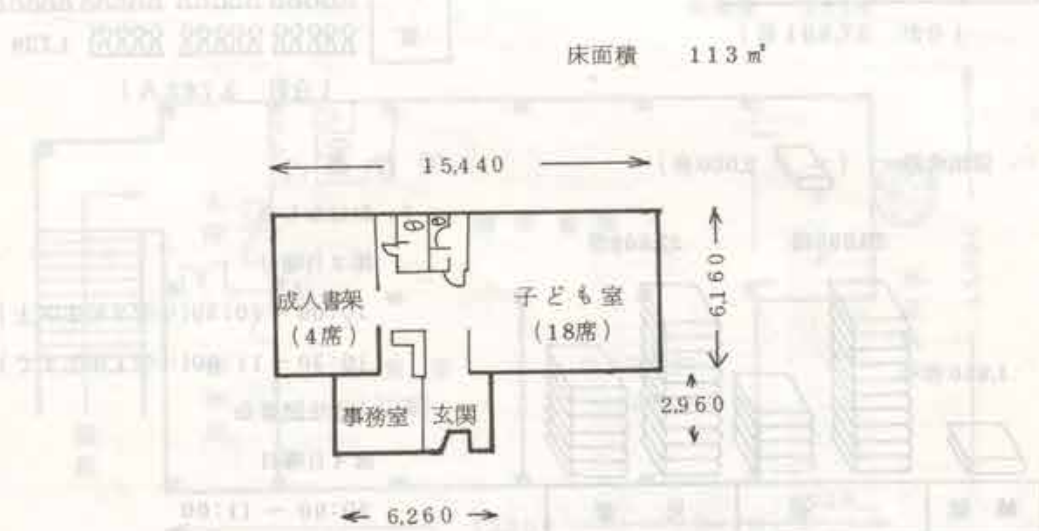
(京王線つつじヶ丘駅より徒歩10分)

(1) 概況

西つつじヶ丘、菊野台、狛江市西野川の境界に近く、神代団地内の西の端に位置する。地域内には、特に大きな工場や営業所はなく、住宅地域といえる。公共施設としては、野川・大町小学校、金子保育園があり、私立幼稚園が3つある。利用の層は、主婦と子どもが多く、特に幼児を連れた若い世代の親が目立つ。利用される本も、雑誌・家庭・教育・児童書が多い。館の規模は、市内全館中最も小さく、一般向きの蔵書が少ない。その為、一般・学生のリクエストが多く、潜在的な利用要求が強く伺える。館の規模を大きくし、一般の蔵書を増やせば確実に利用は伸びるものと思われる。

なお当館については、当面地域住民のニーズに答えるといった暫定的施設の役割を担って建設された経緯から、近い将来本格的な図書館を新設する計画を検討している。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300) 設計・和設計事務所



(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書

児童書 7,931冊

開館当初は、小規模ながらも一般書・児童書を備えており、地域の読書層に支えられて高い利用率を示していた。だが、スペースに限界があるため、昭和50年、隣接する若葉分館開館を機に、児童図書中心の図書館として再出発した。

現在、一般書は、文学・家庭・教育・医学等の分野の図書(約4,000冊)が常置され、その他の新刊書(約2,000冊)については、若葉分館より2~3ヶ月の期間借用する形のローテーション・システムを行なっている。

ロ. 職業別登録者数 (1人50人)

中学生	⊗⊗⊗	135
高校生	⊗	52
学生	{	28
勤人	⊗⊗⊗⊗	213
主婦	⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗	509
自営	{	22
その他	{	14
無職	⊗	31
児童	⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗	1,192

(合計 2,196人)

ハ. 貸出冊数 (1冊2000冊)



(4) 行事

イ. おはなし会

毎月第2日曜日

10:30 ~ 11:00

ロ. 小学生読書会

毎月第4日曜日

10:00 ~ 11:30

4. 深大寺分館

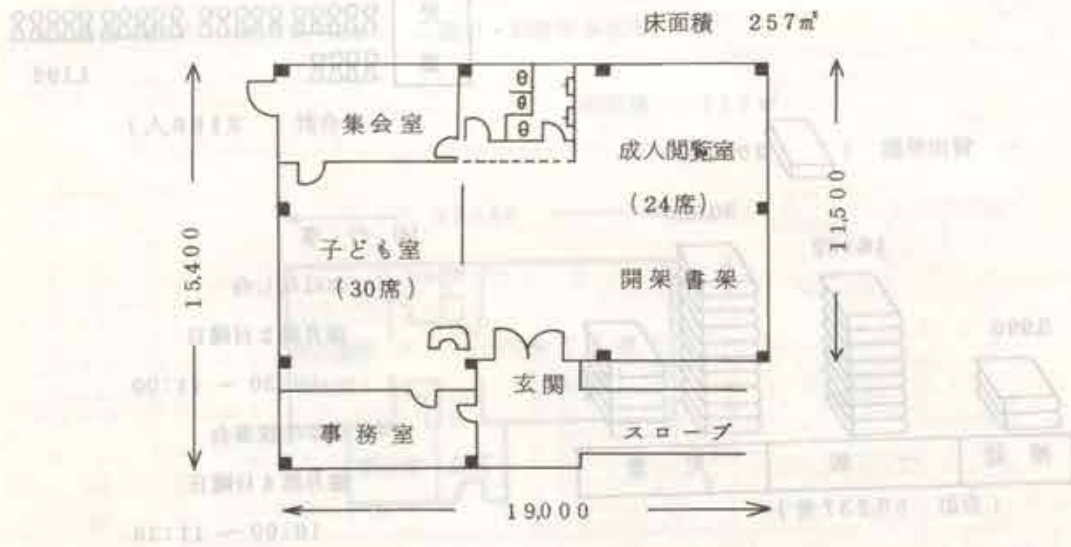


調布市深大寺北町5-6-1
 電話 0424-85-3350
 昭和46年7月24日開館
 京王線調布駅北口より
 吉祥寺・三鷹行バス
 山野駅下車(徒歩8分)

(1) 概況

調布市の北端部に位置し、三鷹市野崎に隣接している。電車の最寄り駅である調布駅からは、バスで、三鷹街道を10分程北上した所にある。周囲の環境は、南側にある神代植物公園に象徴されるように、あちこちに広葉樹の林と畑の見られる緑豊かな地域である。付近には、北ノ台・深大寺小学校を始め調布北高校、市営山野住宅、都営住宅などのほか、民間アパートもあるが、全体としては一戸建て住宅が多く、人口密度の低い閑静な地域である。こうした地域性もあって、世帯の種別では家族世帯の比率が高い。従って、図書館の利用者も、家族連れで利用する姿が多く見られる。また、利用の状況は、常連の顔見知りの方々が多く地域の状況に大きな変化がない限り、今後もこのような傾向は続いていくものと思われる。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300) 設計・桜井設計事務所

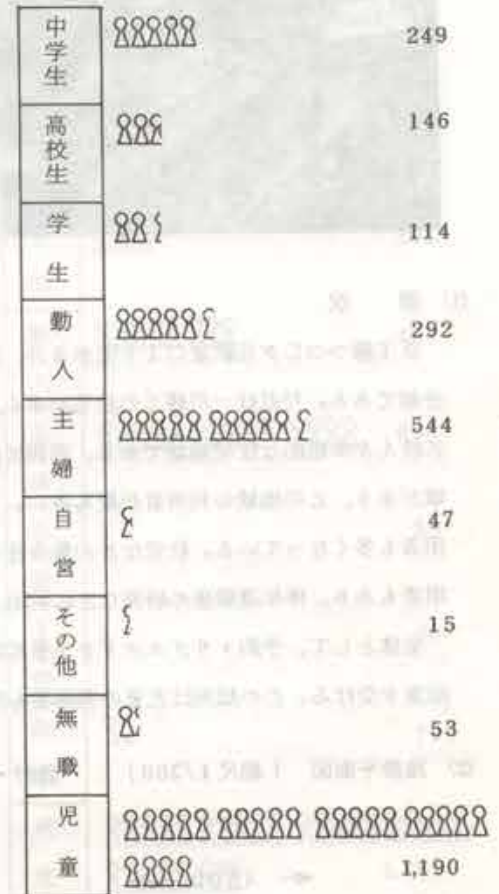


(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



ロ. 職業別登録者数 (△ 50人)



ハ. 貸出冊数 (1冊 2,000冊)



(4) 行事

- イ. おはなし会
 - 毎週 木曜日
 - 3:00~3:30(幼児)
 - 3:30~4:00(小学生)
- ロ. 小学生読書会
 - 第4日曜日
 - 10:30~11:45

5. 神代分館



調布市西つつじヶ丘1-40-5

電話 0424-85-0054

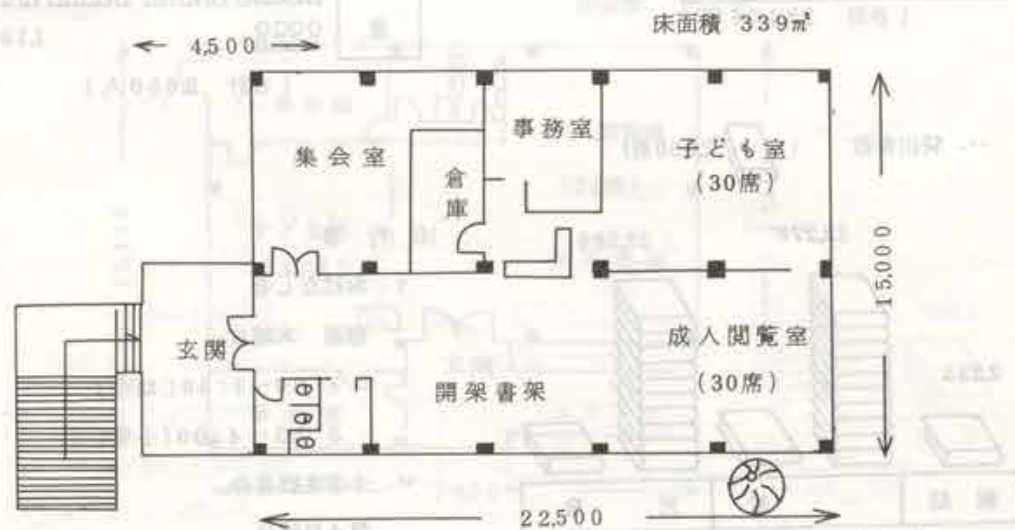
昭和46年10月1日開館(保育園併設)
(京王線つつじヶ丘駅より徒歩8分)

(1) 概況

京王線つつじヶ丘駅北口より徒歩8分、住宅地の中の保育園の2階に位置する緑に囲まれた分館である。付近は一戸建ての住宅が多く、上ノ原・高坂小学校や神代中学校、公園などを間近に控えた本格的な住宅地域である。西側には大小のマンションや社宅など、人口密度の高い地域があり、この地域の利用者が最も多い。また北側は、三鷹市と隣接しているため、市外の利用者も多くなっている。社宅などの集合住宅では、転入転出が目立つ半面、開館当初からの利用者もあり、停年退職後の研究などに利用されている方の姿も、よく見受けられる。

全体として、予約・リクエストを上手に活用し、図書館利用に慣れている方々が多いという印象を受ける。この傾向は児童の利用者も同様である。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300) 設計・桜井設計事務所



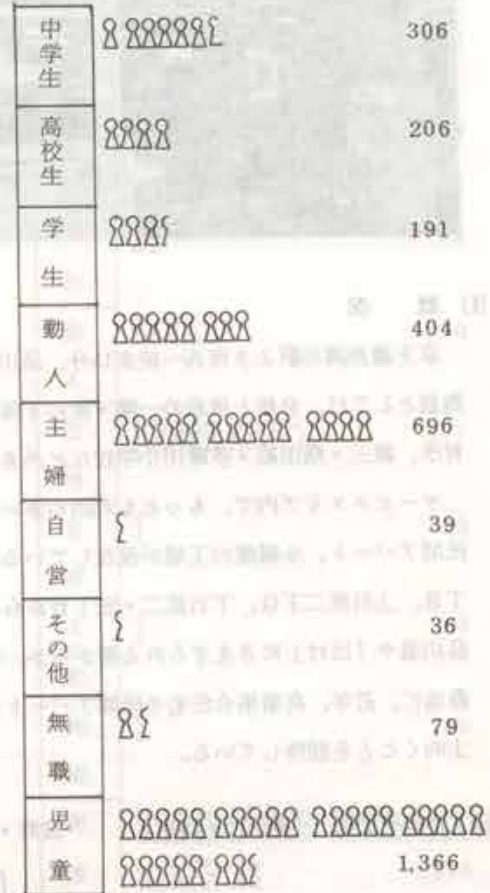
(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



(合計 28,592冊)

ロ. 職業別登録者数 (1人 50人)



(合計 3,323人)

ハ. 貸出冊数 (1冊 2,000冊)



(合計 55,325冊)

(4) 行事

- イ. おはなし会
 - 第1・3水曜日(幼児)
 - 第2・4日(小学生)
 - 3:00 ~ 3:30
- ロ. 小学生読書会
 - 第2日曜日
 - 10:00 ~ 11:00

6. 宮の下分館



調布市上石原3-34-10

電話 0424-86-5798

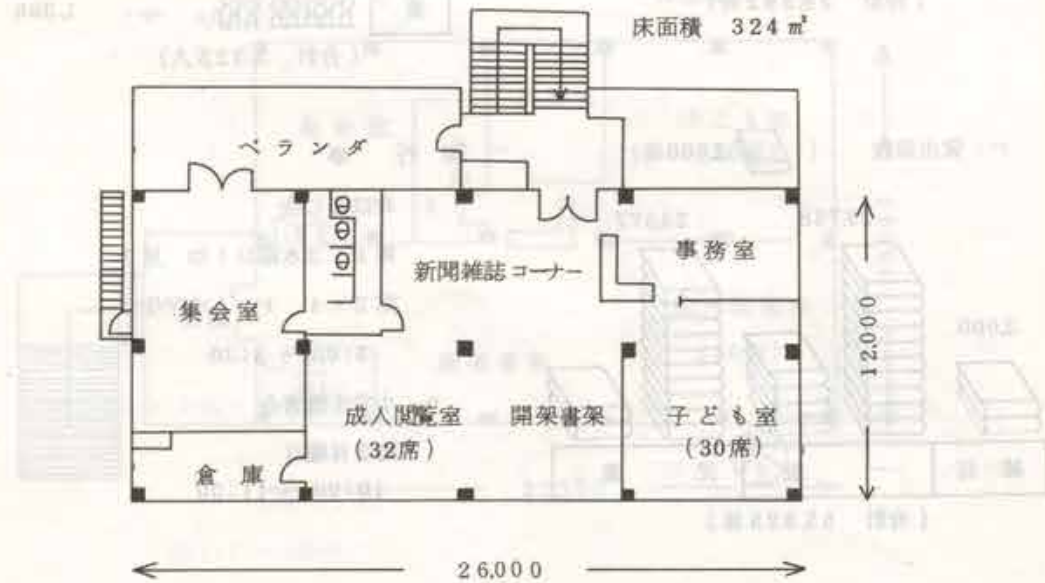
昭和47年7月24日開館(保育園併設)
(京王線西調布駅より徒歩15分)

(1) 概況

京王線西調布駅より南西へ徒歩15分、品川街道と多摩川の間地点に位置する。近隣の公共施設としては、分館と併設の一階・宮の下保育園、第五中学校、西部公民館・児童館・学童保育所、第三・飛田給・多摩川小学校などがある。

サービスエリア内で、もっとも利用の多い上石原三丁目、多摩川一丁目の地域には、住宅、民間アパート、小規模の工場が混在している。地図上ではかなりの利用が予想される飛田給三丁目、上石原二丁目、下石原二・三丁目からは、実際には、分館が生活動線上にないことや、品川道や「はけ」にさえぎられる等からか、利用は限られている。分館周辺に多かった空地や農地に、近年、高層集合住宅や民間アパートの建設が目立つことから、伸び悩んでいる利用が上向くことを期待している。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300) 設計・葵建築研究所



(3) 蔵書及び利用状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



(合計 25,962冊)

ロ. 職業別登録者数 (1人 50人)



(合計 2,731人)

ハ. 貸出冊数 (1冊 2,000冊)



(合計 46,506冊)

(4) 行事

- イ. おはなし会
第1・2木曜日
3:00~3:30 (幼児)
3:30~4:00 (小学生)
- ロ. 小学生読書会
毎月最後の日曜日
10:30~11:30

7. 緑ヶ丘分館



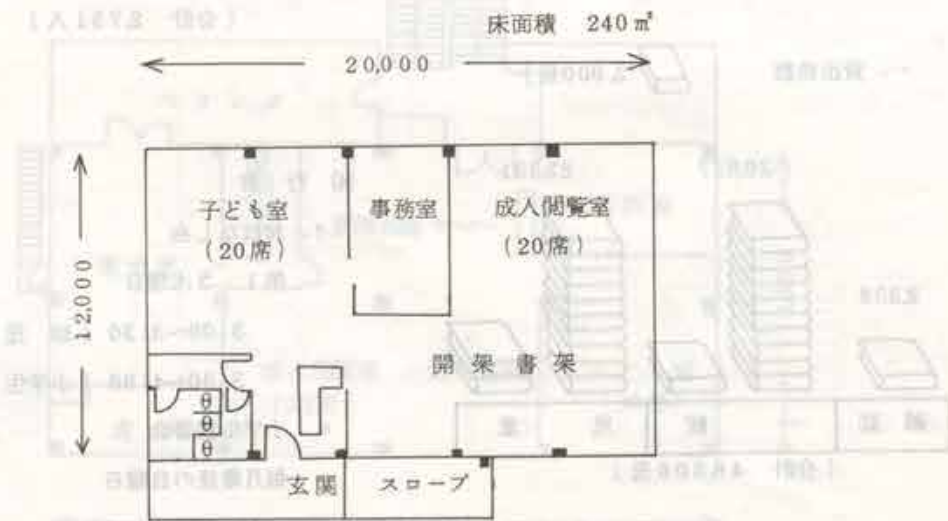
調布市緑ヶ丘2-25
電話 03-300-7672
昭和49年7月20日開館
(京王線仙川駅より徒歩12分)

(1) 概況

調布市の北東に位置し、世田谷区、三鷹市と隣接している。駅前商店街とは逆方向に、甲州街道を渡り、坂を下りると都営緑ヶ丘団地に至る。当館は、この団地の中央公園の一角に建っている。周辺には、鯉のすむ仙川が流れ、畑や林がまだ残っている静かな環境で、白百合女子大学、第八中学校、緑ヶ丘小学校、私立緑ヶ丘幼稚園、私立緑ヶ丘保育園、児童館、緑ヶ丘福祉センターなどの施設が揃っている。

近年の、児童数の減少、高齢化の傾向は、当サービスエリアでも同様であり、今後登録者数の著しい伸びは期待できない。しかし、登録者一人当たりの貸出冊数が市内全館でトップ(約24冊)ということから、地域住民が、当館を効率よく利用していることが伺える。外装が地味で、目立つ存在ではないが、館内の雰囲気、蔵書内容など、地域の家庭文庫的な持ち味のある、ホットな図書館である。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300) 設計・つかさ設計事務所



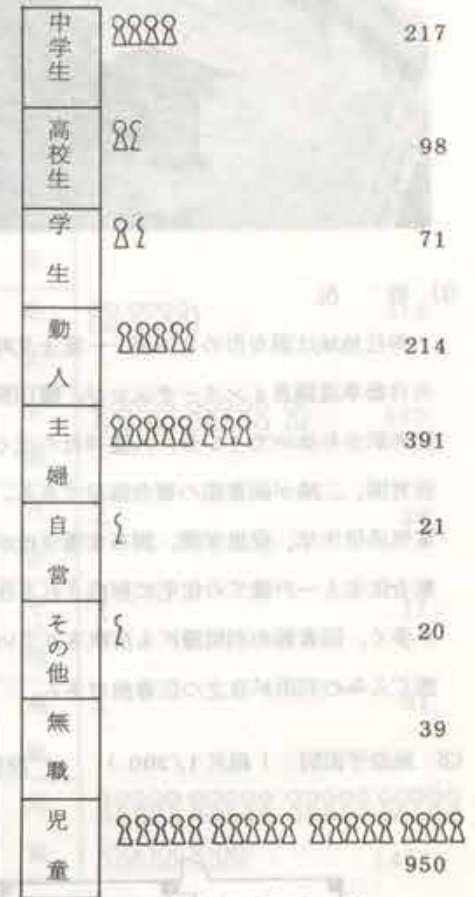
(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



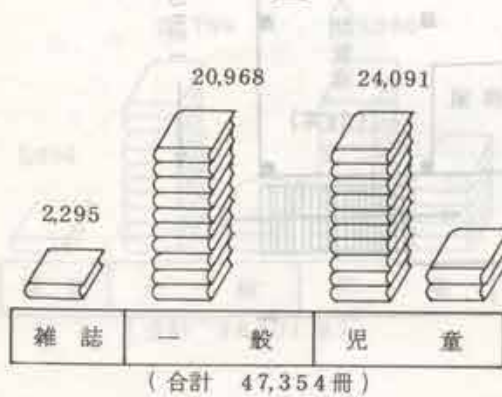
(合計 25,085冊)

ロ. 職業別登録者数 (△ 50人)



(合計 2,021人)

ハ. 貸出冊数 (2,000冊)



(4) 行事

- イ. おはなし会
 - 第1日曜日 10:30~11:00
 - 夏休み期間 毎週木曜日 10:30~11:00 (幼児)
 - 11:00~11:30 (小学生)
- ロ. 小学生読書会
 - 第2日曜日 10:30~11:30

8. 富士見分館



調布市富士見町 2-3-26

電話 0424-85-4376

昭和49年7月20日開館(保育園併設)

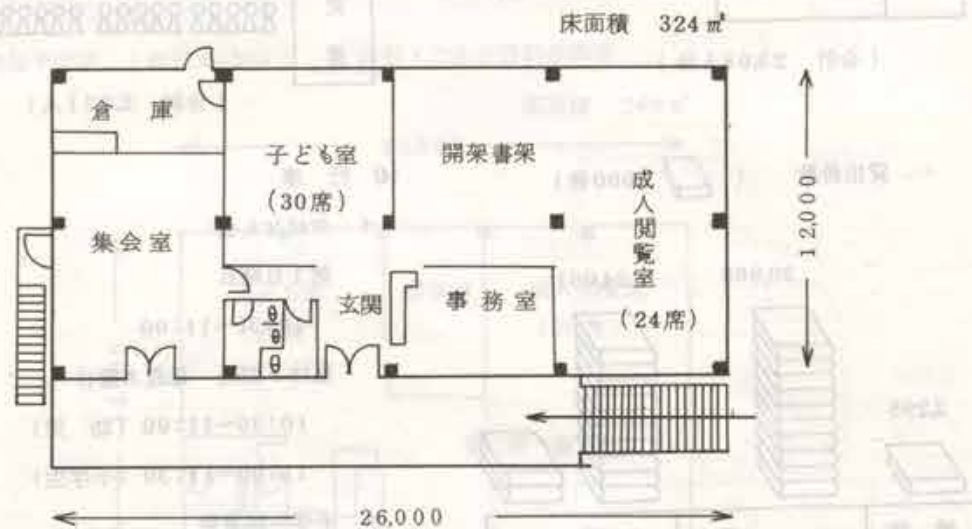
(京王線調布駅下車 徒歩15分)

(1) 概況

奉仕地域は調布市の北西部——富士見町、調布ヶ丘4丁目とその周辺——で、甲州街道、中央自動車道調布インターチェンジ、鶴川街道が交差している交通量の多い地域である。当館は調布駅から歩いて15分、八幡神社の近くの比較的閑静な住宅地の一角にあり、一階が富士見保育園、二階が図書館の複合施設である。付近の教育施設は石原・第一小学校、調布中学校、電気通信大学、保恵学園、調布養護学校がある。地域性としては都営住宅、マンションなどの集合住宅と一戸建ての住宅に形成される住宅地域である。住民は30代~40代の比較的若い世代が多く、図書館の利用層にも反映されている。平日は子ども達の利用が多く、土・日曜日は家族ぐるみの利用が目立つ図書館である。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300)

設計・葵建築研究所



(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



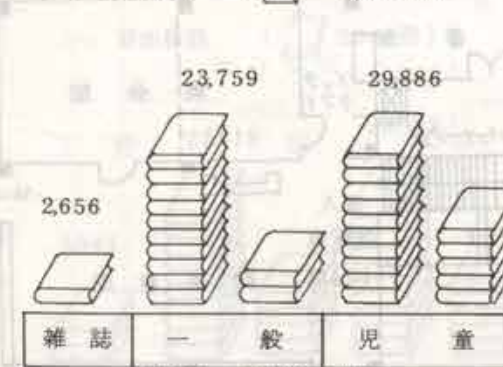
(合計 25,300冊)

ロ. 職業別登録者数 (1人 50人)



(合計 2,870人)

ハ. 貸出冊数 (1冊 2,000冊)



(合計 56,301冊)

(4) 行事

- イ. おはなし会
 - 毎週水曜日
 - 2:00~2:20 (幼児)
 - 3:30~3:50 (小学生)
- ロ. 小学生読書会
 - 第2金曜日
 - 3:30~4:30

9. 若葉分館



調布市若葉町3-16-13

電話 03-309-3411

昭和50年4月12日(児童室) 開館
7月5日(成人室) 開館
(京王線仙川駅より徒歩12分)

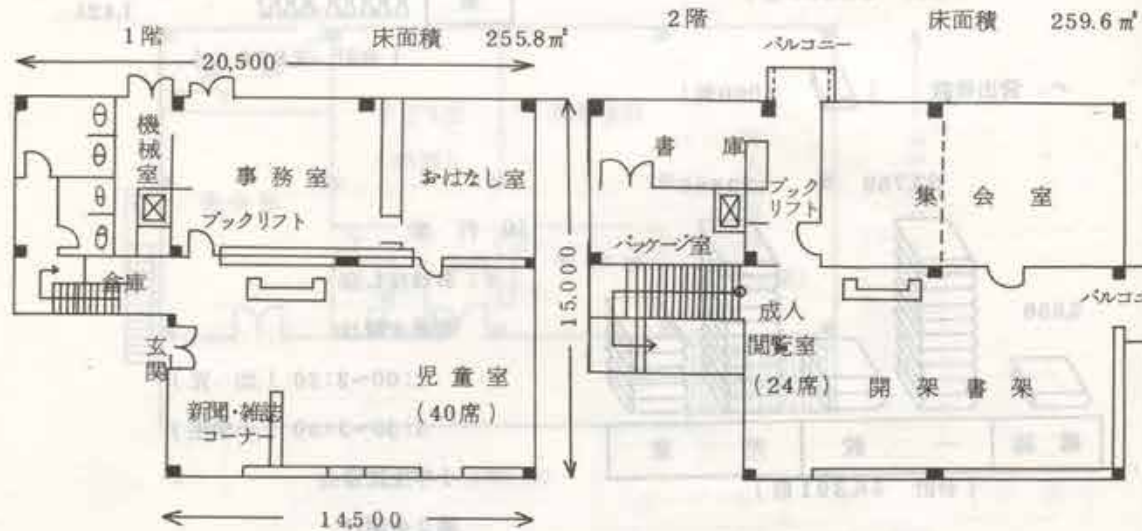
(1) 概況

若葉分館は、市内で8番目の分館として昭和50年4月に開館した。それまでの分館の広さは300㎡台であったが、若葉分館は516㎡の広さがあり、広い開架スペース、独立のおはなし室、3,500冊収容できる書庫、緑が美しい集会室など他の分館に見られない施設を備えている。サービス・エリアは、若葉町、人間町、仙川の一部、東つつじヶ丘の一部などが含まれ、人口1万5千、世帯数6,350世帯を擁する地域で、住宅街が広がっている。利用の状況は、立地条件もあって若葉町、人間町の住民の利用が大半を占めている。サービス面での特色として、若葉小の「読書の時間」協力事業がある。分館のすぐ前に若葉小学校があるので、「読書の時間」に児童室を開放したり、お話しや本の紹介を行っている。

(2) 施設平面図 (縮尺1/300)

設計・和設計事務所

延床面積 516㎡



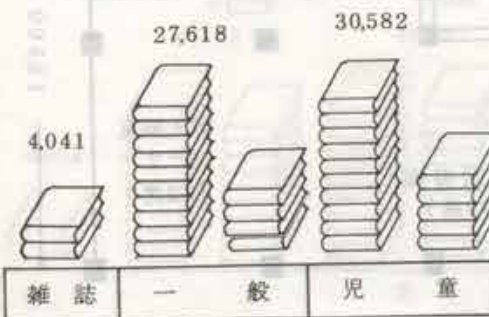
(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

1. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



(合計 37,403冊)

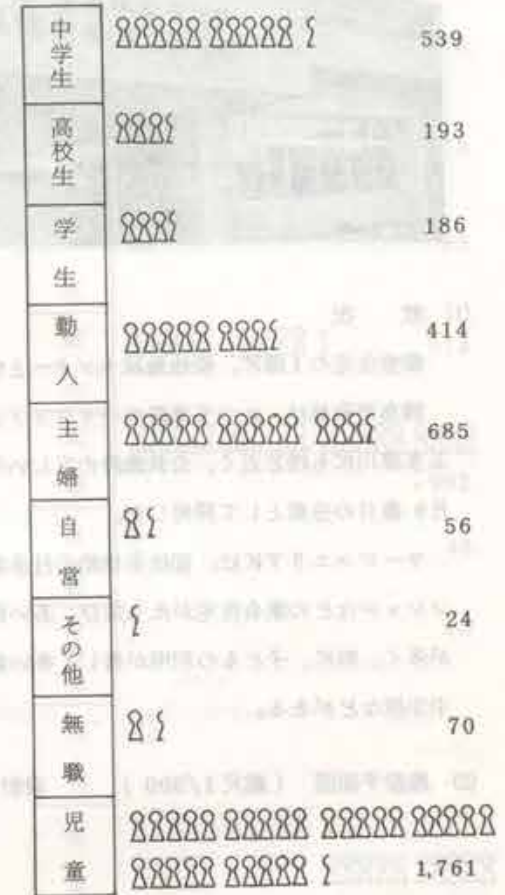
ハ. 貸出冊数 (1冊 2,000冊)



(合計 62,241冊)

借出者別統計

ロ. 職業別登録者数 (△ 50人)



(合計 3,928人)

(4) 行事

- イ おはなし会 (3:00~3:30)
- 日曜日 幼児~小学生
- 火曜日 小学生
- 木曜日 幼児
- 第1金曜日 3年生以上

10. 染地分館



調布市染地3-3-1

電話 0424-88-8393

昭和55年6月6日開館
(地域福祉センター併設)
(京王線調布駅南口より多摩川住宅
西行バス染地公園前下車徒歩3分)

(1) 概況

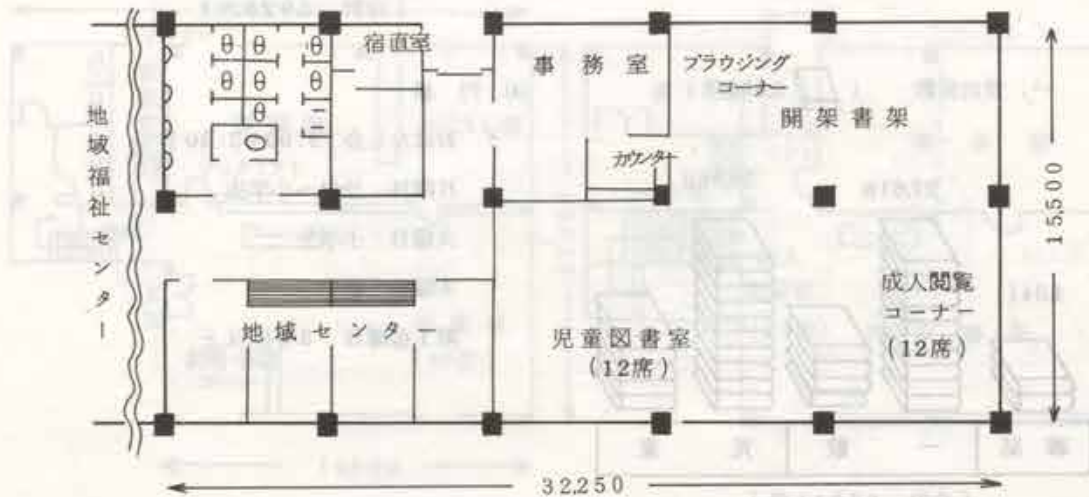
都営住宅の1階に、染地地域センターと併設して建てられた複合施設である。

調布市染地は、かつて東洋のハリウッドといわれた、日活撮影所がある。市の南限をつくる多摩川にもほど近く、公共施設の乏しい所だっただけに、市民の熱い期待を担って、55年6月9番目の分館として開館した。

サービスエリアには、都住宅供給公社多摩川住宅、都営住宅、世帯数600を越す大規模なマンションなどの集合住宅が立ち並び、若い世帯が多く、中央館について、登録者数、貸出冊数が多く、特に、子どもの利用が著しく多い館である。学校としては、染地・杉森小学校・第三中学校などがある。

(2) 施設平面図 (縮尺 1/300) 設計・都市建築計画センター

床面積 482 m²
(図書館専用部分 290 m²
共用部分 192 m²)



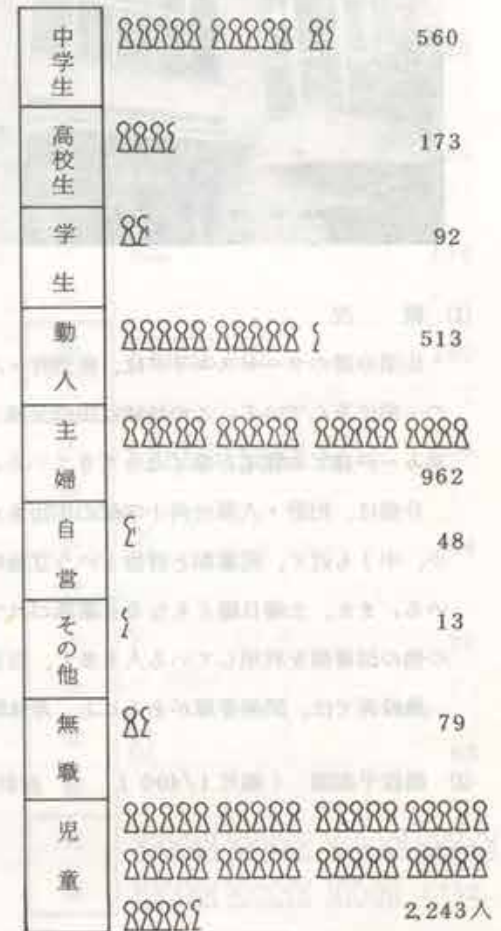
(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)



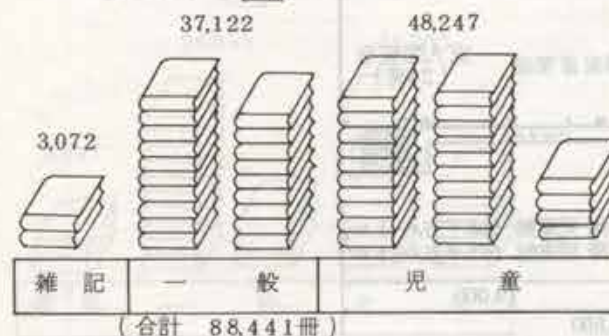
(合計 29,856冊)

ロ. 職業別登録者数 (△ 50人)



(合計 4,683人)

ロ. 貸出冊数 (2,000冊)



(4) 行事

- イ. おはなし会
第2・4木曜日
2:30~3:00(幼児)
3:30~4:00(小学生)
- ロ. 小学生読書会
第1日曜日
10:30~11:30

11. 佐須分館



〔所在地〕 調布市佐須町4-42-2

電話 0424-85-1306

昭和57年7月13日開館(児童館併設)

(京王線布田駅より徒歩15分)

(1) 概況

佐須分館のサービスエリアは、佐須町・八雲台を中心に柴崎・調布ヶ丘・深大寺元町・南町の一部に及んでいる。この地域は田畑が残され大きな農家が点在する一方、最近では宅地化が進み一戸建ての住宅が多くなってきている。

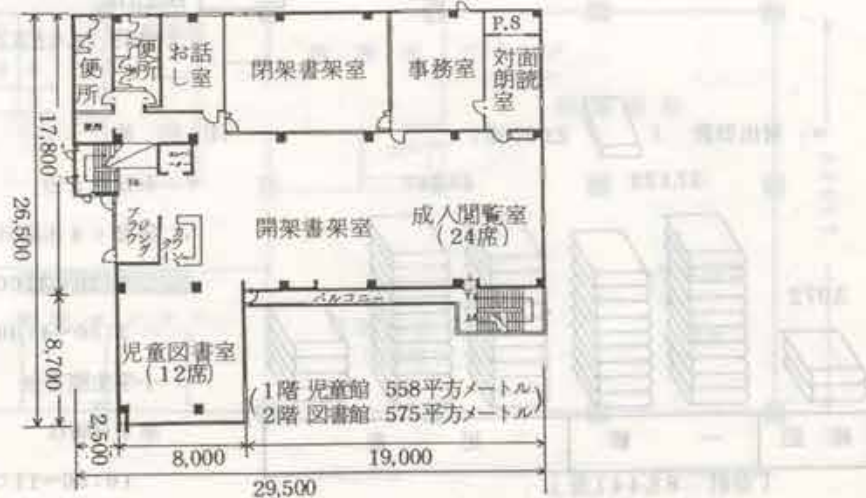
分館は、柏野・八雲台両小学校の中間あたりにあり、神代・第七中学校や私立見華学園(幼、小、中)も近く、児童館と併設という立地条件のため、平日は幼児や小・中学生でにぎわっている。また、土曜日曜ともなると家族づれで利用する姿がみられる。一般の利用者には、市内の他の図書館を利用している人も多く、図書館に対する要求や期待の高さがうかがえる。

施設面では、閉架書庫があること、身体障害者への配慮があることが特徴である。

(2) 施設平面図 (縮尺 1/400)

設計・相和技術研究所

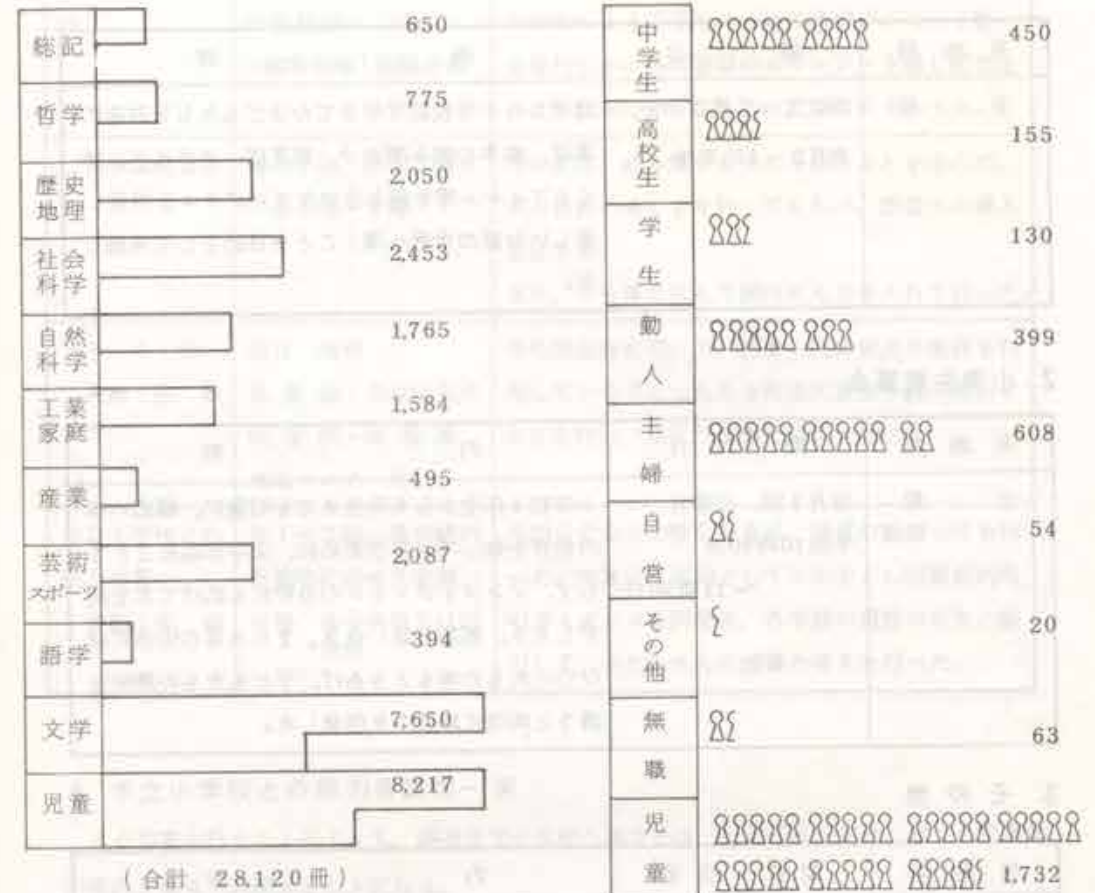
延床面積 605 m²
床面積 575 m²
一階共用部分 30 m²



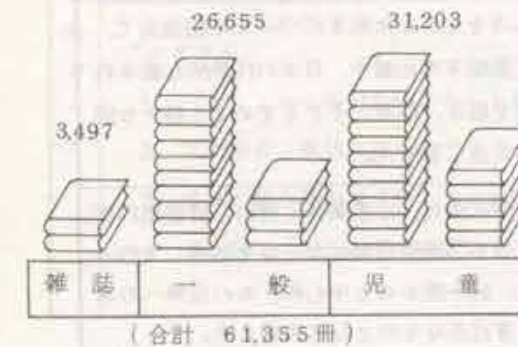
(3) 蔵書及び利用の状況 (59年度)

イ. 蔵書冊数 (1cm 1,000冊)

ロ. 職業別登録者数 (△ 50人)



イ. 貸出冊数 (2,000冊)



(4) 行事

- イ. おはなし会
毎週水曜日
2:30~3:00 (幼児)
3:30~4:00 (小学生)
- ロ. 小学生読書会
第2日曜日
10:00~11:00

IV 各館の事業

1. おはなし会

実施館	期 日	内 容
全 館	館によって異なるが、 毎月2～4回実施	幼児から小学校低学年までの子どもたちを対象に、 講話、絵本の読み聞かせ、紙芝居、スライド、16 ミリフィルム等を組み合わせたプログラムを用意し、 楽しいお話の世界へ導くことを目的として実施し た。

2. 小学生読書会

実施館	期 日	内 容
全 館	毎月1回、日曜日 午前10時30分 ～11時30分	小学校4年生から6年生までを対象に、幅広い本 の世界を知ってもらうために、文学作品にどどま らず、ノンフィクションの分野にも広げて本を紹 介したり、感想を話し合う。また日常の生活に結 びついたもの等もとりあげ、子どもたちの興味を 誘うと同時に創造力を啓発した。

3. その他

事業名	期日・会場	内 容
子どもの本を読 む会	毎月1回、第2火曜日 午前10時～12時 会場 中央館	今年度は、昔話、新刊書、基本的な図書などをと りあげて読書会を開催した。 又、大冊の作品にも手をのばし、相互の読後感を 話し合い、子どもと本に対する理解を深めた。
絵本の会	毎月1回、第2木曜日 午前10時～12時 会場 深大寺分館	お母さん方を主とした絵本についての勉強会で、 今年は昔話絵本の比較や、日本の代表的な絵本作 家の特集を組み、絵本と子どもをめぐる様々な問 題について話し合った。
おはなしの時間	毎週3回、日・火・木 曜日 午後3時～3時20分 会場 若葉分館	週3回定時に催し、日常業務(貸出、読書案内等) の延長として、専用のおはなし室を利用して行い、 講話しや、読み聞かせを中心に、本の世界への導 きをより身近かなものとして実施した。

事業名	期日・会場	内 容
中学生通信の発 行	毎月1回、日曜日 午前10時～12時 (編集会場) 国領分館	中学生との交流と、図書館利用の促進をめざして、 中学生による中学生のための通信「ぶちねこ便」 を発行した。各図書館のカウンターを通し配布を したが読者の中学生からの反響は大きかった。
二葉学園読書会	毎月1回、第4水曜日 午後6時～8時	今年度は、読み聞かせや本の紹介などを中心に、 本の世界の楽しさを知ってもらい、読書への導入 をはかる。 また、本を媒介にして創作にも力を入れて行った。
その 他 (実施)各 館	期日 随時 児 童 館・児童保育所 保 育 所・幼稚園 地域センター等	市の施設等に対して、図書の特貸出や施設を利用 している子どもたちを対象に講話や読み聞かせ などを行い、相互の連携をはかった。
市立小学校との 協力事業 (実施)全 館	年1～3回、各学級の 授業時に合わせて実施 会場 各小学校又は図 書館	市内公立全小学校を対象に、読書の動機づけを行 った。対象は、原則として3年生とし図書館利用 のガイダンスと同時に、各学級の担任の先生と協 力して、子どもたちに読書の導きを行った。

4. 市立小学校との協力事業の一例

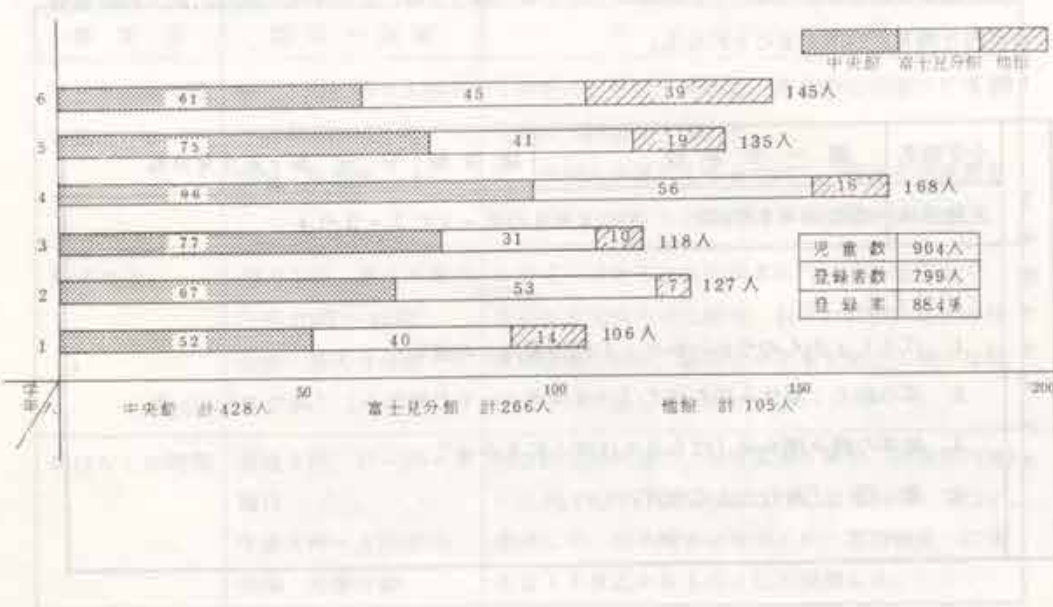
この事業を行うことによって、調布市立小学校へ通う子は、どの子も一度は、近くの図書館
の案内を聞き、利用することになる。

(例)

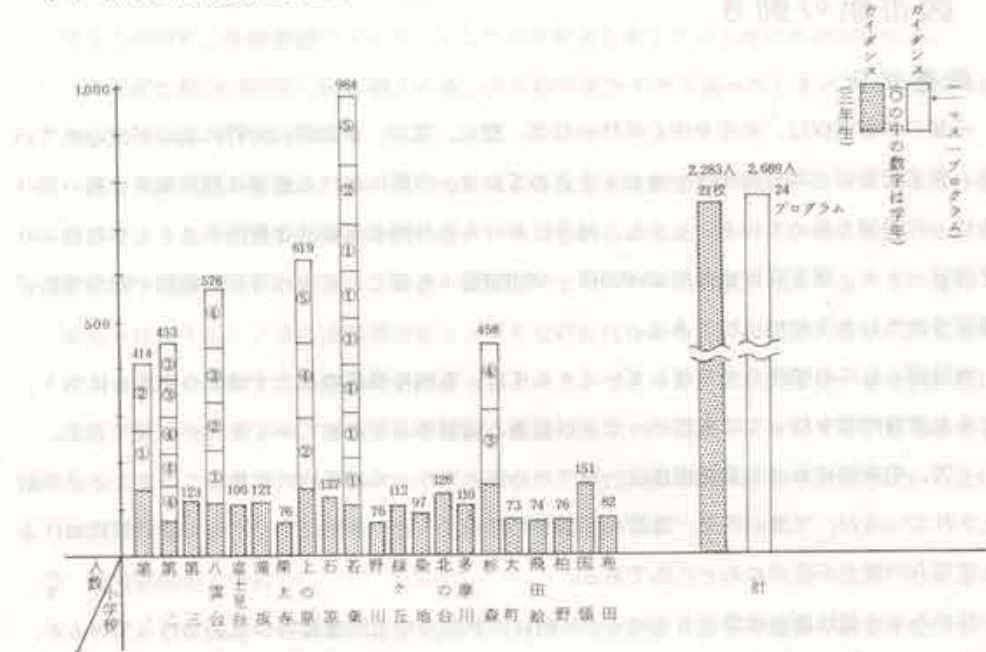
小学校名	第 一 小 学 校	担当館	中 央 館・富士見分館
3 年 生 ガ イ ダ ン ス	実施月日	昭和59年6月8日 3の1・3の2・3の3・3の4	
	プログラム	1. 「としゃかんのつかいかた」(利用案内)の説明 2. 本の紹介:夏休みにむけて「アリスネードの夏休み」「森のすかん」他 3. 絵本の読み聞かせ「はちうえはぼくにまかせて」 4. 素 話 「おむこさんの買いもの」	

団体貸出冊数	(120 + 160 + 160 + 160 + 160 + 160) × 2回 (1年) (2年) (3年) (4年) (5年) (6年)	計 1,920冊
その他の協力事業	ガイダンス以外の授業 ㊤ プログラム 1学年 1. 読み聞かせ 「ついでにねおナルドくん」 「ひなたやまゆうびんきょく」 2. 手紙のゲーム 「ぐりとぐらのおきやくさま」他 3. 本の紹介 「きょうはなんのひ」他 4. 素話 「ついでにペロリ」	㊦ プログラム 2学年 1. 読み聞かせ 「ねむりむじらあ」 2. 本の紹介 「ものぐさトミー」 「なまけねずみのウォルター」 「ぐうたら王とちよこまか女王」他 3. 素話 「なまぐらトック」
	・「私たちのすすめる本」を配布 (パンフレット) ・ガイダンスは読書後に行うように配慮する。 ・「夏休み向けリスト」の原稿を送付	・今年度は、三年生のガイダンスに終らず、一・二年生にも読書指導を実施できたのが、よかった。

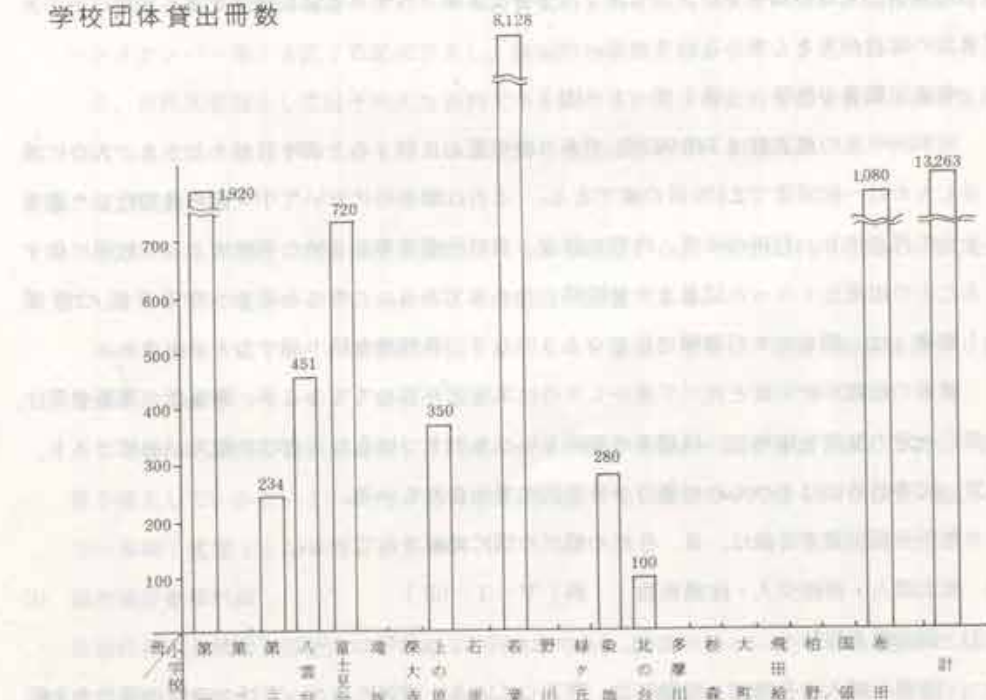
学年別、登録者数



学校協力事業実施児童数



学校団体貸出冊数



V 図書館の動き

1. 蔵書状況

各館の蔵書構成は、文学を中心に社会科学、歴史、芸術、家庭等の分野に重点が置かれている。児童図書は全体の約30パーセントを占めており、分野における蔵書は利用頻度の高い部分を中心に整備を進めている。しかし、当市における各分館の規模は比較的小さく（平均約330平方メートル、蔵書収容能力約25,000冊～30,000冊）このことによって収集範囲や収容冊数が限定されてしまうのが現状である。

地域館としての機能を十分果たしていくためには、各館の規模の拡大や機能の充実をはかり、十分な蔵書内容を持って図書館サービスが出来る体制作りを進めていく努力が必要である。

一方、中央館における蔵書構成は、全ての分野にわたって網羅的に収集していくことが原則とされているが、予算の不足、施設の不備等の理由で、その体制は十分でなく各分野における欠落部分の補充が急がれるところである。

現在の中央館は蔵書収容能力をはるかに超えた状況の中で図書資料の収集を行っているが、昭和57年に開館した佐須分館内の共同保存庫（5万冊収容可能）を利用して、書架から溢れた図書を保存しているのが現状である。そのため市民の求める資料を所蔵しているにも拘わらず、直ちに提供出来ない悩みをかかえており、十分な書架スペースと保存機能を備えた新しい中央図書館の建設が大きく求められている。

(1) 年度別蔵書の推移 表〔V-1-(1)〕

昭和59年度の蔵書数は340,982冊であり前年度と比較すると396冊減となった。大巾に減少したのは一般図書で2,570冊の減である。これは曝書時において中央館の老朽化した蔵書を全て再点検し、利用の状況、内容の鮮度、資料的価値等総合的な判断によって利用に供することの出来なくなった図書を大量除籍したためである。このことによって中央館の書架（蔵書）は、新しい本が書棚で目立つようになり、新鮮度を取り戻すことが出来た。

蔵書の総数が前年度と比べて減少したのは本年度が初めてであるが、図書館の開架書架は、常に一定の鮮度を維持し、利用者の興味をいつも引きつけられるだけの魅力が必要であり、又、図書館員にはそのための努力が日常的に求められている。

※館別分類別蔵書冊数は、Ⅲ、各館の概況の項に掲載されている。

(2) 館別購入・寄贈受入・除籍冊数 表〔V-1-(2)〕

① 館別購入冊数

図書の購入は各館ごとに選定し、購入している。選定にあたっては、分館の場合ある程度の範囲を限定し、日常的なものを中心に購入しているが、一方、中央館では全ての分野

を範囲として網羅的に選定し、基礎的な資料から専門的資料へと奥行を深めていく様配慮すると同時に、各図書館のセンターとしての役割をも果たしていかなければならない。

今年度は約34,000冊の図書購入があったが昨年度をやや下廻ってしまい、総蔵書数の約10.1パーセントにあたる。

図書の年間購入冊数は、その利用の状況から見ると総蔵書数の約20パーセントを常に更新させることが望ましいと、専門的なデータでも明らかになっている。前にも述べた様に比較的小規模の分館の場合は、蔵書の新鮮度によって利用の状況が大きく左右され書棚の鮮度を維持することは大変重要なことと考えなければならない。年間購入冊数の総蔵書数に占める割合によって、蔵書の新鮮度を見ることが出来るが、調布図書館の場合新鮮度は10.1パーセントであり、望ましい年間購入冊数の比率15～20パーセントを下廻る結果となっており、利用者のリクエストに応じていくためにも更に購入図書の充実をはからなければならない。

② 館別寄贈受入冊数

市民からの図書の寄贈は、日常的に行われ市民図書館としての認識の高まりを示している。寄贈された図書は当館の受入基準と照し合せ可能な限り受入れている。

今年度の寄贈受入冊数は、3,542冊を受入れたが昨年度より約1,500冊減となった。今後の課題としては、図書館の求めている図書資料（現在購入出来ない資料、保存雑誌等のバックナンバー等）を広く市民にPRし、積極的な収集をはかっていきたい。

又、市民図書館としては不可欠な資料である調布市に関する資料（郷土資料）の収集についても市民の協力を得て埋もれている資料の発掘に努めていきたい。

③ 館別除籍冊数

分館における蔵書の寿命は受入後約5～6年を経過すると一般的な利用は殆んどなくなってしまう。特に規模の小さい場合にはその傾向が顕著である。

そのため各分館では、利用頻度の低下したものを書架から外し、蔵書の鮮度を維持し魅力のある書架をつくっていく必要がある。

この様に定期的に書架を点検し、利用の少ない図書や傷んだ図書を抜き出して新しい図書を補充していかないと、折角の新刊を書架に並べても書架の中に埋もれてしまい魅力のない書架（蔵書）となってしまう。

(3) 館別蔵書整備計画

各館における蔵書収容能力は平均約30,000冊であり、歴史の新しい2～3館を除いては、既に収容能力を越えているのが現状である。しかし、常に新鮮な蔵書を求めている市民に対し限られたスペースしか持たない分館の場合は、蔵書の量よりも内容によって市民の期待に

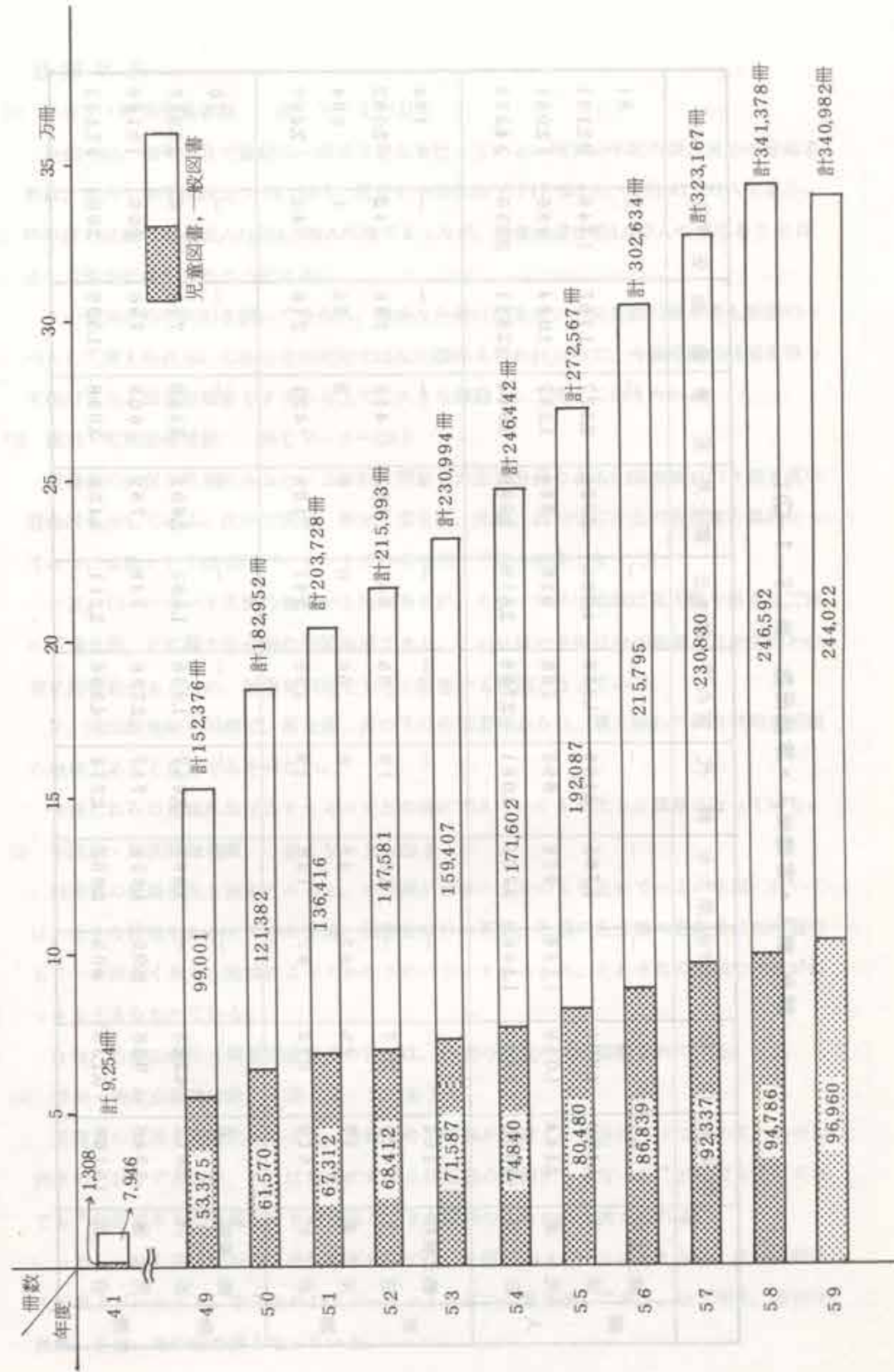
戻していかなければならない。

そのためには、蔵書の15～20パーセントの更新が必要であることは、前述したとおりである。57年度までの「数字で見る図書館活動」では、各館における年度別の蔵書計画試案が示されていたが、各館における蔵書収容能力に限界を来している現在、この様な蔵書の量的な計画を具体的に示すことはあまり重要な意味を持たなくなってきた。

図書館にとって最も重要な蔵書の整備については、毎年総蔵書数の20パーセントの冊数を常に補充していくことを目標に、より一層充実させる努力をし、各館から溢れた蔵書は共同保存書庫の有効的な活用をはかり、市民の役に立つ蔵書(財産)づくりを進めていくことを計画している。

又、日常的に利用される蔵書とは別に、調布市の図書館として郷土に係る人々の著作や、郷土に関する資料等、地域の図書館においてこれらの資料をコレクションとして収集することは、非常に重要な意味を持ち調布市立図書館の蔵書を構築していく上で大きな柱となるものであり、今後これらの分野にも積極的な姿勢で取組んでいきたい。

表[V-1-1(1)] 年度別蔵書の推移



館別 購入・寄贈受入・除籍冊数 表〔V-1-(2)〕

購入	中央館		国領	つつじヶ丘	深大寺	神代	宮の下	緑ヶ丘	富士見	若葉	柴地	佐須	計
	郷土資料	成 人	1,801	—	1,765	2,186	1,938	1,923	2,025	2,577	1,767	1,749	81
寄贈	2,144	1,015	1,146	—	956	895	768	916	884	1,267	1,084	986	22,191
除籍	6,685	2,816	1,146	—	2,721	3,081	2,706	2,839	2,909	3,844	2,851	2,735	12,061
	164	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	34,333
	429	247	247	—	103	19	95	347	182	413	185	42	164
	17	25	87	87	35	0	60	0	6	8	25	1	264
	610	272	87	87	138	19	155	347	188	421	210	43	2,490
	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	8,612	4,225	4,225	—	1,567	2,057	1,858	1,863	2,693	3,349	713	0	26,937
	1,548	908	505	505	1,035	717	2,738	348	762	609	796	200	10,166
	10,160	5,133	505	505	2,602	2,774	4,596	2,211	3,455	3,958	1,509	200	37,103

2. 登録状況

(1) 年度別・町別登録者数 表〔V-2-(1)〕

当館では、毎年4月で登録の一斉切り替えを行っている。昭和59年度の個人貸出の登録者数は、成人(中学生以上)24,159人、児童(小学生以下)17,632人、合計41,791人である。昨年度と比較すると成人は約1,000人の増であったが、児童は逆に約1,000人の減であり全体として僅かに減少したことになる。

この傾向は昨年に引き続いてみられ、確かな分析は出来ないが児童数の減少等も要因の一つとして考えられる。しかしそれだけではない様にも思われるので、今後時間の経過を待つて検討を加え図書館活動をすすめる上での大きな課題として考えていきたい。

(2) 館別・町別登録者数 表〔V-2-(2)〕

登録者の状況を町別にみると、2年前に開館した佐須分館のある佐須地域が引き続き高い登録率を示している。次いで国領、柴地、富士見、柴崎、西つつじヶ丘の各地域の順になっており、全体としては22.7パーセントで昨年を若干下回る結果となった。

一方、15パーセント未満の地域が2地域あるが、その一つ仙川地域は京王線をはさんで南に若葉分館、北に緑ヶ丘分館の中間地域であり、この地域の住民は生活動線とは逆方向の位置に図書館があるため、図書館利用を大きく阻害する要因となっている。

又、飛田給地域も同様で、富士見、宮の下の各図書館からは、遠く離れており利用が困難の地域であると言わざるを得ない。

今後これらの地域におけるサービスをどの様に考えていくかが大きな課題となっている。

(3) 年度別・館別登録者数 表〔V-2-(3)〕

利用者の登録状況を館別にみると、中央館が全体の4分の1を占めている。分館においては、大きな団地をかかえている柴地、国領をはじめ若葉、佐須の各分館の登録者は他の館の1.5~2倍近くあり、地域によってかなりのバラツキがみられ、それぞれの地域の状況がはっきりとあらわれている。

なお、各館における職業別登録者の状況は、各館の概況の項に掲載されている。

(4) 館別・職業別登録者数 表〔V-2-(4)〕

登録者の状況を職業別にみると、登録者の半数弱が児童(小学生以下)で占めているのは例年のとおりであるが、これは地域における分館網の整備にともなって"どこでも""だれでも"利用できる図書館づくりを目指してきた成果のあらわれと考えられる。

一方、一般(中学生以上)の登録者の中では、主婦が31.4パーセントを占め、次いで勤め人が21.5パーセント、中学生が17.8パーセントと高い位置を示しており、以下学生、高校生、無職、自営、その他の順となっている。

中央館と分館とでこの状況を比較してみると、中央館は学生(24.2%)、勤め人(23.1%)、主婦(20.9%)、高校生(11.4%)、中学生(10.9%)の順になっている。

これに対して分館の状況をみると、主婦(36.0%)、勤め人(20.8%)、中学生(20.7%)、高校生(8.6%)、学生(6.9%)と昨年とほぼ同様の傾向となっている。

この結果でわかる様に中央館と分館では、その利用形態が明らかに異っている。これは蔵書の量や内容、地理的条件等様々な要因が考えられるが、それぞれの地域では分館の活動が日常生活の中にしっかりと根づいてきていることを物語っている。

分館において、勤め人の登録者が中学生を抜いて第二位に位置づけられていることは大きな意味を持っている。

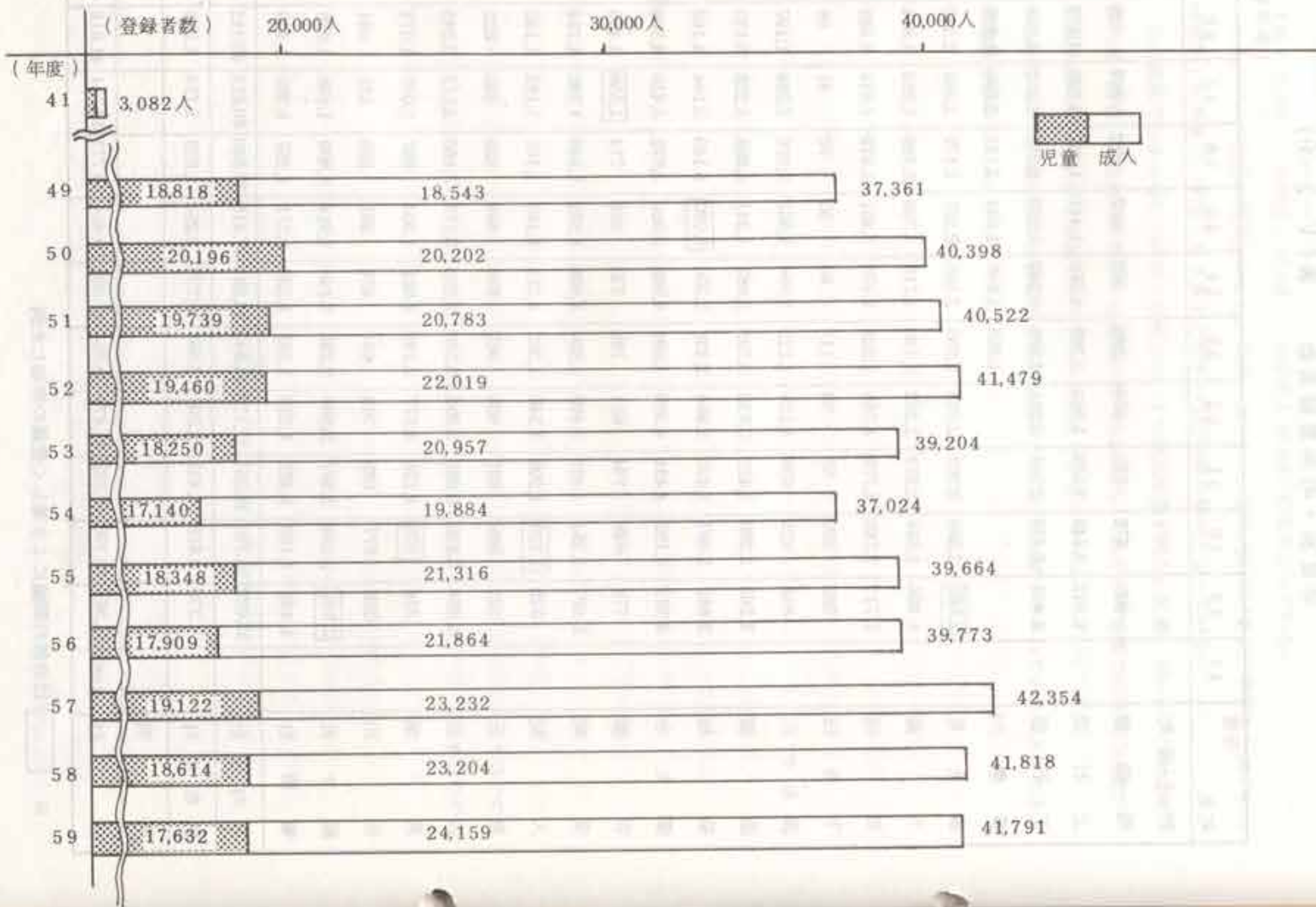
年度別・町別登録者数 表〔V-2-(1)〕

(各年度末)

町名	年度	41	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
野水・西町													
飛田給			606	672	575	600	589	662	687	682	697	708	770
上石原			1,812	1,743	1,573	1,563	1,367	1,370	1,441	1,432	1,500	1,472	1,575
下石原			2,451	2,478	2,344	2,511	1,326	1,262	1,212	1,285	1,252	1,249	1,260
多摩川							1,865	1,806	1,944	2,111	2,080	1,929	1,911
富士見			2,583	2,399	2,302	2,263	2,083	2,105	2,247	2,137	2,366	2,380	2,403
小島			1,696	1,864	2,219	2,202	1,798	1,716	1,726	1,789	1,859	1,874	1,770
布田			1,715	1,748	1,708	1,765	1,528	1,470	1,461	1,579	1,644	1,689	1,640
下布田			385	359	55	90	117	66	95	70	81	69	84
調布ヶ丘			858	925	936	1,125	1,127	1,096	1,062	1,016	1,249	1,197	1,265
国領			3,260	3,286	3,422	3,838	3,795	3,667	4,341	4,688	5,208	6,133	6,042
粟地			2,662	2,483	2,420	2,686	2,438	2,300	5,080	5,149	5,184	4,162	4,095
深大寺			3,917	4,192	4,431	4,399	4,094	4,048	3,959	3,872	4,410	4,366	4,411
佐須			774	848	794	851	786	733	668	714	1,556	1,455	1,468
柴崎			1,577	1,354	1,495	1,498	1,504	1,508	1,523	1,440	1,780	1,754	1,720
人間			320	1,229	1,298	1,348	1,302	1,212	1,158	1,161	1,189	1,132	1,275
東つつじヶ丘			523	869	827	930	955	876	849	924	930	822	845
西つつじヶ丘			3,630	3,830	3,985	3,793	3,550	3,293	3,177	3,160	3,112	3,246	3,288
若葉			316	876	1,125	1,177	1,103	1,001	1,004	997	1,007	1,073	1,134
仙川			385	877	639	709	694	676	591	550	521	564	519
緑ヶ丘			2,391	2,598	2,517	2,566	2,291	2,146	1,914	1,800	1,688	1,638	1,644
菊野台			1,161	1,150	1,422	1,258	1,332	1,238	1,271	1,287	1,303	1,400	1,254
市内小計			33,022	35,780	35,087	37,172	35,644	34,251	37,410	37,840	40,616	40,312	40,373
調布市外			4,339	4,618	4,435	4,307	3,563	2,773	2,254	1,933	1,738	1,506	1,418
不明													
合計		3,082	37,361	40,398	40,522	41,479	39,204	37,024	39,664	39,773	42,354	41,818	41,791

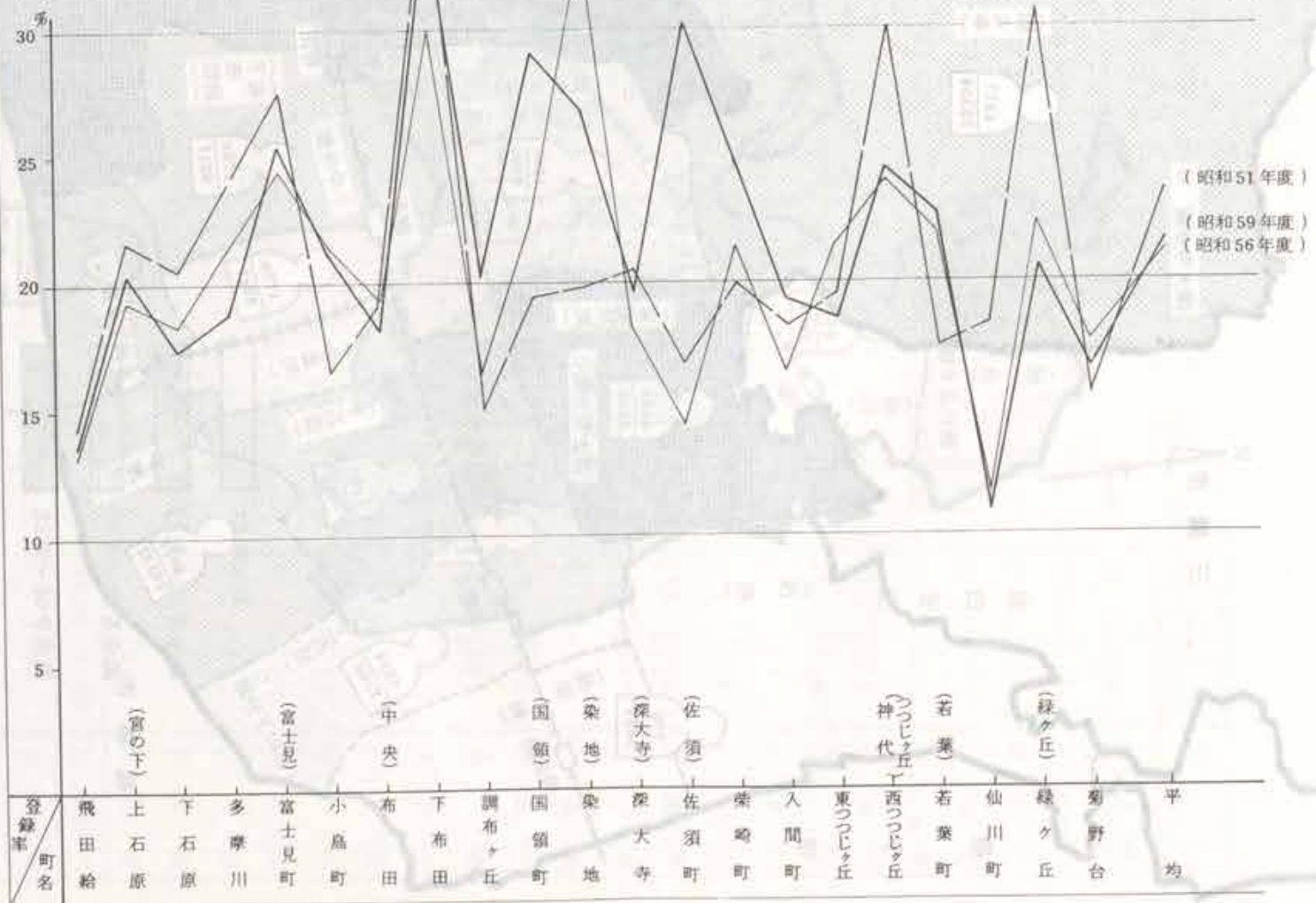
※ □ は分館の開館により著しく登録の増加した例

年度別登録者数の推移 表[V-2-(1)]



-50-

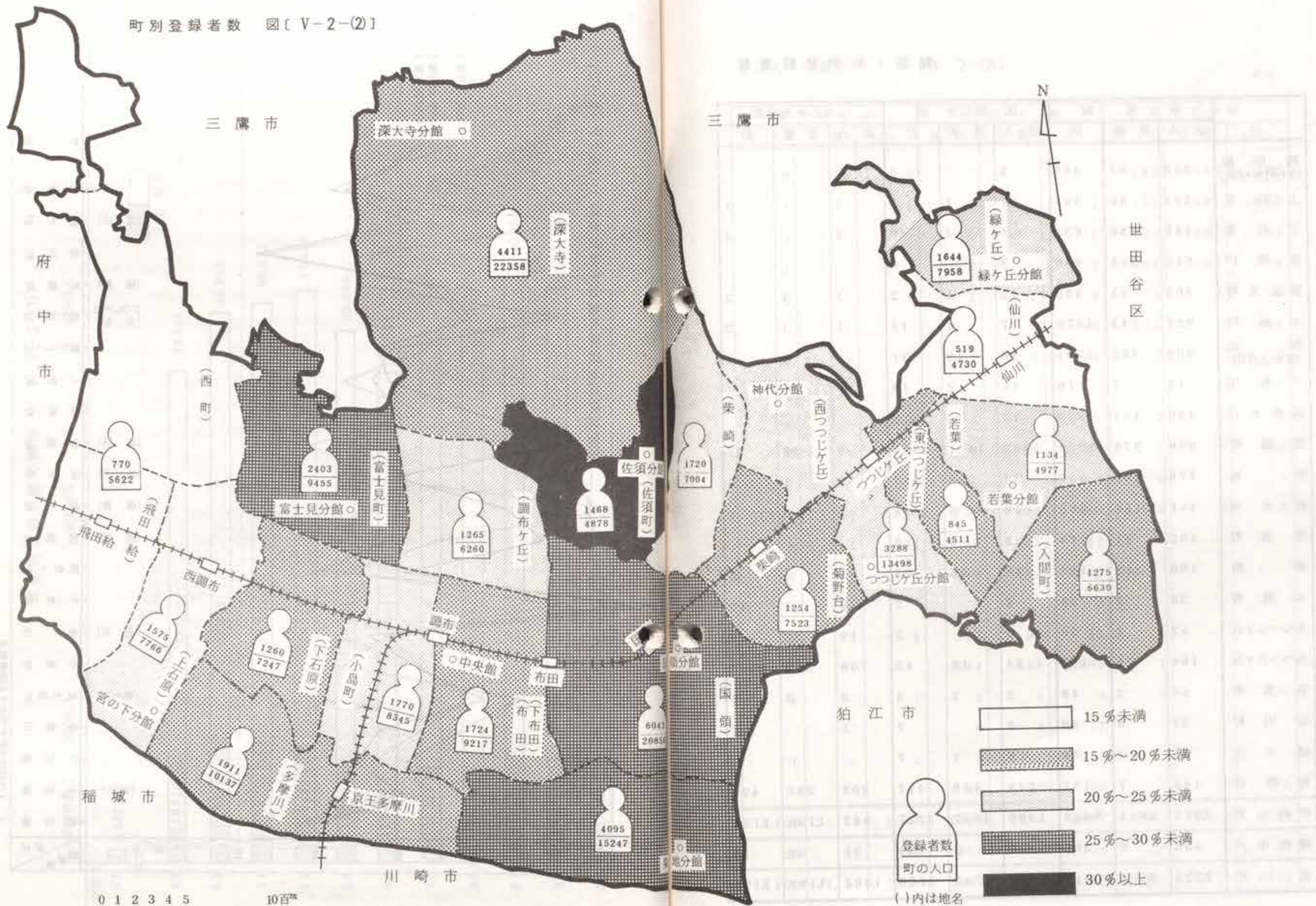
年度別町別登録率の変化(年度抜粋) 表[V-2-(2)]



()内は該当町に所在する図書館名

-51-

町別登録者数 図[V-2-(2)]



0 1 2 3 4 5 10百m
- 52 -

館別・町別登録者数

	中央館			国領分館			つつじヶ丘分館		
	成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
飛田給 (含む野水・西町)	253	93	346	5		5			
上石原	305	90	395	7	1	8	1		1
下石原	447	188	635	5	4	9	2		2
多摩川	612	354	966	3		3			
富士見町	405	83	488	1	1	2	1	1	2
小島町	927	543	1470	7	4	11	1	1	2
布田 (含む上布田)	909	482	1391	18	19	37		1	1
下布田	14	2	16	11	2	13			
調布ヶ丘	420	154	574	12		12			
国領町	696	324	1020	1469	1451	2920	9	28	37
染地	779	168	947	84	28	112	5	1	6
深大寺	451	114	565	10	8	18	1	6	7
佐須町	152	21	173	22	6	28			
柴崎	100	13	113	48	25	73	5	3	8
人間町	36	2	38	2		2	9	3	12
東つつじヶ丘	52	4	56	3		3	19	27	46
西つつじヶ丘	164	26	190	24	18	42	708	785	1493
若葉町	46	2	48	2	1	3	3	3	6
仙川町	31	8	39	2		2	1		1
緑ヶ丘	31	3	34	6	1	7			
菊野台	145	7	152	249	168	417	202	297	499
市内小計	6975	2681	9656	1990	1737	3727	967	1156	2123
調布市外	350	6	356	36	3	39	37	36	73
合計	7325	2687	10012	2026	1740	3766	1004	1192	2196

(成人・児童別) 表[V-2-(2)]

表1

深大寺分館			神代分館			宮の下分館		
成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
2		2				183	189	372
1		1	3		3	534	501	1035
3		3	1		1	174	187	361
1		1	2		2	402	454	856
6		6	1	1	2	3	3	6
			2	2	2	33	1	34
1	2	3	2	1	3	2		2
							1	1
2		2	1		1	2		2
2	4	6	7	13	20	3	9	12
1		1	9		9	6		6
1396	1160	2556	236	204	440	3	3	6
1	1	2	38	15	53			
3	1	4	649	493	1142			
			3		3			
1		1	45	36	81			
			644	448	1092	1		1
1		1	2	1	3	1		1
			6	5	11			
1		1	3		3			
			49	47	96	1		1
1422	1168	2590	1701	1266	2967	1348	1348	2696
38	22	60	256	100	356	33	2	35
1460	1190	2650	1957	1366	3323	1381	1350	2731

館別・町別登録者数

	緑ヶ丘分館			富士見分館			若葉分館		
	成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
飛田給 (含む野水・西町)				18	18	36			
上石原	1	2	3	67	60	127			
下石原	1		1	127	100	227	2	1	3
多摩川				1	6	7	4		4
富士見町	1		1	915	957	1872	1	1	2
小島町		3	3	105	103	208		1	1
布田 (含む上布田)	1	1	2	4	14	18	6	2	8
下布田		1	1	1		1			
調布ヶ丘		1	1	72	68	140	2		2
国領町		10	10	6	2	8	10	22	32
染地	2	1	3	1	8	9	8		8
深大寺	1	1	2	97	89	186	3	4	7
佐須町	1		1	1		1	3		3
柴崎町	1		1		1	1	5	5	10
入間町		3	3		1	1	597	616	1213
東つつじヶ丘	1	1	2				323	332	655
西つつじヶ丘	3	8	11		2	2	279	138	417
若葉町	7	2	9				608	454	1062
仙川町	82	82	164				176	123	299
緑ヶ丘	822	741	1,563				16	15	31
菊野台	1		1		1	1	22	9	31
市内小計	925	857	1,782	1,415	1,430	2,845	2,065	1,723	3,788
調布市外	146	93	239	6	19	25	102	38	140
合計	1,071	950	2,021	1,421	1,449	2,870	2,167	1,761	3,928

(成人・児童別) 表[V-2-(2)]

表2

染地分館			佐須分館			合計		
成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
1	2	3	3	3	6	465	305	770
	1	1	1		1	920	655	1,575
6	2	8	6	4	10	774	486	1,260
43	28	71	1		1	1,069	842	1,911
3		3	13	6	19	1,350	1,053	2,403
7	3	10	16	13	29	1,096	674	1,770
43	20	63	49	63	112	1,035	605	1,640
	1	1	35	16	51	61	23	84
90	2	92	195	244	439	796	469	1,265
1,100	263	1,363	268	346	614	3,570	2,472	6,042
1,099	1,872	2,971	17	6	23	2,011	2,084	4,095
2	4	6	318	300	618	2,518	1,893	4,411
3		3	714	490	1,204	935	533	1,468
3		3	180	185	365	994	726	1,720
1		1	2		2	650	625	1,275
			1		1	445	400	845
1		1	17	22	39	1,841	1,447	3,288
			1		1	671	463	1,134
			2	1	3	300	219	519
2	2	4	1		1	882	762	1,644
3		3	21	32	53	693	561	1,254
2,407	2,200	4,607	1,861	1,731	3,592	23,076	17,297	40,373
33	43	76	18	1	19	1,055	363	1,418
2,440	2,243	4,683	1,879	1,732	3,611	24,131	17,660	41,791

年度別・館別登録者数

年度		41	50	51	52	53
成人	中央館	2,161	8,288	7,984	8,520	8,262
	国領分館		1,881	1,930	2,157	2,180
	つつじヶ丘分館		1,168	1,080	1,058	996
	深大寺分館		1,564	1,665	1,557	1,346
	神代分館		2,004	2,301	2,324	2,222
	宮の下分館		1,252	1,264	1,315	1,205
	緑ヶ丘分館		1,154	1,201	1,348	1,314
	富士見分館		1,174	1,249	1,287	1,179
	若葉分館		1,717	2,109	2,453	2,253
	佐須分館					
計	2,161	20,202	20,783	22,019	20,957	
指数	100	935	962	1,019	970	
児童	中央館	921	4,842	4,531	4,659	4,425
	国領分館		2,255	2,108	2,225	2,058
	つつじヶ丘分館		2,246	2,343	1,842	1,643
	深大寺分館		1,688	1,605	1,746	1,473
	神代分館		2,103	2,142	2,023	1,918
	宮の下分館		1,754	1,620	1,644	1,574
	緑ヶ丘分館		1,761	1,768	1,755	1,705
	富士見分館		1,537	1,564	1,476	1,428
	若葉分館		2,010	2,058	2,090	2,026
	佐須分館					
計	921	20,196	19,739	19,460	18,250	
指数	100	2,193	2,143	2,113	1,982	
合計	中央館	3,082	13,130	12,515	13,179	12,687
	国領分館		4,136	4,038	4,382	4,238
	つつじヶ丘分館		3,414	3,423	2,900	2,639
	深大寺分館		3,252	3,270	3,303	2,819
	神代分館		4,107	4,443	4,347	4,140
	宮の下分館		3,006	2,884	2,959	2,779
	緑ヶ丘分館		2,915	2,969	3,103	3,019
	富士見分館		2,711	2,813	2,763	2,607
	若葉分館		3,727	4,167	4,543	4,279
	佐須分館					
計	3,082	40,398	40,522	41,479	39,207	
指数	100	1,311	1,315	1,346	1,272	
登録率	2.5	23.6	23.5	23.8	22.4	

表[V-2-(3)]

54	55	56	57	58	59
7,844	7,609	7,868	7,666	7,360	7,325
2,000	1,972	2,017	2,129	2,037	2,026
944	949	1,009	971	1,027	1,004
1,377	1,344	1,375	1,483	1,475	1,460
2,010	1,984	1,927	1,901	1,919	1,957
1,203	1,170	1,264	1,242	1,256	1,381
1,243	1,068	1,023	954	941	1,071
1,177	1,262	1,197	1,304	1,324	1,421
2,086	1,958	2,003	1,948	1,935	2,167
	2,000	2,181	2,279	2,370	2,440
			1,355	1,560	1,879
19,884	21,316	21,864	23,232	23,204	24,131
920	986	1,011	1,075	1,074	1,118
4,057	3,558	3,534	3,210	2,901	2,687
1,910	2,022	2,113	1,989	1,969	1,740
1,422	1,326	1,235	1,234	1,296	1,192
1,471	1,404	1,320	1,349	1,203	1,190
1,755	1,687	1,576	1,516	1,481	1,366
1,598	1,535	1,507	1,532	1,389	1,350
1,583	1,334	1,188	1,073	1,000	950
1,436	1,529	1,414	1,521	1,481	1,449
1,908	1,736	1,692	1,688	1,750	1,761
	2,217	2,330	2,388	2,331	2,243
			1,622	1,813	1,732
17,140	18,348	17,909	19,122	18,614	17,660
1,861	1,992	1,944	2,076	2,021	1,914
11,901	11,167	11,402	10,876	10,261	10,012
3,910	3,994	4,130	4,118	4,006	3,766
2,366	2,275	2,244	2,205	2,323	2,196
2,848	2,748	2,695	2,832	2,678	2,650
3,765	3,671	3,503	3,417	3,400	3,323
2,801	2,705	2,771	2,774	2,645	2,731
2,826	2,402	2,211	2,027	1,941	2,021
2,613	2,791	2,611	2,825	2,805	2,870
3,994	3,694	3,695	3,636	3,685	3,928
	4,217	4,511	4,667	4,701	4,683
			2,977	3,373	3,611
37,024	39,664	39,773	42,354	41,818	41,791
1,201	1,287	1,290	1,374	1,357	1,357
21.2	22.5	22.2	23.4	23.0	22.7

館別・職業別登録者数 表〔V-2-(4)〕

館名 職業別	中央館	国領	つばき丘	深大寺	神代	冠の下	緑ヶ丘	富士見	若葉	染地	佐須	合計	%
中 学 生	797	421	135	249	306	338	217	278	539	560	450	4,290	10.3
高 校 生	833	197	52	146	206	119	98	110	193	173	155	2,282	5.5
学 生	1,769	167	28	114	191	92	71	79	186	92	130	2,919	7.0
勤 人	1,693	460	213	292	404	270	214	316	414	513	399	5,188	12.4
主 婦	1,529	619	509	544	696	477	391	570	685	962	608	7,590	18.2
自 営	181	46	22	47	39	22	21	28	56	48	54	564	1.3
そ の 他	163	28	14	15	36	18	20	17	24	13	20	368	0.9
無 職	360	88	31	53	79	45	39	51	70	79	63	958	2.3
小 計	7,325	2,026	1,004	1,460	1,957	1,381	1,071	1,449	2,167	2,440	1,879	24,159	57.9
児 童	2,687	1,740	1,192	1,190	1,366	1,350	950	1,421	1,761	2,243	1,732	17,632	42.1
合 計	10,012	3,766	2,196	2,650	3,323	2,731	2,021	2,870	3,928	4,683	3,611	41,791	100
%	24.0	9.0	5.3	6.3	8.0	6.5	4.8	6.9	9.4	11.2	8.6	100	

(5) 市内小中学生の登録状況(昭和59年度調査結果) 表〔V-2-(5)〕

この調査は、3年に一回の割合で実施している調査で、調査方法は図書館に登録されたデータをもとに、各学校別、学年別に仕訳けをして集計したものである。

これまでの調査は昭和43、47、50、53、56年度に実施をし今回は6回目の調査である。

イ. 小学生の状況

学校別に登録状況を見ると、飛田給小が60%を下廻っており、富士見台小、深大寺小、がそれに次いで低い登録率となっている。これらの地域は市内に点在する分館との距離が比較的遠く、児童の図書館利用に関しては困難地域といわなくてはならない。

しかし、前回の調査結果と比較すると50%台の学校が2校あったが今回は1校となり60%台が5校で全体的なレベルアップが計られた。

学年別の状況を見ると、3~4年生を頂点として山型の登録率を示しているが、前回の調査結果と比べ各学年とも登録率が上廻っており4年生では95.8%殆んど全児童が登録している。前回65%であった6年生も76.0%と大巾にアップし、小学生の全体の登録率は85.0%で全国的にも高い数値を示している。

尚、当館においては、小学校と協力をして3年生を対象に図書館利用のガイダンスや、ブックトーク、読み聞かせ、素話等を定期的実施し、読書の動機づけを行っている。

このことが何らかの成果として高い登録率となっていると思われる。

ロ. 中学生の状況

中学生の場合は、学校別の格差がかなりあり高い学校で73.1%(四中)、低い学校では35.4%(八中)、38.9%(調布中)となっており、近くに分館がある場合とそうでない場合の状況が端的にあらわれている。また館別の登録状況を見ると蔵書を多く所蔵している館に集まる傾向が少しずつ見られ、中学生の行動範囲が小学生のときよりさらに拡大していることがわかる。

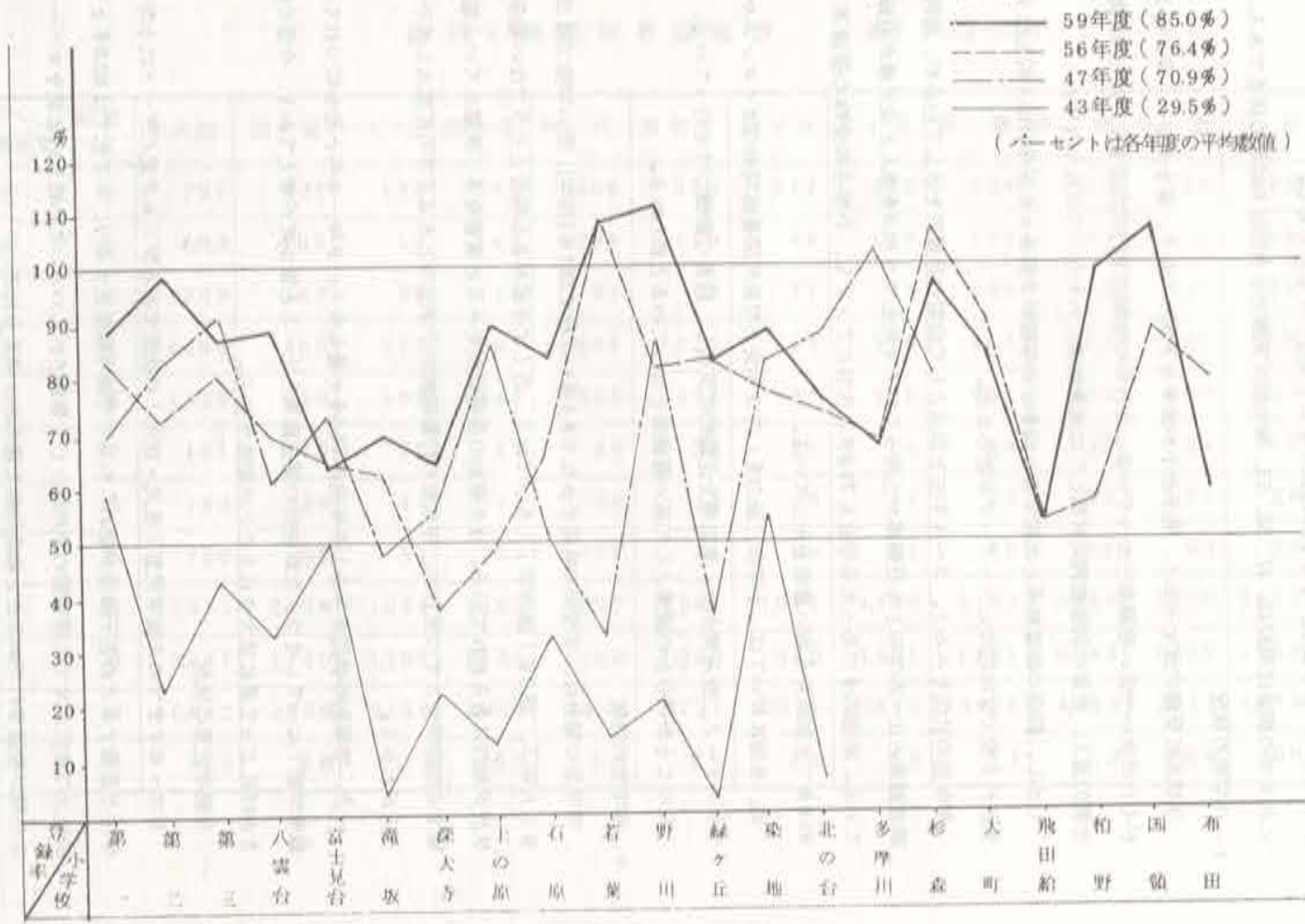
一方、学年別の状況を見ると1年生が66.5%と最も多く、2年、3年と進むにつれて登録率が低くなってしまふ。なお前回の調査結果と比べると僅かだが増えており、今後の働きかけによって更に拡大されることが期待出来る。

ハ. 未就学児童の状況

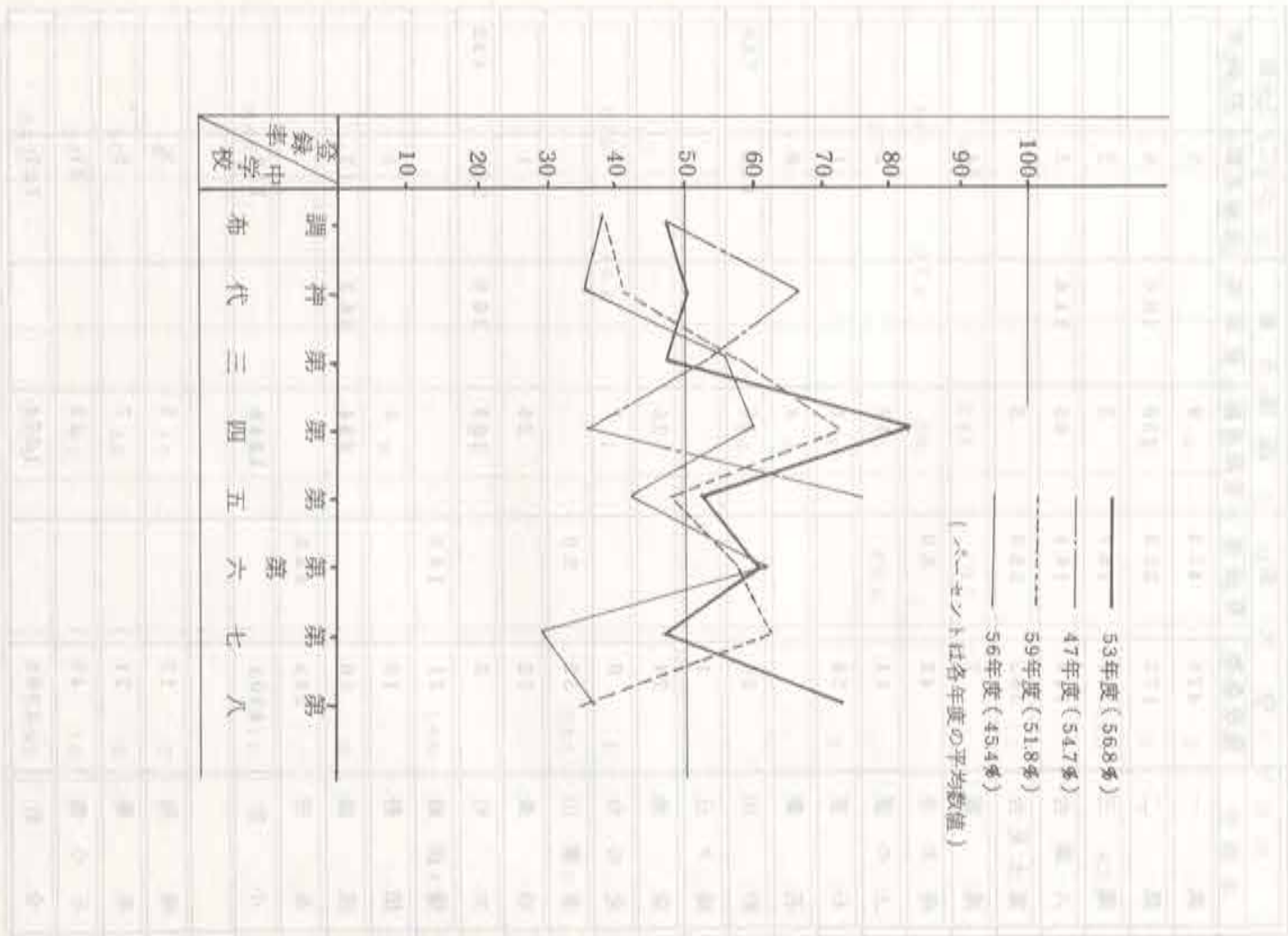
0才~6才までの未就学児童(乳児・幼児)の状況であるが(6才児のデータは小学1年生と重複するため若干誤差が認められるので参考程度とする)、5才児では62.0%と半数以上の幼児がすでに図書館の利用者として登録されている。これは市内全域をカバーする分館が整備されていることの具体的な現われと考えられる。

登録率が低くなってしまうが。

学校別登録率の推移 (小学校) 表[V-2-(5)]



学校別登録率の推移 (中学校) 表[V-2-(5)]



学校別・館別登録者数

	中央館		国領分館		つつじヶ丘分館	
	登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
第一	428	47.3	9		5	
第二	173	35.3	238	48.6	6	
第三	109	15.7	3		2	
八雲台	118	16.1	85	11.6	3	
富士見台	382	59.0	3			
滝坂	7				24	
深大寺	42	8.0				
上の原	11		17		2	
石原	58		1		1	
若葉			4		8	
野川	20		16		418	78.6
緑ヶ丘	1					
染地	24		25			
北の台	8		1			
多摩川	52	9.0				
杉森	72		25		1	
大町	5		123	26.9	230	43.2
飛田給	71	14.5				
柏野	19		5		1	
国領	56		694	86.3	17	
布田	245	43.3				
小計	1,901		1,249		718	
桐朋	17		5		3	
晃華	21		7		5	
その他	49		13		31	
合計	1,988		1,274		757	

(小学校) 表[V-2-(5)]

表1

深大寺分館		神代分館		宮の下分館	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
		4		3	
1		4		1	
				443	63.6
				11	
1		146	19.7		
144	27.4	36			
17		655	69.4		
		1		2	
		4			
		26			
679	74.1	1		1	
				332	57.5
		21			
				169	34.6
		9			
4		11		8	
846		918		970	
4		12		7	
10		38		3	
27		87		10	
887		1,055		990	

学校別・館別登録者数

	緑ヶ丘分館		富士見分館		若葉分館	
	登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
第一	3		266	29.4	4	
第二	4		3		3	
第三	3		44			
八雲台	4				4	
富士見台			6			
滝坂	20		1		297	40.1
深大寺			11			
上の原					6	
石原			579	74.3	1	
若葉	3				780	105.8
野川	9				83	15.6
緑ヶ丘	587	79.9			13	
染地						
北の台						
多摩川			3			
杉森	1					
大町					6	
飛田給			10			
柏野	1				1	
国領	5		4		11	
布田						
小計	640		927		1,209	
桐朋	6		4		20	
晃華	3		1		6	
その他	75		12		40	
合計	724		944		1,275	

(小学校) 表[V-2-(5)]

表2

染地分館		佐須分館		計	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
6		71		799	88.4
44	9.0	10		487	99.4
		2		606	87.1
5		431	58.9	650	88.8
4		2		408	63.1
				496	66.9
		105	20.0	338	64.4
		135	14.3	843	89.3
		4		647	83.1
				799	108.4
		16		588	110.5
2				603	82.0
474	80.2	1		524	88.7
		2		692	75.5
1				388	67.2
791	85.1			890	95.7
		1		386	84.3
3		3		256	52.4
		455	92.3	491	99.9
14		42		866	107.7
148	26.1			393	69.4
1,492		1,280		12,150	85.0
4		7		89	
2		24		120	
44		10		398	
1,542		1,321		12,757	

学校別・学年別登録者数

	1 年		2 年		3 年	
	児童数	登録者数	児童数	登録者数	児童数	登録者数
第 一	131	106	141	127	144	118
第 二	72	58	70	61	78	82
第 三	93	72	107	85	123	118
八 雲 台	120	95	108	95	113	109
富 士 見 台	108	61	104	67	109	77
滝 坂	123	73	110	72	121	89
深 大 寺	78	47	87	37	76	51
上 の 原	145	114	151	116	139	121
石 原	109	90	117	108	137	121
若 葉	104	109	127	136	114	124
野 川	105	86	85	90	76	128
緑ヶ丘	103	89	99	91	112	116
栗 地	68	61	82	76	96	89
北 の 台	142	110	133	114	126	104
多 摩 川	92	46	87	60	110	82
杉 森	149	138	146	139	152	148
大 町	69	62	68	68	73	61
飛 田 給	79	30	74	30	74	60
柏 野	72	74	85	86	76	82
国 領	98	95	137	150	151	147
布 田	92	54	83	68	82	62
小 計	2,152	1,670	2,202	1,877	2,283	2,089
登 録 率	77.6		85.2		91.5	
桐 朋		11		12		16
見 華		10		18		21
そ の 他		63		39		55
合 計		1,754		1,946		2,181

(小 学 校) 表〔 V-2-(5) 〕

	4 年		5 年		6 年		合 計		登 録 率
	児童数	登録者数	児童数	登録者数	児童数	登録者数	児童数	登録者数	
	167	168	168	135	153	145	904	799	88.4
	73	100	97	74	100	112	490	487	99.4
	137	142	109	90	127	99	696	606	87.1
	122	135	121	111	148	105	732	650	88.8
	92	62	126	88	108	53	647	408	63.1
	110	84	141	102	131	76	741	496	66.9
	77	44	107	85	100	74	525	338	64.4
	167	176	162	174	180	142	944	843	89.3
	150	126	136	120	130	82	779	647	83.1
	129	145	119	128	144	157	737	799	108.4
	78	91	91	99	97	94	532	588	110.5
	141	116	147	102	133	89	735	603	82.0
	102	102	121	106	115	90	591	524	88.7
	169	128	184	129	162	107	916	692	75.5
	99	75	76	54	113	71	577	388	67.2
	152	160	169	163	162	142	930	890	95.7
	82	60	81	67	82	68	458	386	84.3
	96	48	78	55	88	32	489	256	52.4
	95	97	72	65	93	87	493	491	99.9
	139	238	151	139	128	97	804	866	107.7
	104	85	107	72	98	52	566	393	69.4
	2,487	2,382	2,563	2,158	2,599	1,974	14,286	12,150	85.0
	95.8		84.2		76.0				
		16		22		12		89	
		25		24		22		120	
		90		70		81		398	
		2,513		2,274		2,089		12,757	

学校別・館別登録者数

	中央館		国領分館		つつじヶ丘分館	
	登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
調布	133	12.5				
神代	22				1	
第三	218	15.9	72	5.3		
第四	13		13		77	9.3
第五	161	16.4	8			
第六	26		234	43.2	39	
第七	56		41		2	
第八	1		3			
小計	630		371		119	
桐朋	17		8		1	
晃華	5		1		1	
その他	84		20		7	
合計	736		400		128	

	緑ヶ丘分館		富士見分館		若葉分館	
	登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
調布			250	23.4		
神代			3			
第三					1	
第四	9		1		460	55.6
第五			3		1	
第六					4	
第七			2		2	
第八	155	32.6			6	
小計	164		259		474	
桐朋	8		2		16	
晃華	2				4	
その他	43		17		40	
合計	217		278		534	

(中学校) (表[V-2-(5)])

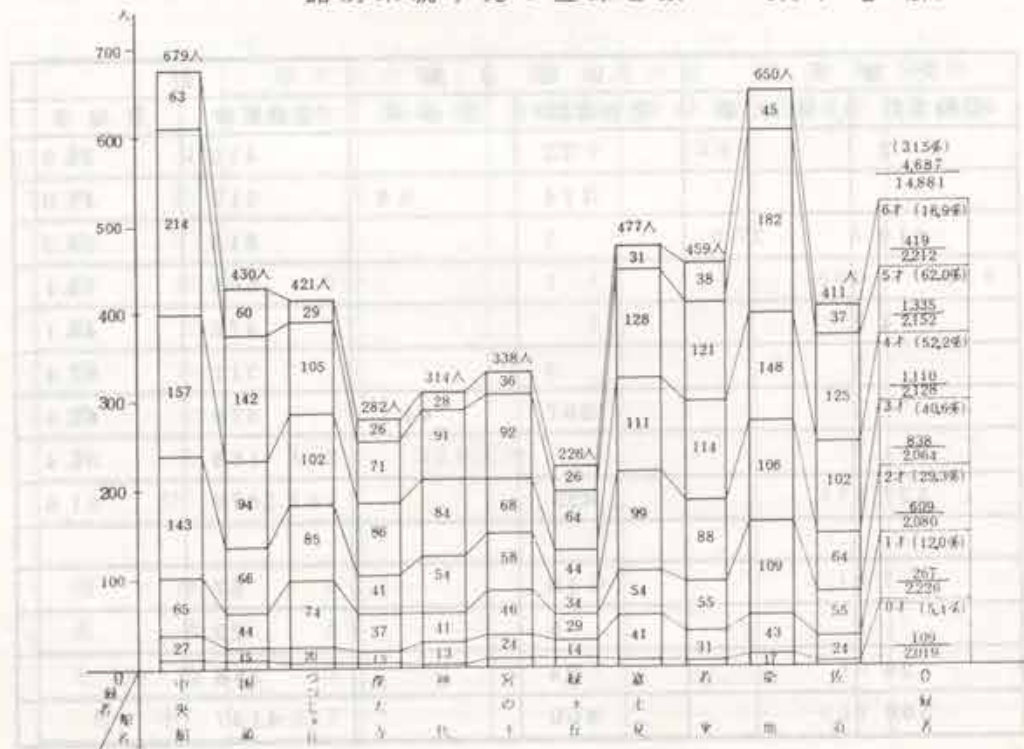
深大寺分館		神代分館		宮の下分館	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
9				8	
202	16.0	165	13.1		
		30		1	
		13		282	28.7
		5			
		7			
		2			
211		222		291	
1		15		2	
2		3			
24		52		21	
238		292		314	

染地分館		佐須分館		計	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
2		13		415	38.9
		124	9.8	517	41.0
519	37.9	3		813	59.3
		1		605	73.1
4				472	48.1
		3		311	57.4
1		267	44.1	378	62.5
1				168	35.4
527		411		3679	51.6
7		10		87	
		5		23	
26		24		358	
560		450		4147	

学校別・学年別登録者数(中学校)表[V-2-(5)]

	1年		2年		3年		計		登録率
	生徒数	登録者数	生徒数	登録者数	生徒数	登録者数	生徒数	登録者数	
調布	375	255	359	109	333	51	1,067	415	38.9
神代	410	236	441	192	411	89	1,262	517	41.0
第三	443	272	435	274	493	267	1,371	813	59.3
第四	289	255	259	154	280	196	828	605	73.1
第五	354	203	306	156	321	113	981	472	48.1
第六	203	145	181	107	158	59	542	311	57.4
第七	230	198	183	98	192	82	605	378	62.5
第八	161	76	160	59	154	33	475	168	35.4
小計	2,465	1,640	2,324	1,149	2,342	890	7,131	3,679	51.6
登録率	66.5		49.4		38.0				
桐朋		36		19		32		87	
免華		7		7		9		23	
その他		161		117		80		358	
合計		1,844		1,292		1,011		4,147	

館別未就学児の登録者数 表[V-2-(5)]



3. 貸出状況

(1) 年度別貸出冊数 表[V-3-(1)]

貸出冊数の推移を年度別にみると、昭和54年以降徐々に上向きの傾向を示してきた。この間、55年に染地分館、57年に佐須分館がそれぞれ開館し冊数の上昇を支えて来たと言える。しかし、今年度はその傾向が後退し前年度の冊数を約5,300冊下廻る696,787冊にとどまった。内訳をみると一般は9,389冊の増加に対し、児童が14,694冊の大巾な減になっている。

このことは単に児童数の減少ということだけの原因として片付けられない結果であり、今後児童サービスを進めていく上での大きな課題として取り組まなければならない。

一方一般の利用については、これまでの状況を更に進め児童の利用を上廻る勢いで伸びて来ている。今後も引き続き利用者の動向を把握し、リクエストの体制を十分整え利用者の希望に対応出来る選書を行い、役に立つ図書館づくりを目指していきたい。

又、今後の検討課題として、貸出冊数の制限(現在1人2冊まで)緩和の問題と貸出方式(現在ブラウ式)の検討を急がねばならない。このことにより貸出冊数の増冊をはかり、利用者の多様な読書要求に応え得る体制作りが進められ、同時に、より能率的な貸出処理が出来るよう更に検討を重ねカウンター窓口におけるサービス向上をはかっていきたい。

(2) 年度別・館別貸出冊数 表[V-3-(2)]

貸出状況を館別にみると、中央館が各分館の約2倍の貸出しであるが、これは駅前の便利さや、中央館の蔵書規模等の関係で当然の事であり、中央館の規模・機能等の拡大が計られればその差は更に広がっていくと考えられる。

又、各分館それぞれを比較してみると、染地分館が昨年同様他の分館を大きく上廻っており、次いで、国領、若葉、佐須、富士見、神代の順となっており、昨年と比べて若干の入れ替えが見られるが地域としては昨年とほぼ同様の結果となっている。

一方、利用者別にみると成人の利用は一部を除いて殆どどの館で昨年を上廻り順調な伸びを示しているが、児童の利用については、宮の下、若葉、佐須を除いてすべて昨を下廻る結果となった。そうした中で若葉分館の3,500冊の増加は若葉小との協力事業の成果とも言えるだろう。

なお、分類別貸出冊数の調査は、昭和42年度から44年度までの3ヶ年間と、昭和52年度から57年度までの6ヶ年間との2期にわたって実施をして来たが、58年度から当分の間は調査を中止している。

42年度からの調査では、中央館だけ(分館が出来ない前)の利用状況を出来るだけ具体的なデータで把握し、分館における蔵書構成のあり方等それからの図書館活動を展開していく上

での足がかりとした。

52年度からの2期目の調査では、調布市における分館網が2つの地域を残してほぼ完成し、(50年度 若葉分館が開館)、今後の図書館運営は館内の充実に目が向けられ始めた。

その中で、再度、各主題ごとの図書利用状況をデータとして認識し、より木目細かいサービスを実践していくための手掛りとして調査を開始した。そして6年間調査を続けてきた結果利用者の状況は貸出しを通してほぼ把握出来たとと言える。今後はこれらのデータをもとに更に分析を加え、市民の求めているものを蔵書構成の中に十分反映させ、市民に役立つ図書館づくりを目指していきたい。

今年度からは、雑誌、郷土資料(56年から中央館の郷土資料を他の蔵書から独立させ、地域資料の充実に努めている)、成人図書、児童図書の4つに分けて統計をとることとした。

(3) 館別団体貸出冊数 表[V-3-(3)]

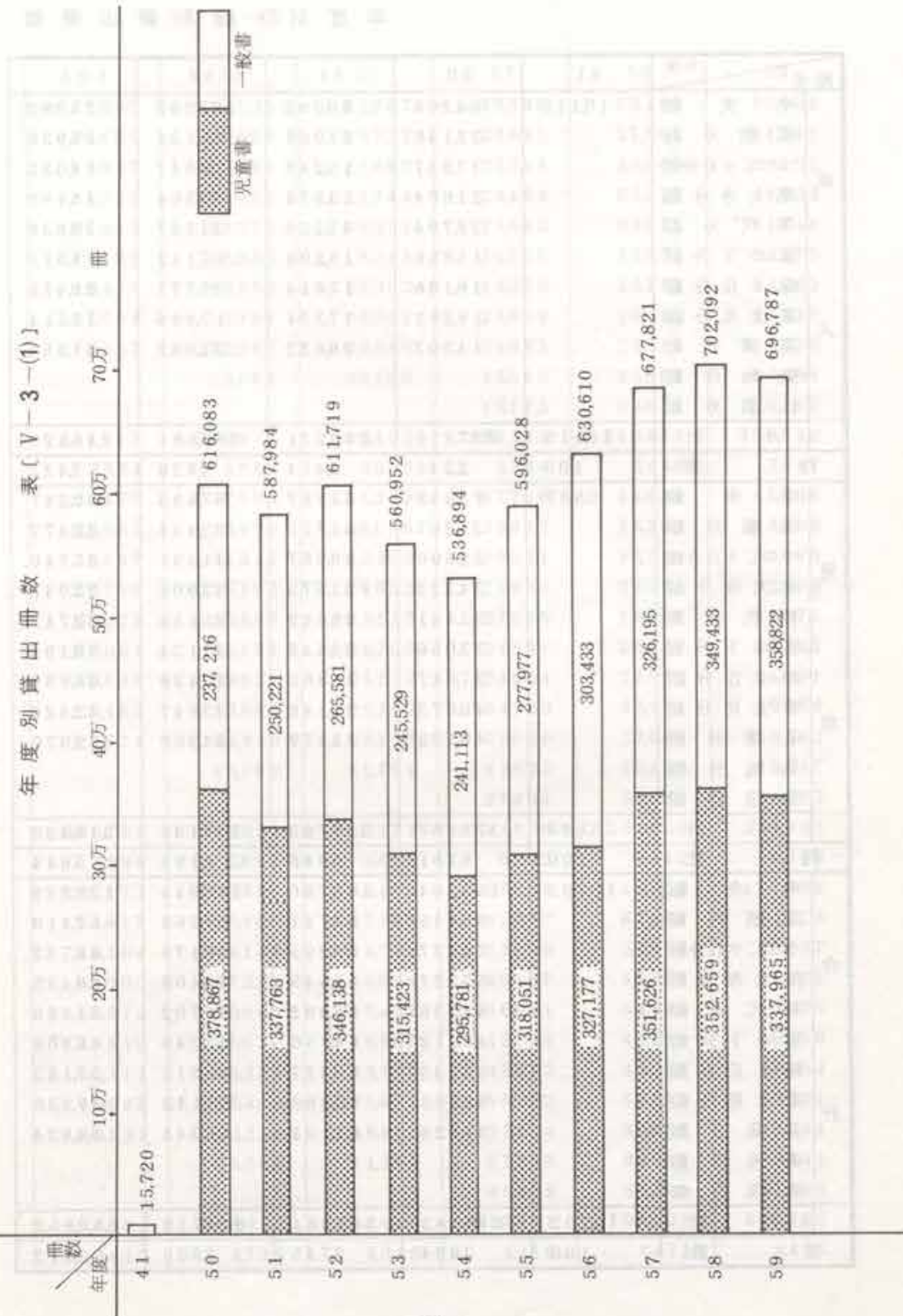
現在図書館に登録されている団体は44団体である。その大半が幼児や児童をかかえている文庫や、学校、幼稚園等である。

貸出しの実績は昨年とほぼ同様の貸出しがあり、団体貸出しがある程度定着してきたと言える。特に注目すべきことは、文庫の活動状況もさることながら、学校との協力事業にもとづいた学校図書館や、学級文庫への貸出しである。これらは団体貸出冊数の約半分を占めており、協力事業が順調に進められ先生方の図書館に対する期待が大きくなってきていることを示している。

(4) 館別図書予約件数 表[V-3-(4)]

貸出中等によって借りることの出来ない図書資料を予約することが出来る制度がある。これは、その受付件数を調査したものである。(57年4月から調査を開始する)

予約制度は、貸出しを行う上では絶対に切り離すことの出来ないものであり、今日の公共図書館活動において重要な役割を持つものである。



年度別・館別貸出冊数

館名		年度	41	50	51	52	53
成人	中央館		10,115	84,206	80,093	81,262	75,982
	国領分館			22,138	21,968	25,134	26,938
	つつじヶ丘分館			17,837	15,248	16,647	14,022
	深大寺分館			21,604	23,874	23,504	16,492
	神代分館			28,794	32,250	31,567	28,838
	宮の下分館			15,856	15,208	17,112	15,614
	緑ヶ丘分館			16,186	17,614	20,777	20,475
	富士見分館			16,292	17,334	17,496	15,514
	若葉分館			14,303	26,632	32,082	31,654
	佐須分館						
小計			10,115	237,216	250,221	265,581	245,529
指数			100	2345	2474	2626	2427
児童	中央館		5,587	71,098	63,687	67,653	60,247
	国領分館			34,307	31,773	32,434	30,472
	つつじヶ丘分館			52,600	40,957	41,531	35,740
	深大寺分館			34,123	31,675	32,904	23,943
	神代分館			35,441	36,642	35,135	32,747
	宮の下分館			33,056	29,548	31,134	30,194
	緑ヶ丘分館			37,047	35,863	37,438	36,688
	富士見分館			40,673	33,146	33,647	32,422
	若葉分館			40,522	34,472	34,262	32,970
	佐須分館						
小計			5,587	378,867	337,763	346,138	315,423
指数			100	6781	6046	6195	5644
合計	中央館		15,702	155,304	143,780	148,915	136,229
	国領分館			56,445	53,741	57,568	57,410
	つつじヶ丘分館			70,437	56,205	58,178	49,762
	深大寺分館			55,727	55,549	56,408	40,435
	神代分館			64,235	68,892	66,702	61,585
	宮の下分館			48,912	44,756	48,246	45,808
	緑ヶ丘分館			53,233	53,477	58,215	57,163
	富士見分館			56,965	50,480	51,143	47,936
	若葉分館			54,825	61,104	66,344	64,624
	佐須分館						
合計			15,702	616,083	587,984	611,719	560,952
指数			100	3924	3745	3896	3572

表[V-3-(2)]

54	55	56	57	58	59
72,697	75,135	81,207	77,898	75,104	75,986
25,650	26,454	29,727	28,635	31,562	31,545
13,637	17,597	21,682	20,248	20,909	20,152
19,251	21,032	22,244	24,494	25,273	24,533
27,945	29,776	30,331	29,643	29,776	31,748
16,395	18,333	19,243	20,555	22,058	23,175
19,417	16,950	17,902	18,258	20,764	23,263
16,564	19,351	20,862	24,009	26,382	26,415
29,557	28,267	30,666	29,685	28,911	31,659
	25,082	29,569	33,595	39,883	40,194
			19,175	28,811	30,152
241,113	277,977	303,433	326,195	349,433	358,822
2,384	2,748	3,000	3,224	3,455	3,547
54,480	47,694	51,262	47,758	44,649	41,706
28,967	30,426	38,058	33,642	36,399	32,668
32,467	31,547	32,429	30,961	32,715	30,085
26,755	26,183	24,652	24,963	24,305	22,589
30,927	30,888	29,120	27,238	24,868	23,577
28,054	28,184	26,709	24,641	23,227	23,331
35,694	29,027	25,230	24,554	24,522	24,091
29,463	28,989	29,789	34,783	33,231	29,886
28,974	24,949	28,137	28,039	27,081	30,582
	40,164	41,791	47,613	50,678	48,247
			27,434	30,984	31,203
295,781	318,051	327,177	351,626	352,659	337,965
5,294	5,691	5,856	6,293	6,312	6,049
127,177	122,829	132,469	125,656	119,753	117,692
54,617	56,880	67,785	62,277	67,961	64,213
46,104	49,144	54,111	51,209	53,624	50,237
46,006	47,215	46,896	49,457	49,578	47,122
58,872	60,664	59,451	56,881	54,644	55,325
44,449	46,517	45,952	45,196	45,285	46,506
55,111	45,977	43,132	42,812	45,286	47,354
46,027	48,340	50,651	58,792	59,613	56,301
58,531	53,216	58,803	57,724	55,992	62,241
	65,246	71,360	81,208	90,561	88,441
			46,609	59,795	61,355
536,894	596,028	630,610	677,821	702,092	696,787
3,419	3,796	4,016	4,316	4,471	4,437

館別個人貸出

	中央館	国領分館	つつじヶ丘分館	深大寺分館	神代分館
雑誌	5,550	1,950	3,990	2,255	3,000
郷土資料	267	-	-	-	-
成人図書	70,169	29,595	16,162	22,278	28,748
小計	75,986	31,545	20,152	24,533	31,748
児童図書	41,706	32,668	30,085	22,589	23,577
合計	117,692	64,213	50,237	47,122	55,325

館別団体貸出

	中央館	国領分館	つつじヶ丘分館	深大寺分館	神代分館
団体数	8	1	3	6	6
貸出冊数					
成人	0	0	0	200	0
学校	2,320	54	74	106	278
文庫等	636	360	231	153	1,136
合計	2,956	414	305	459	1,414

館別図書予約

	中央館	国領分館	つつじヶ丘分館	深大寺分館	神代分館
成人図書	1,498	838	1,239	536	1,146
児童図書	467	442	363	260	612
合計	1,965	1,280	1,602	796	1,758

冊数表 [V-3-(2)]

宮の下分館	緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	計	比
2,338	2,295	2,656	4,039	3,072	3,497	34,642	9.7
-	-	-	-	-	-	267	
20,837	20,968	23,759	27,620	37,122	26,655	323,913	90.3
23,175	23,263	26,415	31,659	40,194	30,152	358,822	51.5
23,331	24,091	29,886	30,582	48,247	31,203	337,965	48.5
46,506	47,354	56,301	62,241	88,441	61,355	696,787	100

冊数表 [V-3-(3)]

宮の下分館	緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	計
7	0	2	5	5	1	44
9	0	0	0	72	0	281
234	0	1,026	8,279	230	522	13,123
487	0	10	406	481	0	3,900
730	0	1,036	8,685	783	522	17,304

件数表 [V-3-(4)]

宮の下分館	緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	計
619	749	674	806	1,220	776	10,101
423	397	553	605	984	459	5,565
1,042	1,146	1,227	1,411	2,204	1,235	15,666

VI 障害者サービス

調布市立図書館における障害者サービスは、昭和54年4月障害者サービスの打合せ会が充足し、サービスの体制づくりが始まった。

サービスの内容は、主に視覚障害者を対象とした朗読サービスと点訳サービスであり、開始当初と殆んど変わりはないが、当初に比べると質・量ともに拡充がはかられ、その体制も徐々に整備されつつある。

1. 朗読サービス

昭和50年4月から、すでに「朗読奉仕の会」（調布ブッククラブ）の地道な活動があったが、新たに、昭和57年4月から朗読ボランティア養成講座を開始し、以後毎年継続し、ボランティアの技術の向上と育成を目指している。同時に朗読ボランティアの登録制度を採用し、現在38名の朗読ボランティアがおられ、録音テープの作成と対面朗読に協力していただいている。

(1) 録音テープ所蔵状況 表〔Ⅵ-1-(1)〕

当館作成テープとは、図書館資料等をそのまま音読し録音したものである。この場合は著作者又は著作権者等に「普通の出版物のままでは利用できない目の不自由な人、寝たきりの人、身体の不自由な人々に録音テープを貸出す」という条件で許諾を得ている。

これ以外に、市販テープがある。これは一般に市販されている録音テープそのものを購入したものと、寄贈されたものがあり、寄贈の中では日本盲人会連合からのものが殆んどである。これら市販テープも年次的に整備をはかり、録音テープの所蔵の幅を広げていきたい。

一方、講演会等記録テープは特に障害者用という限定はなく、各種講座、講演会、読書会等を記録したものであり、当日参加出来なかった人々にも提供している。

(2) 録音テープ利用状況 表〔Ⅵ-1-(2)〕

当館作成テープは年間約40タイトルの作成があり、市販テープの寄贈を加えると約100タイトルの増加をみている。こうした中でのテープの利用は着実な伸びを見せている。昨年度の総数574タイトル、2,253巻を大きく上廻り、730タイトル、3,180巻となっており、より優れたテープを作成することによって、その利用も確実に伸びることが明らかになった。

今後更に作成テープの充実に努力していかなければならない。

(3) 対面朗読実施状況 表〔Ⅵ-1-(3)〕

対面朗読は利用者の自宅を訪ねて実施する訪問サービスと、図書館等に来館して行う方法とがある。実施の状況は毎年着実に増加しており、このサービスに対する利用者の期待がうかがえる。利用者の実人数も14名となった。

58年には、調布市総合福祉センターが開館し、その中に対面朗読室が設けられ、来館の場

合にはここを拠点として実施している。

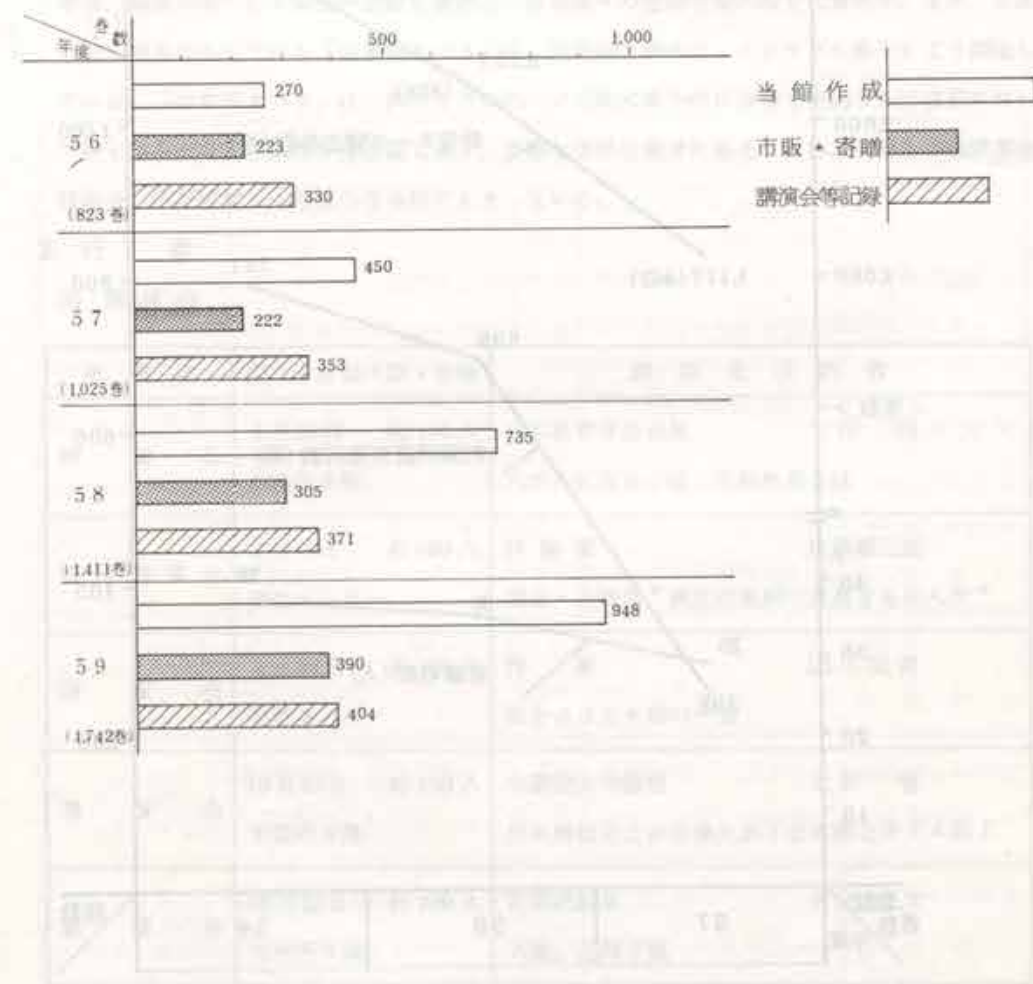
2. 点訳サービス

図書館主催の点訳講座を終了したボランティアの方々によって、「調布ブライユ」という点訳サークルを作り点訳活動を続けている。利用者からの点訳依頼は図書館を経由して、ボランティア・グループに依頼するルートが出来ている。

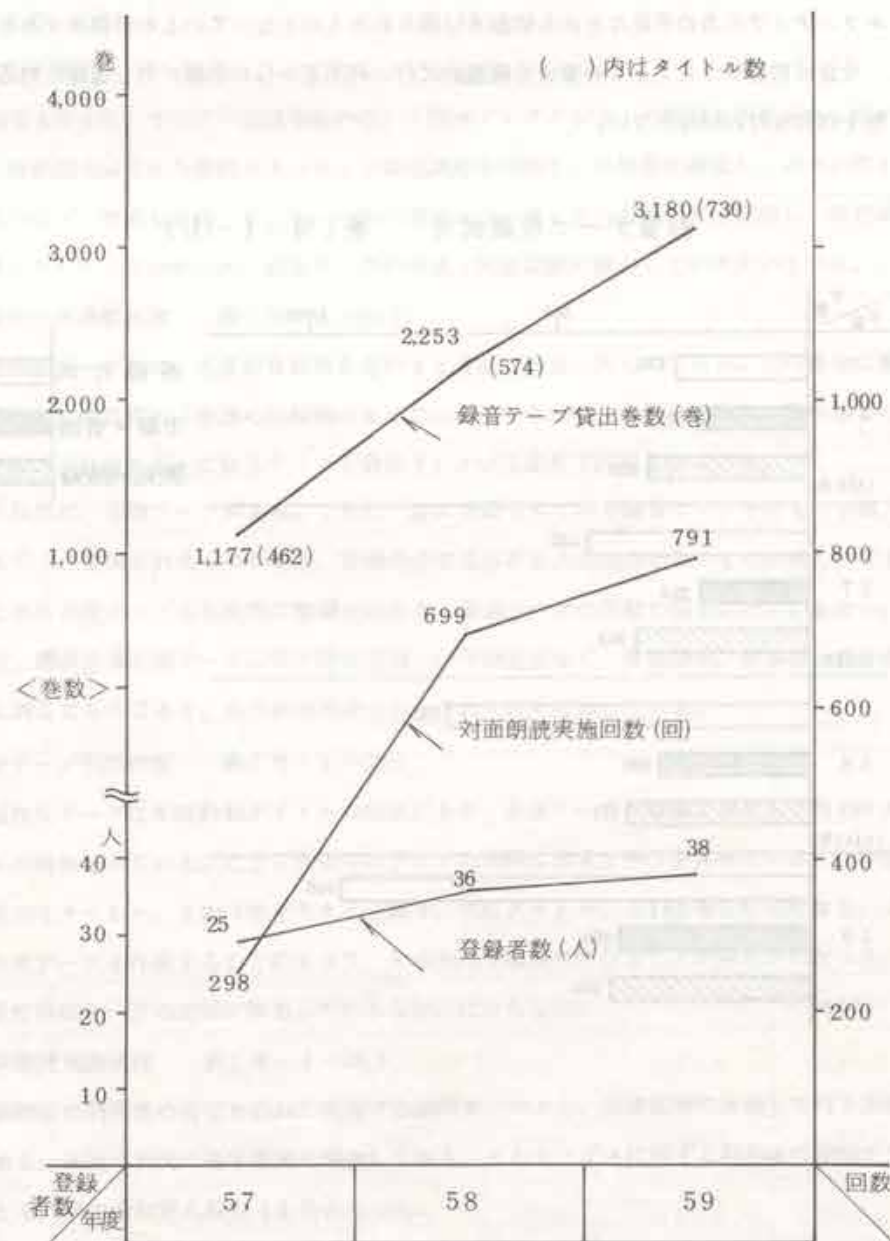
これまでの主な点訳は、雑誌記事、法律書、児童書、教科書等である。図書館からのPRや、ボランティアの方の不足などから依頼者は限られたものとなっているのが現状である。

今後は初級ボランティアの養成を積極的に行い利用者からの依頼に対し適確に対応出来る体制を作らなければならない。

録音テープ所蔵状況 表〔Ⅵ-1-(1)〕



録音テープ利用、対面朗読実施状況 表〔Ⅵ-1-(2)・(3)〕



Ⅶ 集会・学習活動

1. 集会・学習活動の状況

調布市立図書館では、開館以来さまざまな集会学習活動を実施し、積極的に図書館側から市民に働きかける動態的な図書館活動を展開してきた。これらの活動は、読書への啓蒙と図書館利用の促進を図るだけでなく、図書館が読書によって生まれた学習意欲と市民の文化的要求を育てる文化創造の拠点となることを志向している。

さて、現在行なっている事業は、図書館が主催する事業と、図書館を核として活動している市民の自主的な読書会や研究会等のサークルの連合体である、「調布ブッククラブ」の事業とに大別することができる。図書館は、内容の深い時局的な各分野の図書をテーマにした講演会、講座を中心に事業を実施し広く市民の参加を求め、一方調布ブッククラブは、開かれた市民の学習、創造の場として幅広い活動を展開し、会員個々の生涯学習の確立に努めた。また、市民の間に根をおろしている「図書館まつり」は、図書館と調布ブッククラブの協力により開催している。「図書館まつり」は、例年2月の約一ヶ月間に集中的に事業を実施する図書館において最も規模の大きい集会学習活動であり、多様な市民の要求に答えるため、内容も各種講演会、映画会、市民俳句会・短歌会等多岐にわたっている。

2. 行 事

(1) 講演会

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
講演会	4月26日 約100人 市役所8階	日本教育学会会長 大田 堯 人が人になるとは 生涯教育とは
時局講演会	9月8日 約100人 福祉センター	評論家 佐藤藤三郎 現在・百姓考 減反は家庭の荒廃をも生んだ
講演会	9月25日 約120人 福祉センター	作家 山本茂實 私をささえた母の一言
講演会	10月13日 約150人 市役所8階	学習院大学教授 大野 晋 日本語はどこから来たか(日本語とタミル語)
講演会	10月23日 約130人 市役所8階	文芸評論家 久保田正文 人間、正岡子規

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
講演会	11月7日 約150人 市役所8階	評論家 百目鬼恭三郎 「読書人・読むべし」
講演会	12月5日 約100人 公民館教室	時代風俗研究家 喜多川周之 江戸文化走馬燈

(2) 地域講演会

八雲台地域 講演会	11月2日 約300人 八雲台小学校	作家 高史明 子どもの心と悩みをどうとらえるか
--------------	-----------------------	----------------------------

(3) 講座・講習会

教育講座 第1回	6月22日 約130人 市役所8階	磯ノ井旭高校名誉校長 若林繁太 子どもを知る、自分を知る
教育講座 第2回	6月26日 約120人 市役所8階	横浜市立大学教授 伊藤隆二 息子をエリート族にするな
児童文学講座	11月9・16日 各50人 市民センター	詩人 工藤直子 詩のたのしみ
手袋人形 講習会	1月17日 約20人 図書館	人形劇作家 三木和子 「チョキミミウさぎ」の人形の製作

(4) 映画会

第一小学校地域 子ども映画会	8月29日 約500人 公民館ホール	映画「べっかんど鬼」(原作さねとうあきら) 「トンデモネズミ大活躍」(原作ギャリコ)
夏休み子ども 映画会	8月29日 約200人 公民館ホール	映画「べっかんど鬼」(原作さねとうあきら) 「トンデモネズミ大活躍」(原作ギャリコ)

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
名画鑑賞会	8月29日 約200名 公民館ホール	映画「衝動殺人 息子よ」 (監督 木下恵介)
第一小学校地域 映画会と懇談会	3月8日 約200名 公民館ホール	映画「ほめてよいことわるいこと」 「大人になれぬ若者たち」
名画鑑賞会	3月23日 約250名 福祉会館	映画「漢をたらしめた神」 (原作 吉野せい)
戦争と平和を 考える会	7月26日 約100人 公民館ホール	映画「子どもたちの昭和史」と講演

3. 図書館まつり(第13回)

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
子ども映画会	2月2日 約300人 公民館ホール	映画「いたちのこもりうた」(原作松谷みよ子) 「大空に生きる」(原作 塚 陽十)
名画鑑賞会	2月2日 約400人 公民館ホール	映画「故郷」 (監督 山田洋次)
座談会	2月5日 約150人 福祉センター	哲学者・詩人 串田孫一 光の五線譜(「光の神話」を中心に)
著者を囲む会	2月9日 約150人 市役所8階	作家 三浦哲郎 「白夜を旅する人々」
特別観劇会	2月15日 約1,000人 福祉会館	「畏」(原作 ロベール・トマ 演出 高橋 昌也 主演 山本学、大空真弓ほか)
時局講演会	2月16日 約130人 福祉センター	国際政治学者 三好 修 今年の世界情勢と日本外交

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
第13回 市民句会	2月19日 約190人 福祉センター	飯田龍太、井次正江、加倉井秋を、鷹羽行行、細見綾子、山口青邨、鷺谷七菜子の選評と俳話
朗読の会	2月20日 約200人 福祉会館	声優 白坂道子、アナウンサー 中西 龍 語りの美学・風吹くままだ
児童文学 講演会	2月22日 約100人 福祉センター	童話作家 あまんきみこ 「童心浄土」私の作品
第12回 市民歌会	2月24日 約60人 福祉センター	片山貞美、小暮政次、宮地伸一の選評と講話
詩作対談	2月26日 約50人 福祉センター	詩人 吉増剛造、作家 青木 健 詩作をさぐる声をさぐる
文芸講演会	3月2日 約120人 福祉センター	文芸評論家 久保田正文 文学のいのちを育てるもの
作家の 筆蹟・横顔展	2月1日～18日 西友調布店	図書館を訪れた作家、評論家等の横顔と筆蹟を公開し、図書館活動の歩みを展示。
俳句・短歌展	2月13日～20日 公民館	日頃の創作作品を一堂に展示し、多くの人と鑑賞した。(俳句・短歌サークル会員)
司修の世界	2月19日～28日 中央館	本の装幀家として定評のある司修氏の原画と装幀と作品を展示し、本の魅力を探る。
日本画展	2月20日～3月5日	日本画技法を学ぶ4サークルが一堂に会し、一般に展示した。(指導 田中与之子)

4. 調布ブッククラブ

図書館と図書の利用を促進し、図書では得られない作品の背景や著者の思想やその形成を探るため、各地の文学史跡を訪れる文学散歩は、参加者の高い学習意欲と連帯に支えられ、図書館を学習の場とする、自主的な市民のサークルを数多く生みだした。これらの独立した読書会や研究会は開かれた市民の学習、創造の場となる知的共同体の実現を目的に連繋し、昭和48年2月「調布ブッククラブ」が発足した。現在、「読むこと」「書くこと」そして「どう生きるかを考える」をテーマにサークル活動、情報交換、相互研修を通して、幅広い活動を展開している。当初、図書館の援助が大きな役割を果たしていたが、現在では市民の自主的な活動が盛んになり、自由な生涯学習の場として定着しつつある。なお、昭和59年度末の会員数は729名である。

(1) 事業

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
公開名作読書会	4月27日 約30人 中央館	講師 山口清次郎 「李二の世界」(笠原 淳著)
公開名作読書会	6月8日 約30人 中央館	講師 山口清次郎 「坑夫」(夏目漱石著)
緑蔭公開読書会	8月24日 約30人 横浜銀行	講師 山口清次郎 「秀吉と利休」(野上弥生子著)
公開互業読書会	9月12日 約30人 若葉分館	講師 遠丸 立 「出発は遂に訪れず」(島尾敏雄著)
公開合同読書会	10月12日 約30人 中央館	講師 山口清次郎 「杏子」(古井由吉著)
公開合同読書会	12月14日 約30人 中央館	講師 山口清次郎 「地唄」(有吉佐和子著)
公開合同読書会	2月8日 約30人 中央館	講師 山口清次郎 「なまみと物語」(円地文子著)
公開合同読書会	3月13日 約40人 若葉分館	講師 遠丸 立 「雁の寺他」(水上 勉著)

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
座談会 第1回	6月20日 約100人 市役所8階	シナリオ作家 杉山義法 シナリオの世界
座談会 第2回	7月6日 約150人 福祉センター	思想家 石川 洋、画家 南 正文 分ち合う心、たとえ両手がなくとも
たきおん 公開合評会	5月13日 約30人 市役所8階	文芸評論家 青木 健 文芸誌 「たきおん 13号」
たきおん 公開合評会	11月11日 約30人 市役所8階	文芸評論家 青木 健 文芸誌 「たきおん 14号」
名画鑑賞会	4月17日 約2,000人 福祉会館	映画 「細雪」 (原作 谷崎潤一郎)
親子映画 鑑賞会	7月25～26日 計6回 約4千人 福祉会館	映画 長編アニメ「はだしのゲン」 (原作 中沢啓治)
鎌倉能 団体鑑賞会	6月15日 約1,000人 福祉会館	能 「隅田川」 狂言 「鎌 腹」
心の歌と 飢餓の集い	12月25日 約200人 福祉センター	日本の童謡 (指導 大内寿恵磨) 映画 「東アフリカの飢餓」
緑蔭日本画展	6月20日～7月10日 西友調布店	日本画創作4サークル合同の色紙展 (指導 田中与之子)
秋麗日本画展	10月21日～11月12日 西友調布店	日本画創作4サークル合同の展示 (指導 田中与之子)

(2) サークル

(イ) 読書グループ

グループ名	定例日・会場	講師	内容
あすなろ読書会	第1木曜日 午前 中央館	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
柏読書会	第2木曜日 午前 中央館	指導 萩原祥三	小説・評論・短歌・俳句・文学論等幅広く読書会を行った。
名作読書会	第2金曜日 午前 中央館	指導 山口清次郎	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
読書会夜行列車	第3火曜日 夜間 中央館		シェークスピアの作品を中心に読書会を行った。
若菜読書会	第1・3水曜日 午後 若葉分館		年間のテキストに源氏物語を選び読書会を行った。
古典文学を読む会	第1土曜日 午後 若葉分館		かげろう日記と枕草子を読み読書会を行った。
若葉読書会	第2・4金曜日 午前 若葉分館	指導 萩原祥三	小説・随筆・短歌・俳句・文学論等幅広く読書会を行った。
ふたば読書会	第4水曜日 午前 若葉分館	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
七宝読書会	第2水曜日 午前 富士見分館	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
こだま読書会	第3木曜日 午前 富士見分館	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
針布読書会	第3木曜日 午後 神代分館	指導 萩原祥三	小説・随筆・短歌・俳句・文学論等幅広く読書会を行った。

グループ名	定例日・会場	講師	内容
白鳥読書会	第2木曜日 午前 神代分館	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
かりんの会	第1木曜日 午前 緑ヶ丘分館	指 導 萩原祥三	レポーターを決め、社会問題等について読書会を行った。
緑ヶ丘読書会	第4水曜日 午前 緑ヶ丘分館	指 導 萩原祥三	小説・随筆・短歌・俳句・文学論等幅広く読書会を行った。
やまなみ読書会	第1火曜日 午前 深大寺分館	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
宮の下読書会	第2火曜日 午前 宮の下分館	指 導 萩原祥三	小説・随筆・短歌・俳句・文学論等幅広く読書会を行った。
つくし読書会	第3火曜日 午後 多摩川地区	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
木屋読書会	第4火曜日 午前 柴崎地区	指 導 萩原祥三	小説・随筆・短歌・俳句・文学論等幅広く読書会を行った。
芙蓉読書会	第2火曜日 午前 国領分館	社会教育指導員 池田 努	近・現代の小説を中心に読書会を行った。
SFを読む会	第4日曜日 午後 中央館ほか		SF作品をテキストに読書会を行った。

(ロ) 研究グループ

漱石文学研究会	第3木曜日 午後 横浜銀行	近代文学研究家 織田保夫	漱石の書簡集、日記、論文などを中心に人と作品背景考察
現代作家研究 互業会	第2水曜日 午後 若葉分館	詩人・文芸評論家 遠丸 立	現代の代表的作家の作品を中心に人と作品を考察した。

グループ名	定例日・会場	講師	内容
万葉集を読む会	第3土曜日 午後 第百生命	国文学者・歌人 片山貞美	古典文学の代表的作品である万葉集を読み深める。
赤彦・茂吉を 読む会	第3木曜日 午後 横浜銀行	歌 人 宮地伸一	初年度は島木赤彦の人と作品を考察し言葉を探った。
聖書を読む会	第4水曜日 午前 中央館	立教女学院教授 秋吉輝雄	聖書を歴史的、宗教思想的観点から学習した。
仏典に親しむ会	第1水曜日 午前 市内寺院	指 導 長谷瑞英 指 導 本多慈昭	仏典と日常生活の関りについて、法句経、法華経を学習
今昔物語の会	第1金曜日 午後 横浜銀行	児童文学者 西本鶏介	近代・現代作家に影響を与えている今昔物語を学ぶ。
民話研究会	第3金曜日 午前 横浜銀行	児童文学者 西本鶏介	郷土の伝統、昔話から聞き書き、調布の創作民話を掘起す。
朗読奉仕語りの会	第2・3木曜日夜間 中央館		目の不自由な人のための朗読テープの作成と技術の学習
柳田国男を読む会	第3金曜日 午後 中央館	指 導 萩原祥三	柳田国男の作品を通し、思想文学、芸術、民俗学を学習
歎異抄に学ぶ会	第4木曜日 午後 横浜銀行	作 家 高 史 明	日本の古典である、親鸞の「歎異抄」の解釈を中心に学ぶ。
論語を読む会	第4木曜日 午前 中央館	指 導 森 正克	世界的な古典である論語の素読を通し解釈する。

(ハ) 創作グループ

火曜句会	第2火曜日 午後 神代分館	指 導 緒方格葉	俳句創作と合評
------	------------------	-------------	---------

グループ名	定例日・会場	講師	内 容
水曜句会	第4水曜日 午後 若葉分館	職員 金沢 敬	俳句創作と合評
Y(にすい)句会	第2水曜日 午後 横浜銀行	職員 金沢 敬	俳句創作と合評
木曜句会	第1木曜日 午後 公民館ほか	指導 岡田信成	俳句創作と合評
二本句会	第2木曜日 午後 横浜銀行	職員 金沢 敬	俳句創作と合評
金曜句会	第2金曜日 午後 公民館ほか	指導 原田走日朗	俳句創作と合評
みずき句会	第2金曜日 午後 横浜銀行	職員 金沢 敬	俳句創作と合評
煙ら句会	第3金曜日 午後 横浜銀行	職員 金沢 敬	俳句創作と合評
たづくり句会	第3・4木曜日 午後 公民館ほか	指導 原田走日朗	俳句創作と合評
つつじヶ丘句会	第1火曜日 午後 岡田 宅	指導 岡田信成	俳句創作と合評
合同句会	第4土曜日 午後 公民館ほか	指導 斎藤杏子他	俳句創作と合評
風舎句会	第2土曜日 午後 市民センター	指導 若月瑞峰	俳句創作と合評
青條歌会	第4日曜日 午前 公民館ほか	歌人 小暮政次	短歌創作と合評

グループ名	定例日・会場	講師	内 容
径歌会	第4日曜日 午後 公民館ほか	国文学者・歌人 片山貞美	短歌創作と合評
水嶺歌会	第3金曜日 午後 公民館ほか	国文学者・歌人 片山貞美	短歌創作と合評
からすうり歌会	第2月曜日 午後 羽入 宅	指導 板橋久輔	短歌創作と合評
福寿草歌会	第4金曜日 午前 神代分館	職員 金沢 敬	短歌創作と合評
繰り方サークル	第1・3火曜日 午前 神代分館	詩人 菅原克己	生活に根ざした文章の創作を学 習した。
たきおん	第2日曜日 午後 公民館ほか	作家 青木 健	文芸作品を創作し、文芸誌「た きおん」を発行した。
みちくさ	第3木曜日 午前 深大寺分館	職員 金沢 敬	小説・短歌・俳句などの創作と 合評

(二) 絵画グループ

朱彩会	第1・3土曜日 午前 中央館ほか	指導 田中与之子	日本画の創作について、基礎か ら学び、作品を発表した。
碧彩会	第1・3土曜日 午後 公民館ほか	指導 田中与之子	日本画の創作について、基礎か ら学び、作品を発表した。
彩雅会	第1・3火曜日 午前 中央館	指導 田中与之子	日本画の創作について、基礎か ら学び、作品を発表した。
彩燿会	第1・3火曜日 午後 公民館ほか	指導 田中与之子	日本画の創作について、基礎か ら学び、作品を発表した。

樹 その他

グループ名	定例日・会場	講師	内容
古典講読の会	第2木曜日 午前 中央館		NHKラジオ「古典講読」の放送を聞き学習会を行った。
文学散歩同好会	6月11日～12日 山形県西川町他	西村山郡西川町 職員	「岩根沢の丸山薫の「北国」 茂吉の最上川と出羽の山々」
	9月17日～18日 福島県会津若松他	指導 谷津寛城	「会津若松の露伴・虎彦と利一、 義秀の猪苗代湖磐梯山」
	11月26日～27日 長野県小諸他	軽井沢町立 図書館長 岡部忠英	「千曲川スケッチ」の藤村と 別所の白秋、上田自由大学」
	3月11日～12日 千葉県御宿他	指導 小高倉之助	「海のはとり」の龍之介、美 美子の一の宮」
	以上宿泊分の他に 郡内日帰り 8回 近県日帰り 6回		

5. 地域文庫

市内親子読書グループ(長流文庫)

文庫名	代表者	地域	担当館
あじさい文庫		多摩川	中央館
YWCA 国領		国領町	国領分館
国領おはなし会		染地	*
つつじ文庫		西つつじ	つつじヶ丘分館
たんぽぽ文庫		深大寺町	深大寺分館
深大寺水ようおはなし会		深大寺町	*
相愛文庫		深大寺町	*
しゃぼん玉文庫		飛田給	宮の下分館
ばたぼん文庫		染地	染地分館
すぎな(B)文庫		染地	*
ふたば文庫		染地	*

市内に点在する文庫は11団体である。大規模な地域文庫は、分館整備にもなって発展解消を遂げ、現在の各文庫の多くは家庭文庫といえよう。

小規模ながらも幼児を中心としたこれらの文庫は、図書館とは一味違うアットホームな雰囲気、熱心な市民の運営によって支えられている。

図書館側からは、図書の出貸のみに終らず、情報の提供・お話し・本の読み聞かせ等を行ない、積極的な協力を続けている。

文庫への働きかけ

- ① 長流文庫連絡会……年二回開催、文庫・図書館の意見交換
- ② 文庫たより……年普回発行、本の紹介・文庫の現状等を掲載
- ③ 手袋人形講習会……年一回開催、59年度はちぎ耳うさぎを製作
- ④ 児童文学講座・講演会等のお知らせ……図書館主催事業を優先的に通知

VIII 視聴覚ライブラリー

視聴覚ライブラリーは、市民生活に密着した視聴覚教育活動の普及と充実を図るため視聴覚機材及び教材を整備し、次の事業を行った。

1. 事業

(1) フィルム選定会

視聴覚教育活動の啓蒙と視聴覚機材及び教材の利用促進を図るため、新規購入フィルムの選定試写会を行った。同時に、視聴覚ライブラリーの運営及び機材整備等について意見を聞いた。

(2) 16ミリ発声映写機操作講習会

映写機の基礎的な構造の理解と機械操作技術の修得並びにフィルムの安全利用について学習し、地域における視聴覚教育活動、特に映画会等の普及に役立つものとした。

講習会日程 ①6月26日～30日 ②8月2日～7日 計2回 修了者59名。

(3) 16ミリ発声映写機検定

映写機及びフィルムの安全利用のため、学校、事業所等各団体の所有する16ミリ映写機の機能点検を実施した。なお、新規購入の映写機については、随時実施した。

検定日 7月4日～7日 検定台数68台

(4) フィルム試写と研修会

毎月1回、新着フィルム等ライブラリーの所蔵するフィルムを試写紹介し、地域や各事業所の映画会のために利用案内を行った。また同時に、長期間映写機の操作をしていない講習会修了者等を対象に操作実習の研修会を行い、視聴覚機材・教材の利用促進と安全利用に努めた。

(5) 地域における映画会等視聴覚活動の指導・援助

映画会等の開催、フィルム選定に関する相談等、地域の視聴覚活動の窓口として、指導援助に努めた。

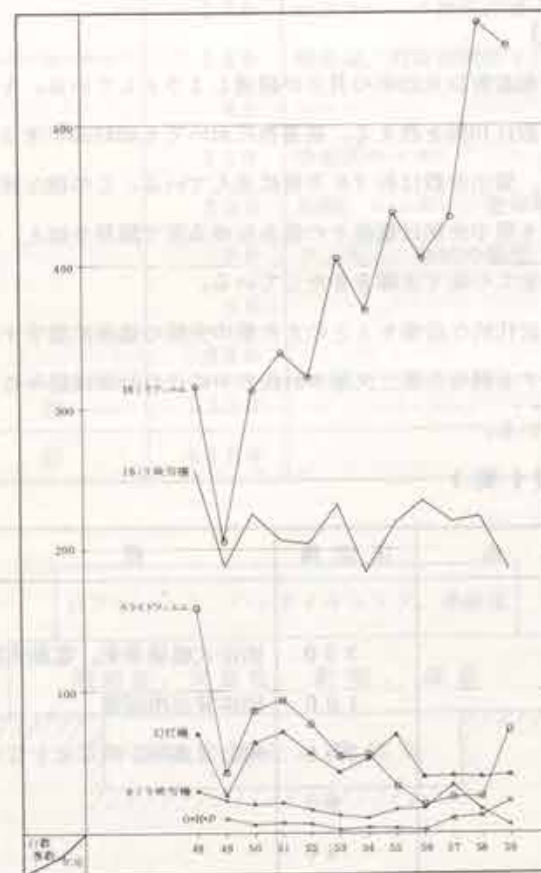
2. 視聴覚機材・教材の利用状況 表〔Ⅷ-2〕

今年度の利用状況の中で最も貸出が多いのは、16ミリフィルムであるが、さらに月別に統計を追ってみると、最も利用が多いのは7月である。これは、地域の子供映画会等が数多く企画されるためである。また、年度別の統計は、16ミリフィルム貸出の伸びに比較して、16ミリ映写機の貸出は、ほとんど伸びていない。これは、小中学校等各施設や事業所に16ミリ映写機が普及したためと考えられる。また、8ミリ映写機貸出の減少はビデオ機器の普及が理由として考えられる。

視聴覚機材・教材月別利用状況 表〔Ⅷ-2〕

視聴覚機材・教材	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	保有数
16ミリ映写機		14	11	14	28	15	14	20	16	16	7	8	22	185	9
8ミリ映写機		0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	1	0	5	4
スライド映写機		0	6	5	1	0	3	3	9	8	1	2	2	40	7
O. H. P. (オーバーヘッド プロジェクター)		0	0	3	3	0	2	1	6	2	0	1	3	21	2
スクリーン		3	9	7	12	4	7	9	8	5	0	9	15	88	8
暗幕		17	7	1	16	0	8	11	20	20	5	6	23	134	6
16ミリフィルム		23	33	41	83	58	39	67	44	64	19	28	57	556	244
スライドフィルム		2	9	7	2	2	5	1	19	16	4	1	4	72	261

視聴覚機材・教材年度別利用状況 表〔Ⅷ-2〕



Ⅸ その他

1. 将来計画

図書館の建設は調布市の長期計画に基づいて進められてきた。基本的には、下記の三原則を横たす分館配置をすることによって、市民の誰もが図書館を気軽に利用できるようなことにある。

- (1) 人口2万人に一つの図書館
- (2) 半径800メートルに一つの図書館
- (3) 二つの小学校区に一つの図書館

このことにより、現在11の図書館(中央館①、分館⑩)が活動しており図書館分館網の整備については、57年度佐須分館の開設により初期の目的は一応達成された。

しかし、市内全域をみた場合、長期計画策定後の人口動態の変化や生活動線等社会的変化によって、地域における格差が生じてきている。これらは当初の計画を見直し図書館サービスの均衡をはかる上で欠落している地域への具体的施策を検討していかなければならない。

(新中央館構想)

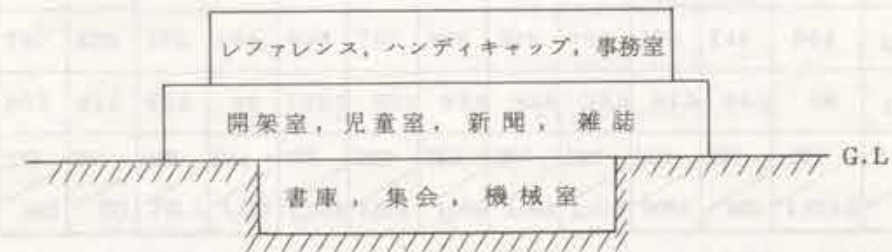
昭和41年現中央館設置以来20年の月日が経過しようとしている。その間市内各地には分館が建設され、その数は10館を数える。蔵書数においても昭和59年末34万冊に達し、登録者数は約4万2千人、貸出冊数は約70万冊に及んでいる。この様な状況にあつて各分館の中核機能を果たすべき現中央館は規模その他あらゆる面で限界を越え、一分館的機能しか果たえず図書館活動の全ての面で支障をきたしている。

従つて、早急に近代的な設備をととのえた新中央館の建設に着手する必要がある。昭和60年度からスタートする調布市第三次基本計画の中にこの計画は組みこまれ、具体的に歩き出す準備をすすめている。

新中央館の概要(案)

各室名称	床面積	概 要
(地階)		
閉架書庫	330	固定式積層書架、電動式集密書架
団体貸出室	100	団体貸出用図書
視聴覚ホール	200	集会室兼用 映写室を含む
読書会室	60	
団体室	40	

各室名称	床面積	概 要
機械室	200	
その他	290	階段、エレベーター、トイレ、ホール等
小 計	1,220	
(1階)		
開架書架室	1,100	閲覧、新聞・雑誌、目録、カウンター等を含む
児童室	200	
児童資料室	50	児童図書研究資料
貸出準備室	40	
玄関ロビー	100	喫煙コーナー、公衆電話、談話
その他	260	
小 計	1,750	
(2階)		
レファレンス室	530	レファレンス室用図書、書庫を含む
ハンディキャップサービスコーナー	150	録音室、対面朗読室を含む
おはなし室	40	
展示ホール	150	多目的ホール
事務室	300	印刷、ロッカー、倉庫等を含む
視聴覚作業室	70	フィルム、機材の修理、利用、保管
会議室	50	
その他	240	
小 計	1,530	
合 計	4,500	



2. 貸出制度と開館時間

調布市立図書館館則〈抜粋〉

(個人貸出)

第9条 館長は、図書資料を個人に貸出すことができる。

2. 図書資料の個人貸出しを受けようとする者は、個人登録票によらなければならない。
3. 個人登録票は調布市内に住居を有し、又は調布市内に通勤・通学している、身元確実な者に対し、本人の請求によりこれを交付する。
4. 個人登録票の有効期間は1年とする。
5. 個人登録票は貸与若しくは譲渡してはならない。貸与され、若しくは譲渡され、または紛失届の出された個人登録票は無効とする。
6. 個人貸出しの出来る図書資料は原則として2冊(部・種)とする。
7. 図書資料の貸出期間は14日以内とする。
8. 個人貸出しを受けようとする者に対する個人登録票は各館ごとに交付する。

(団体貸出)

第10条 図書資料の団体貸出しを受けようとするものは、団体登録票によらなければならない。

2. 団体登録票は社会教育団体、官公署、会社、学校等の代表者の申請により館長が審査の上適当と認めた場合に交付する。
3. 団体登録票の有効期間は1年とする。
4. 館長は、図書資料の団体貸出しを受けた機関、又は団体の代表者に対しその利用状況について報告を求めることができる。
5. 同時に団体貸出しのできる図書資料は原則として100冊(部・種)以内とする。
6. 同一の図書資料の団体貸出期間は3箇月以内とする。

図書の貸出冊数については、現行1人1回2冊という制限であるが今後更に検討し、早い機会に増冊していく方向である。



開館時間と休館日

館名	開館時間	休館日
中央館	日曜日 10時30分～17時30分	月曜日 第3日曜日 第4金曜日
	火・土曜日 12時00分～19時00分	
	水・木・金曜日 12時00分～17時30分	
分館	毎日 13時00分～17時00分	
	ただし若葉分館は日曜日のみ 10時30分～17時00分	

※ 休館日はこのほかに 国民の祝日(この日が月曜日の場合は翌日)
年末年始
臨時休館(その都度お知らせする)

各館の開館時間は、別表のように曜日によって異なっている。

中央館の場合は、週2回(火曜・土曜)夜間の利用者への配慮から開館時間を1時間30分延長している。

又、日曜日については、午前中からの利用にそなえ、中央館・若葉分館は、平常の開館時間を早やめ、午前10時30分から開館している。

今後の課題として、新中央館の開館を機に中央館の開館時間の延長を検討していく必要がある。

開館日数と開館時間

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
館名	22 (13)	23	24 (16)	24	25	22	23	23	22	20 (15)	21 (18)	24	273 日
中央館	83.5	143	150	159	189	137.5	144.5	141.5	137.5	125	130.5	151.5	1,692.5 時間
各分館	@	88	92	64	96	100	88	92	88	80 (60)	84 (72)	96	1,060 時間
	@x9館	792	828	576	864	900	792	828	828	792	744	864	8,508 時間
若葉分館	89.5	93.5	65.5	98	101.5	89.5	93.5	93.5	89.5	81.5	85.5	98	1,079 時間
計	233 965	253 971	256 791.5	264 1,121	275 1,190.5	242 1,019	253 1,066	253 1,063	242 1,019	215 906.5	228 960	264 1,113.5	2,978 12,186 日 時間

(注) 4月-中央館、6月-分館の曝書による臨時休館を行う。また、1~2月にかけて染地分館床張替工事による臨時休館を行った。→該当館()で示す。

3. 運営組織

1. 図書館運営に関する条例・規則は次のとおりである。

- (1) 調布市立図書館設置条例（昭和41年3月30日条例第10号）
- (2) 調布市立図書館館則（昭和41年3月30日教育委員会規則第1号）
- (3) 調布市立図書館処務規程（昭和41年3月30日教育委員会規則第1号）
- (4) 調布市立図書館職員の勤務時間・休憩時間等に関する規程（昭和41年4月16日教育委員会規程第4号）
- (5) 調布市視聴覚ライブラリー設置規則（昭和45年11月11日教育委員会規則第5号）
- (6) 調布市視聴覚ライブラリー運営要綱（昭和45年11月1日教育委員会要綱）
- (7) 調布市立図書館録音テープ図書貸出要綱（昭和56年7月25日教育委員会要綱第3号）
- (8) 調布市立図書館協力員の設置および勤務に関する内規（昭和50年4月1日教育委員会内規）
- (9) 調布市立図書館集会室使用基準（昭和57年9月1日教育委員会基準）

調布市立図書館処務規程〈抜粋〉

（係の設置）

第2条 館に次の係を置く。

- (1) 庶務係
- (2) 図書係

（分掌事務）

第3条 各係の分掌事務は、次のとおりとする。

庶務係

- (1) 公印の保管に関する事。
- (2) 文書の收受、発送に関する事。
- (3) 施設、設備の維持管理に関する事。
- (4) 企画運営統計及び調査に関する事。
- (5) 関係各機関との連絡に関する事。
- (6) 予算の編成及び執行に関する事。
- (7) 館内の取締りに関する事。
- (8) その他、他係に属さない事項に関する事。

図書係

- (1) 図書資料並びに視聴覚資料の収集、整理、保管及び利用に関する事。
- (2) 整本及び修理に関する事。

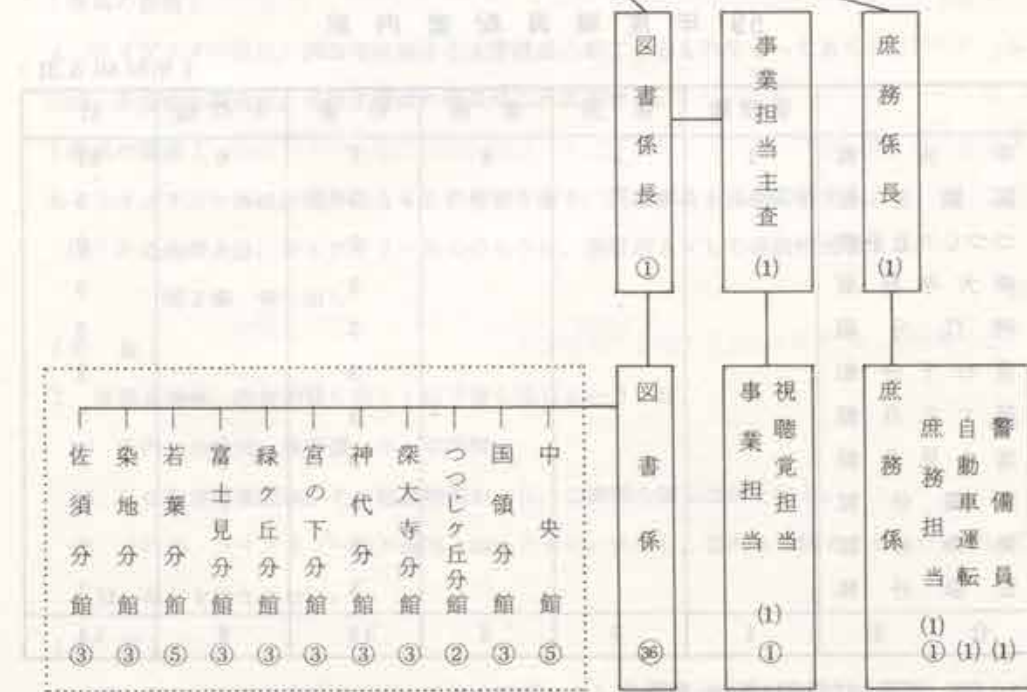
- (3) 読書案内及び読書相談に関する事。
- (4) 読書会、研究会、講演会、映写会、鑑賞会等の開催及び奨励に関する事。
- (5) 郷土資料に関する事。
- (6) 図書室の利用並びに管理に関する事。
- (7) 図書資料の相互貸借に関する事。

組 織 図



昭和60年3月31日現在

()内は事務職員数
○内は司書数



年度別職員数の推移

年度	名誉館長	館長	副館長	事務	中央館司書	分館司書	その他	計
41	1	(兼)1		2	2		1	7
42	1	1		2	4		1	9
43	1	1		3	4		2	11
44	1	1		4	4	2	2	14
45	1	1		4	4	4	2	16
46	1	1		3	4	8	2	19
47	1	1		5	5	10	3	25
48	1	1		5	6	10	4	27
49	1	1		6	5	18	6	37
50	1	1	1	7	5	20	8	43
51	1	1	1	7	6	20	7	43
52	1	1	1	7	6	22	6	44
53	1	1	1	7	6	23	8	47
54	1	1		7	6	24	8	47
55	1	1		7	6	27	8	50
56	1	1		8	6	27	7	50
57	1	1		6	8	30	7	53
58		1		6	8	31	8	54

59年度職員配置内訳

(昭和60.3.31)

	管理職	係長	事務	司書	その他	計
中央館	1	3	4	7	6	21
国領分館				3		3
つつじヶ丘分館				2		2
深大寺分館				3		3
神代分館				3		3
宮の下分館				3		3
緑ヶ丘分館				3		3
富士見分館				3	1	3
若葉分館				5	1	6
染地分館				3		3
佐須分館				3		3
合計	1	3	4	38	8	54

※ 事務とは司書以外の一般職員

※ その他とは協力員、委託要員、嘱託、社会教育指導員等

調布市視聴覚ライブラリー運営要綱

(昭和45年11月1日
教育委員会要綱)

第1章 総則

(目的)

1. この要綱は、調布市教育委員会規則に基づき、視聴覚ライブラリーの運営について必要な事項を定めることを目的とする。

(事業)

2. 調布市視聴覚ライブラリー(以下調布市AVLという)の事業は、おおむね次の事業とする。

- (1) 視聴覚教材、機材を収集、整理、保管し、その利用を図ること。
- (2) 調布市AVLの利用及び視聴覚教材、機材の利用に関し調査研究及び指導を行なうこと。
- (3) 試写会、鑑賞会、講習会、研究会等を行なうこと。
- (4) 16ミリ発声映写機の登録を行なうこと。
- (5) その他、前項に規定する設置目的達成に必要な事業を行なうこと。

(職員)

3. 調布市AVLに次の職員を置く。

- (1) ライブラリー長を置く。
- (2) 運営に必要な専任職員を置く。

(職員の資格)

4. ライブラリー長は、調布市に属する主管課長の職にあるものをもってあてる。

(2) その他の職員は、当該主管課の職員がこれにあたる。

(職員の職責)

6. ライブラリー長は、調布市AVLの事務を掌り、所属職員を指揮監督する。

(2) その他職員は、ライブラリー長の命をうけ、調布市AVLの事務に従事する。

第2章 貸し出し

(対象)

7. 視聴覚機材、教材の貸し出し(以下貸し出しという)は

- (1) 市内の幼稚園、保育園、小・中学校
- (2) 社会教育関係団体、その他公機関および、公機関の関係団体とする。
- (3) その他、ライブラリー長が適当と認められたもの。ただし、営利を目的とするものについては貸し出しを行なわない。

(範囲)

8. 貸し出しは1回の申込みについて次の範囲とする。ただし特別の理由の認められる場合はこ

の限りでない。

(1) 期間、貸し出しの日より3日以内

(2) 貸し出し品目及び制限数については別表のとおりとする(略)

(方法)

9. 貸し出しを受けようとするものは、あらかじめ連絡し、3日前までに様式第1号の「視聴覚教育教具、教材借用申請書」を提出すること。

(機材操作等について)

10. 16ミリ映写機ならびに16ミリ映画フィルムの操作をするものは16ミリ発声映写機操作講習会修了証の所持者もしくは、教育委員会の実施する一定の講習を受講し、技術検査に合格したものとす。

(転用の禁止)

11. 貸し出し機材等は転貸してはならない。

(使用料)

12. 貸し出しについては全て無料とする。ただし、利用者が貸し出し機材等を亡失し、または毀損した場合には現品または金銭をもって賠償することができる。

(貸し出しの禁止)

13. 貸し出しを受けたものが教育委員会の諸規程に違反した場合は以後そのものの申込みに対し、これを拒否することがある。

(返納及び報告)

14. 貸し出しを受けたものは貸し出し期間内に様式第2号「視聴覚教育機材利用報告書」又は様式第3号の「視聴覚教材利用報告書」を添えて返納しなければならない。

(2) 貸し出しを受けたものは、返納と同時に機材、教材の異常の有無について報告しなければならない。

(施行)

15. この要綱は、昭和45年11月1日より施行する。

調布市立図書館録音テープ図書貸出要綱

昭和56年7月25日
教育委員会要綱第3号

第1 目的

この要綱は、一般出版物のままでは図書資料を利用できない者に教養、調査、レクリエーション等に係る聴覚資料(以下「録音テープ図書」という。)を貸し出すことにより、図書館利用の拡大を図ることを目的とする。

第2 対象

録音テープ図書の貸出を受けることができる者(以下「利用者」という。)は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 視覚障害者
- (2) 寝たきり老人
- (3) 重度の肢体不自由者
- (4) 前各号に掲げるもののほか、図書館長が適当と認めたる者

第3 利用方法

録音テープ図書の利用方法は、調布市立図書館則(昭和41年調布市教育委員会規則第1号)第6条、第9条及び第10条の規定の例による。ただし、図書館長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

2 第2第1号に規定する者の利用方法は、郵便法(昭和22年法律第165号)第26条第1項第3号の規定により、差し出すことができる。

第4 損害賠償の義務

利用者は、録音テープ図書の利用に際し、当該録音テープ図書を故意又は重大な過失により、亡失又は著しく汚損若しくはき損した場合は、現品又は相当の代価をもって損害額を賠償しなければならない。

附 則 この要綱は、昭和56年8月1日から施行する。

調布市立図書館集会室使用基準

昭和57年9月1日
教育委員会基準

第1 この基準は、調布市立図書館集会室(以下「集会室」という。)の使用について、必要な事項を定めるものとする。

第2 集会室の名称及び収容人員は、次のとおりとする。

名 称	収 容 人 員
調布市立図書館深大寺分館集会室	30人
調布市立図書館神代分館集会室	30人
調布市立図書館宮の下分館集会室	40人
調布市立図書館富士見分館集会室	40人
調布市立図書館若葉分館集会室	55人

第3 集会室の使用時間は、休館日を除き、次のとおりとする。ただし、調布市立図書館長(以下「館長」という。)が、特に必要があると認めるときは、この限りでない。

	午 前	午 後	夜 間
時間	9時30分から 12時まで	1時から 5時まで	6時から 9時まで

備考 神代分館集会室及び若葉分館集会室は、夜間の使用ができないものとする。

第4 集会室を使用しようとする者は、使用申請書(第1号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 前項に規定する使用申請書の提出は、使用しようとする日(以下「使用日」という。)の1月前(その日が休館日に当たるときは、その直後の開館日)から、使用日の前日(その日が休館日に当たるときは、その前日)までとする。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

3 集会室の使用は、官公署及び市民団体並びに市民サークルが主催する会議又は催物とし、個人が主催する催物等は使用できないものとする。

第5 使用の承認は、申込みの順序による。ただし、申込みが同時のときは、協議若しくは抽せんにより定める。

2 館長は、第4の申請について使用を承認したときは、使用承認書(第2号様式)を当該申請をした者に交付する。

第6 使用の承認を受けた者(以下「使用者」という。)が第4の規定により承認を受けた事項を変更するときは、その内容を速やかに館長に届け出て、その承認を受けなければならない。

第7 館長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、その使用を承認しない。

- (1) 公益を害し、風俗を乱すおそれがあるとき。
- (2) 営利を目的として使用するとき。
- (3) 管理上支障があるとき。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、館長が使用を不相当と認めるとき。

第8 集会室の使用は、無料とする。

第9 使用者又は入場者は、係員の指示に従って、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 入場人員は、適正収容人員を標準とすること。
- (2) 施設及び設備の管理を適正に行うこと。
- (3) 火気又は電熱器等を使用するときは、あらかじめ係員の許可を受け、火災予防及び事故防止に万全を期すること。
- (4) 集会室での飲食はしないこと。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。
- (5) 館長の許可なく、物品を販売し、又は金品の寄附募集等を行わないこと。
- (6) 環境衛生上思わしくないものを持ち込み、又は使用しないこと。
- (7) 図書館利用者及び近隣住民の迷惑となるような行為を行わないこと。
- (8) 前各号に掲げるもののほか、館長が特に必要があると認めるとき。

第10 館長は、使用者が次の各号の一に該当すると認めるときは、使用の承認を取消し、又は使用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) 使用の目的に違反したとき
- (2) この基準、又は承認の条件に違反したとき。
- (3) 著しく騒音又は振動若しくは臭気を発する行為があったとき。
- (4) 災害その他の事故により、集会室の使用ができなくなったとき。
- (5) 工事その他の都合により、館長が特に必要があると認めるとき。

第11 第3に規定する集会室の夜間使用については、次の各号に掲げるところによる。

- (1) 使用者は、使用日午後5時までに係員と鍵の受渡しを行うこと。
- (2) 使用者は、集会室の使用を終了したときは、鍵を所定の位置へ返納すること。

第12 使用者は、集会室の使用を終了したときは、施設及び設備を原状に回復しなければならない。又、第10の規定により、使用を停止され、若しくは使用の承認を取り消されたときも同

様とする。

第13 使用者は、集会室の使用を終了したときは、使用報告書(第3号様式)を館長に提出しなければならない。

2 前項に規定する使用報告書は、使用終了後直ちに提出するものとする。又、夜間に使用した場合は、第11第2号に規定する鍵の返納と共に所定の位置に提出するものとする。

第14 使用者は、集会室の使用に際し、施設及び設備等に損害を生ぜしめた場合は、館長が相当と認める損害額を賠償しなければならない。ただし、館長がやむを得ない理由があると認めるときは、その額を減額し、又は免除することができる。

附 則

この基準は、昭和57年9月1日から施行する。

4. 事務分掌表

昭和60年6月1日現在

館長	係長	係名	分掌事務	職種	氏名	備考
	係長 坂内 宗男	庶務	予算の執行に関する事 館の管理に関する事 経理に関する事 広報に関する事 館内の庶務に関する事	司書 事務 (自動車手 運転)		
館長 森	主査 金沢 敬	事業	集会、行事に関する事 ブッククラブに関する事 視聴覚ライブラリーに関する事	事務 司書 (社会教育 指導員)		
			中央館の運営・管理 に関する事	司書 司書 司書 司書		布田4~17~5 (88)5181
	係長 正克	中央 図書館				
	座間 直社		障害者サービスに関する事 図書整理等	(嘱託) 委託 (協力員) (協力員)		
		書	国領分館の運営・管理 に関する事	司書 司書 司書		国領町3~12~1 (84)2000
		つつ つじ ヶ丘 館	つつじヶ丘分館の運営・管理 に関する事	司書 司書		西つつじヶ丘 4~23~6 (85)2000

館長	係長	係名	分掌事務	職種	氏名	備考
館長 森間直仕 克	係長 座 間 直 仕	函	深大寺分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書	■	深大寺北町 5-6-1 (85)3350
			神代分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書	■	西つつじヶ丘 1-40-2 (85)0054
			宮の下分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書	■	上石原 3-34-10 (86)5798
			緑ヶ丘分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書	■	緑ヶ丘2-25 03(300) 7672
			富士見分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書	■	富士見町 2-3-26 (85)4376
			若葉分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書 司書	■	若葉町 3-16-13 03(309) 3411
			染地分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書 (協力員)	■	染地3-3-1 (88)8393
			佐須分館の運営・管理に関する事	司書 司書 司書	■	佐須町 4-42-2 (85)1306

X 年 表

昭和59年度のあゆみ

59. 4. 1 貸出券更新 (分館共通印刷)
- 1 協力員委嘱 3名 (川端 澄、井出千代子、橋本京子)
- 10 特別整理(曝書) 中央館~4.20まで
亡失図書2,182冊 亡失率 3.0%
- 16 職員人事異動 庶務係長 1名
新入職員(司書)1名(増員)
- 20 小学読書会会員募集
- 20 朗読ボランティアの集い
- 26 講演会 (太田 亮)
5. 16 調布市行政改革、事務事業の見直し提案
- 23 朗読講習会 (山口真理子)
- 30 調布ブッククラブ世話人会
6. 6 事務事業の見直し検討(ブロック会議)
- 7 中級点訳ボランティア養成講座~11.15まで(延べ10回)
- 9 第二次新中央館計画委員会発足
- 12 特別整理(曝書) 国領、宮の下、富士見、染地、~6.22まで
亡失図書589冊 亡失率0.56%
- 15 調布市第三次基本計画原案 提出
- 15 図書館だより 第104号発行「目の不自由な人々の読書環境」
- 18 館内消毒(全館)
- 20 調布ブッククラブ総会
- 20 座談会 (杉山義法)
- 22 第13回教育講座 (若林繁太)
- 26 教育講座 (伊藤隆二)
- 26 16mm映写機操作講習会(午前の部)受講者38名 ~6.30まで
- 30 朗読講習会 (出木場茂樹) 第2日目 7.7

59. 6. 30 中央大学司書課程学生見学 30名
7. 1 中学生通信「ぶちねこ便」創刊
- 4 16mm 映写機検査 検査台数 68台 ～7.7まで
夏休向けリスト(小学生用)発行
中学生向けリスト「中学生の君たちへ'84」発行
- 21 夏期特別開館(中央館) ～8.3まで 協力:白百合女子大学
- 31 実習生受入(慶応大学 3年) 2名 ～8.12まで
8. 1 調布の民話集発刊(調布ブッククラブ)
- 2 16mm 映写機操作講習会(夜間の部)受講者21名 ～8.7まで
- 15 図書館だより第105号発行「戦争と図書館」
9. 8 時局講演会(佐藤藤三郎)
- 25 講演会(山本茂實)
10. 11 茨城県巡回文庫運営協議会より視察
- 13 講演会(大野 晋)
- 19 防火訓練
- 23 講演会(久保田正文)
- 31 図書館だより第106号発行「私たちの足京王線の本」
幼年リスト編集会議発足
11. 1 深大寺分館地番改正 深大寺北町5-6-1
- 2 地域講演会(高 史明) 八雲台小学校
- 7 講演会(百目鬼恭三郎)
- 9 第10回児童文学講座(工藤直子) 二日目 11.16
- 17 朗読講習会(市橋正晴)
- 30 協力員(川端 登)退任
12. 1 協力員委嘱 1名(木田じゅん子)
- 5 講演会(喜多川周之)

59. 12. 6 世田谷区立図書館より視察
- 8 高架下資料保存庫建設工事着工(久保工務店)
- 8 白百合女子大学司書課程学生見学研修 60名
- 18 年末特別貸出開始 ～12.27まで
図書原簿製本委託(全館)
- 20 図書館だより第107号発行「視聴覚ライブラリーを考える」
- 25 日本の心の歌とアフリカの飢餓を考える集い(調布ブッククラブ共催)
60. 1. 17 手袋人形講習会(三木和子)
- 19 調布ブッククラブ世話人会
- 25 染地分館床面張替工事のための臨時休館 ～2.4まで
- 25 市川市教育委員会より視察
- 31 朗読講習会(指田忠司)
2. 1 第13回図書館まつり開催 ～3.5まで
- 5 徳島県立図書館より視察
- 15 図書館だより第108号発行「本との出会いを図書館で」
- 16 和歌山市議会議員行政視察
- 25 調布市基本計画要綱(60年度～65年度)
及び第三次基本計画主要施策計画概要 作成
- 26 実習生受入れ(東京学芸大学 3年)2名 ～3.10まで
- 28 昭和60年度図書館活動計画策定
分館周辺道路に道案内看板設置(6館)
館名表示等看板作成(中央、国領、神代、若葉、佐須)
3. 6 調布ブッククラブ世話人会
- 25 図書館だより第109号発行「第13回図書館まつり」
- 25 高架下資料保存庫完成
- 31 職員の退職 2名(司書1名、警備員1名)
- 31 嘱託職員(萩原祥三)退任

